

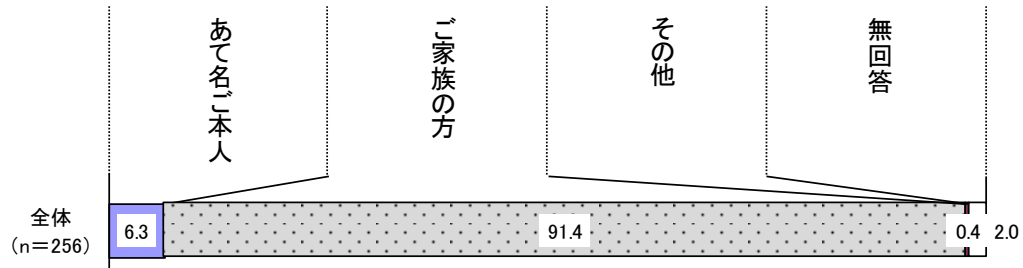
第2章

18歳未満の方を対象にした調査

1 本人について

(1) 調査票の回答者

問1 この調査票に回答していただく方はどなたですか。(〇はひとつ)



調査の回答者は、「ご家族の方」が91.4%と9割を超えており、「あて名ご本人」は6.3%となっています。

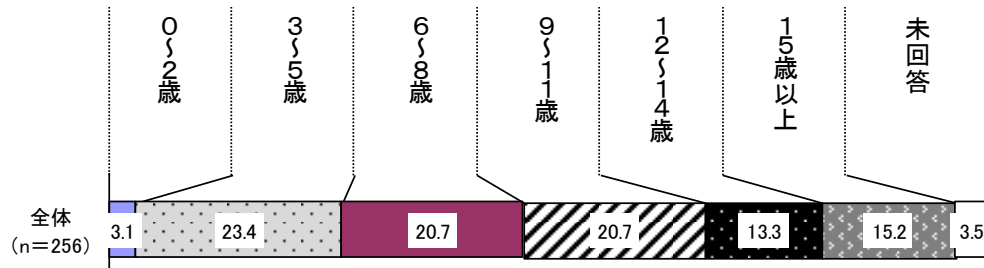
【クロス集計】障害別

(単位: %)	n	あて名ご本人	ご家族の方	その他	無回答
全体	256	6.3	91.4	0.4	2.0
肢体不自由	33	6.1	93.9	0.0	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	19	0.0	100.0	0.0	0.0
視覚障害	15	6.7	86.7	0.0	6.7
聴覚・平衡機能障害	6	0.0	100.0	0.0	0.0
内部障害	19	5.3	94.7	0.0	0.0
知的障害	123	4.9	91.9	0.0	3.3
発達障害	136	5.9	91.9	0.7	1.5
精神障害	4	0.0	100.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	3	0.0	100.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	14	14.3	85.7	0.0	0.0
その他	5	0.0	100.0	0.0	0.0

障害別にみると、いずれの障害も「ご家族の方」が8割以上で最も高くなっています。“難病(特定疾病)”では「あて名ご本人」が14.3%と1割を超え、他の障害に比べ突出して高くなっています。

(2) 年齢

問2 あなたの年齢をお聞きします。**令和元年10月1日現在の満年齢**をお書きください。



障害者本人の年齢は、「3～5歳」が23.4%と最も高く、次いで「6～8歳」と「9～11歳」がともに20.7%、「15歳以上」が15.2%、「12～14歳」が13.3%、「0～2歳」が3.1%と続いています。

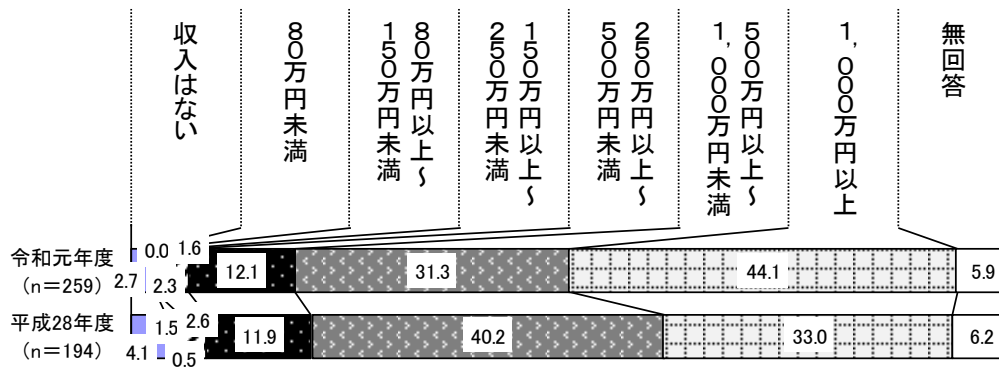
【クロス集計】障害別

(単位: %)		n	0～2歳	3～5歳	6～8歳	9～11歳	12～14歳	15歳以上	無回答
全体		256	3.1	23.4	20.7	20.7	13.3	15.2	3.5
障害別	肢体不自由	33	6.1	24.2	12.1	24.2	15.2	15.2	3.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	19	5.3	36.8	10.5	10.5	10.5	26.3	0.0
	視覚障害	15	6.7	20.0	20.0	26.7	6.7	20.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	6	33.3	50.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0
	内部障害	19	26.3	26.3	15.8	5.3	10.5	15.8	0.0
	知的障害	123	2.4	19.5	16.3	24.4	15.4	20.3	1.6
	発達障害	136	0.7	22.1	26.5	21.3	14.0	10.3	5.1
	精神障害	4	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	50.0	0.0
	高次脳機能障害	3	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0
	難病(特定疾病)	14	0.0	28.6	0.0	21.4	21.4	28.6	0.0
その他	5	0.0	60.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	

障害別にみると、「0～2歳」では“聴覚・平衡機能障害”と“内部障害”で2割半ばを超えて他の障害に比べ突出して高くなっています。他方、“精神障害”、“高次脳機能障害”、“難病(特定疾病)”、“その他”は「0～2歳」は0.0%となっており、特に“精神障害”では0～8歳にかけて0.0%となっています。

(3) 世帯年収

問3 **保護者の方にお聞きします。**世帯の年収額を税金等を差し引く前の額でお答えください。(〇はひとつ)



世帯年収は、「1,000万円以上」が44.1%と最も高く、次いで「500万円以上～1,000万円未満」が31.3%と続いており、500万円以上で全体の7割半ばを占めています。

平成28年度と比較すると、「1,000万円以上」が11.1ポイント上がっていますが、500万円以上の割合はあまり変化ありません。

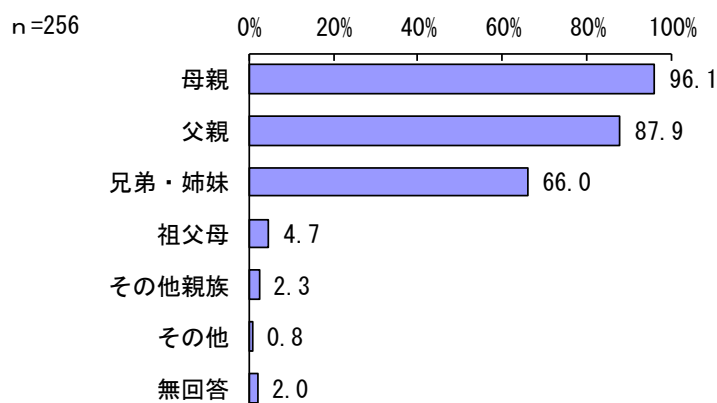
【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	収入はない	80万円未満	80万円以上～150万円未満	150万円以上～250万円未満	250万円以上～500万円未満	500万円以上～1,000万円未満	1,000万円以上	無回答
全体	256	2.7	0.0	2.3	1.6	12.1	31.3	44.1	5.9
障害別									
肢体不自由	33	0.0	0.0	3.0	0.0	9.1	39.4	39.4	9.1
音声・言語・そしゃく機能障害	19	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	36.8	57.9	0.0
視覚障害	15	0.0	0.0	0.0	0.0	13.3	40.0	40.0	6.7
聴覚・平衡機能障害	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
内部障害	19	5.3	0.0	0.0	0.0	15.8	21.1	52.6	5.3
知的障害	123	2.4	0.0	0.8	0.8	11.4	27.6	50.4	6.5
発達障害	136	3.7	0.0	2.9	2.2	8.1	31.6	47.8	3.7
精神障害	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
高次脳機能障害	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0
難病(特定疾病)	14	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	50.0	35.7	0.0
その他	5	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	20.0	40.0	0.0

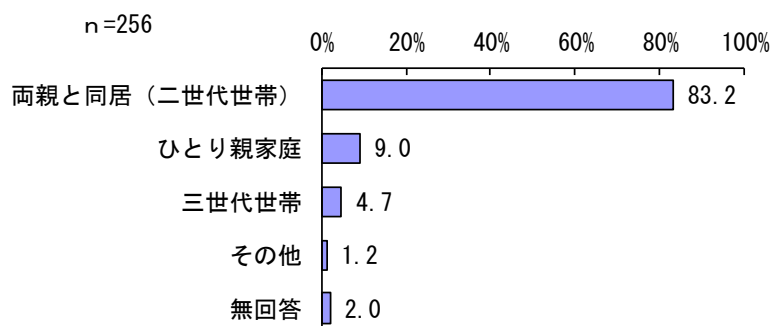
障害別にみると、いずれの障害も「1,000万円以上」か「500万円以上～1,000万円未満」が最も高くなっています。

(4) 同居家族

問4 あなたの同居家族をお聞きます。(あてはまるものすべてに○)



同居している家族は、「母親」が96.1%と9割半ばを超えて最も高く、次いで「父親」が87.9%、「兄弟・姉妹」が66.0%で続いています。

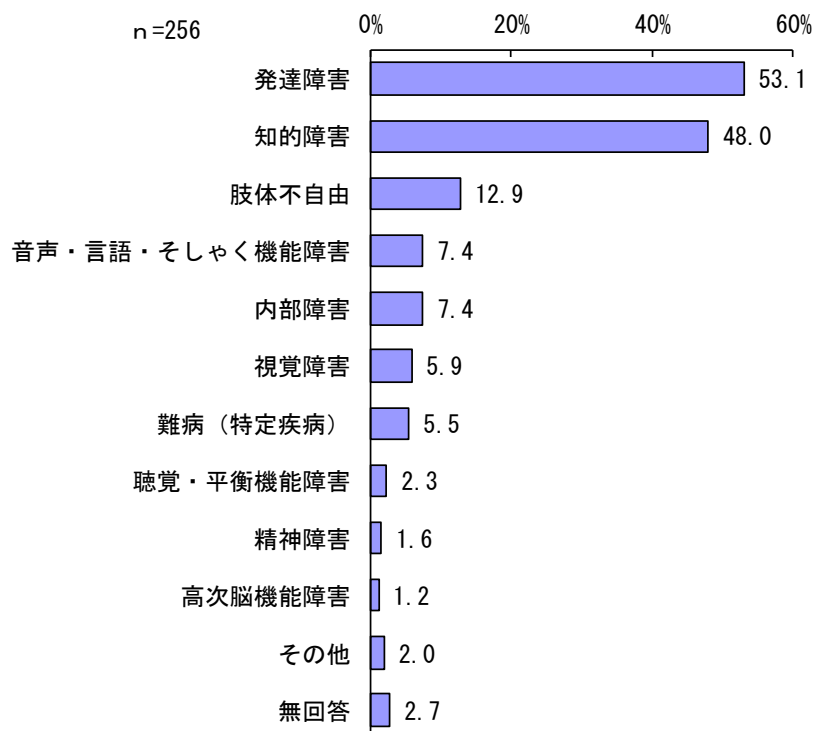


同居家族の世帯を4区分に分けてみると、「両親と同居 (二世世代世帯)」が83.2%と8割を超えて突出して高くなっています。

2 障害と健康について

(1) 障害の種別

問5 あなたには、次の障害等がありますか。(あてはまるものすべてに○)

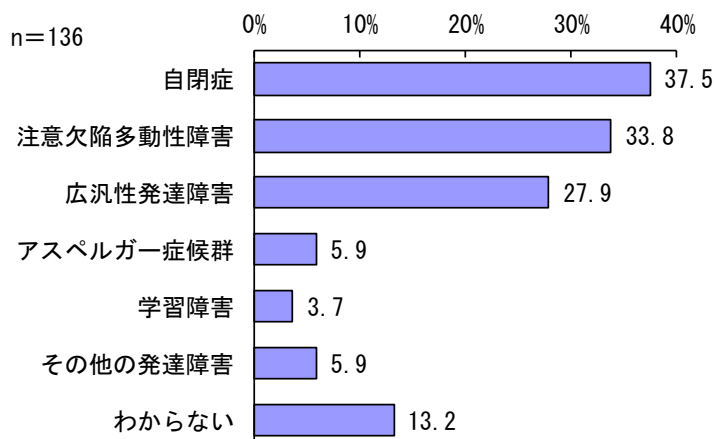


障害の種類は、「発達障害」が53.1%と5割を超えて最も高く、次いで「知的障害」が48.0%、「肢体不自由」が12.9%と続いています。それ以外の障害はいずれも1割を切っています。

(2) 発達障害診断名

問5で「発達障害（自閉症、アスペルガー症候群等）」と回答された方にお聞きします。

問5-1 発達障害の診断名をお答え下さい。（あてはまるものすべてに○）



発達障害の診断名は、「自閉症」が37.5%と3割半ばを超えて最も高く、次いで「注意欠陥多動性障害」が33.8%、「広汎性発達障害」が27.9%と続いています。

(3) 難病疾病名

問5で「発達障害（自閉症、アスペルガー症候群等）」と回答された方にお聞きします。

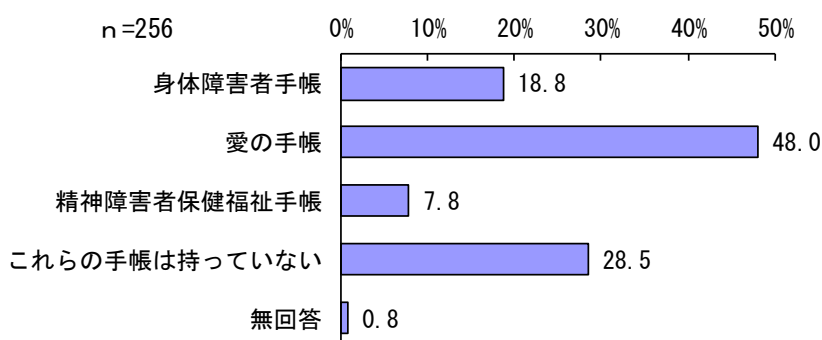
問5-2 病名（東京都発行の難病医療費等助成制度の医療券もしくは診断書に記載されている病名）等をお答え下さい。

難病の疾病名は下表の通りです。

疾病名	件数
CFC 症候群	1
デュシャンヌ型筋ジストロフィー	1
歌舞伎症候群	1
自閉症スペクトラム障害	1
片側巨脳症	1
潰瘍性大腸炎	1
アンジェルマン症候群	1

(4) 手帳の種類

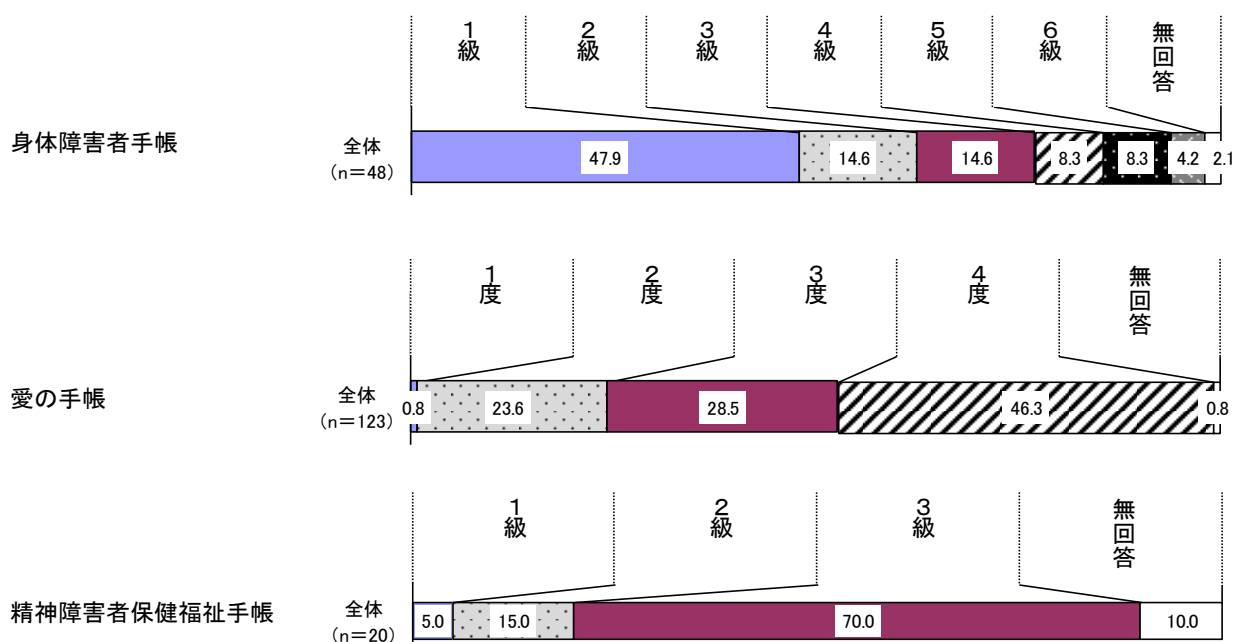
問6 あなたが持っている手帳の種類をお聞きします。手帳をお持ちの方は、等級・程度にも○をつけてください。(あてはまるものすべてに○)



手帳の所持状況は、「愛の手帳」が48.0%と5割近くで最も高く、次いで「身体障害者手帳」が18.8%、「精神障害者保健福祉手帳」が7.8%と続いています。

一方、「これらの手帳は持っていない」は28.5%と全体の3割近くを占めます。

【各等級別】



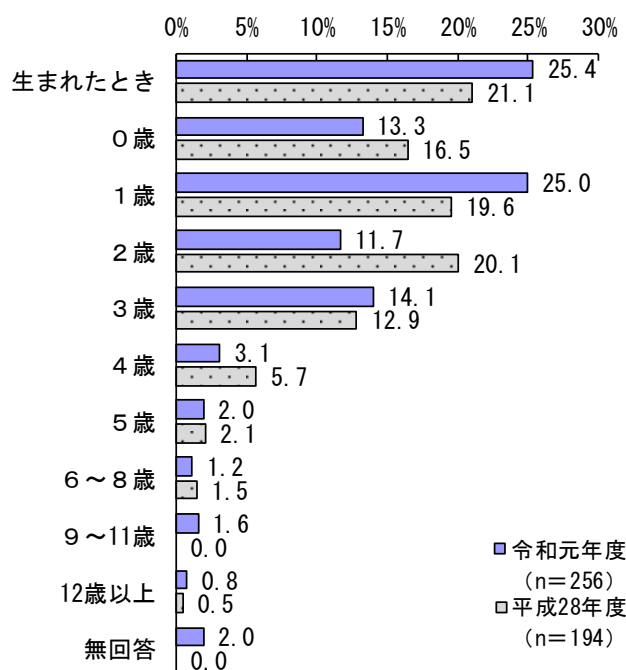
身体障害者手帳の等級は、「1級」が47.9%と最も高く、次いで「2級」と「3級」がともに14.6%、「4級」と「5級」がともに8.3%と続いています。

愛の手帳の等級は、「4度」が46.3%と最も高く、次いで「3度」が28.5%、「2度」が23.6%と続いています。

精神障害者保健福祉手帳は、「3級」が70.0%と最も高く、次いで「2級」が15.0%、「1級」が5.0%と続いています。

(5) 障害に気づいた時期

問7 **保護者の方にお聞きします。**お子さんの障害や心身の不調について、最初に気づいた時期はいつですか。(〇はひとつ)



保護者が障害に気づいた時期は、「生まれたとき」が25.4%、「1歳」が25.0%とそれぞれ全体の4分の1を占めて高く、次いで「3歳」が14.1%、「0歳」が13.3%、「2歳」が11.7%と1割台で続いており、出生時から3歳までで全体の約9割を占めています。

平成28年度と比較すると、年齢ごとの増減はありますが、出生時から3歳までで全体の約9割を占めていることについては変わりません。

【クロス集計】障害別

(単位：%)	n	生まれたとき	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳
全体	256	25.4	13.3	25.0	11.7	14.1	3.1
障害別							
肢体不自由	33	45.5	30.3	12.1	3.0	0.0	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	19	36.8	26.3	21.1	5.3	0.0	5.3
視覚障害	15	53.3	26.7	20.0	0.0	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	6	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0
内部障害	19	78.9	10.5	5.3	0.0	0.0	0.0
知的障害	123	37.4	11.4	28.5	10.6	7.3	2.4
発達障害	136	2.2	11.8	33.1	16.2	22.1	5.9
精神障害	4	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	3	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0
難病（特定疾病）	14	28.6	42.9	14.3	0.0	0.0	0.0
その他	5	40.0	0.0	40.0	0.0	20.0	0.0

(単位：%)	n	5歳	6～8歳	9～11歳	12歳以上	無回答
全体	256	2.0	1.2	1.6	0.8	2.0
障害別						
肢体不自由	33	6.1	0.0	0.0	0.0	3.0
音声・言語・そしゃく機能障害	19	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0
視覚障害	15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
内部障害	19	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3
知的障害	123	0.8	0.8	0.0	0.0	0.8
発達障害	136	2.2	1.5	2.9	0.7	1.5
精神障害	4	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	14	0.0	0.0	0.0	7.1	7.1
その他	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

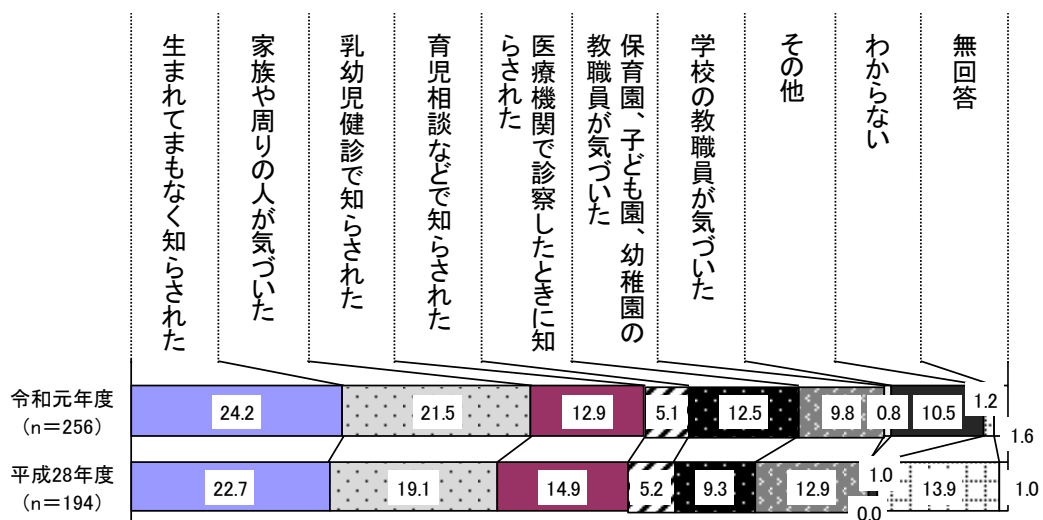
障害別にみると、“発達障害”では「1歳」で33.1%と3割を超えて最も高く、「3歳」でも22.1%と他の障害に比べ高くなっています。

“精神障害”、“高次脳機能障害”、“難病（特定疾病）”では「0歳」が最も高くなっています。

それ以外の障害では「生まれたとき」が最も高くなっています。

(6) 障害に気づいた状況

問8 **保護者の方にお聞きします。**お子さんの障害や心身の不調についてはじめてわかったのは、どのようなときでしたか。(〇はひとつ)



保護者が障害に気づいた状況は、「生まれてまもなく知らされた」が24.2%と最も高く、次いで「家族や周りの人が気づいた」が21.5%、「乳幼児健診で知らされた」が12.9%、「医療機関で診察したときに知らされた」が12.5%と続いています。

平成28年度と比較すると、「医療機関で診察したときに知らされた」が3.2ポイント、「家族や周りの人が気づいた」が2.4ポイント上がっています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	生まれてまもなく知らされた	家族や周りの人が気づいた	乳幼児健診で知らされた	育児相談などで知らされた	医療機関で診察したときに知らされた	
全体	256	24.2	21.5	12.9	5.1	12.5	
障害別	肢体不自由	33	48.5	9.1	6.1	0.0	18.2
	音声・言語・そしゃく機能障害	19	36.8	26.3	10.5	0.0	15.8
	視覚障害	15	53.3	26.7	0.0	0.0	20.0
	聴覚・平衡機能障害	6	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	内部障害	19	68.4	0.0	5.3	0.0	10.5
	知的障害	123	35.0	18.7	12.2	3.3	14.6
	発達障害	136	1.5	33.8	19.1	6.6	8.8
	精神障害	4	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	高次脳機能障害	3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
	難病（特定疾病）	14	28.6	21.4	0.0	0.0	28.6
その他	5	20.0	20.0	0.0	20.0	20.0	

(単位:%)	n	保育園、子ども園、幼稚園の教職員が気づいた	学校の教職員が気づいた	その他	わからない	無回答	
全体	256	9.8	0.8	10.5	1.2	1.6	
障害別	肢体不自由	33	3.0	0.0	12.1	0.0	3.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	19	0.0	0.0	10.5	0.0	0.0
	視覚障害	15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	内部障害	19	0.0	0.0	15.8	0.0	0.0
	知的障害	123	6.5	0.8	7.3	0.8	0.8
	発達障害	136	14.7	1.5	12.5	0.7	0.7
	精神障害	4	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	高次脳機能障害	3	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	14	0.0	0.0	14.3	0.0	7.1
その他	5	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

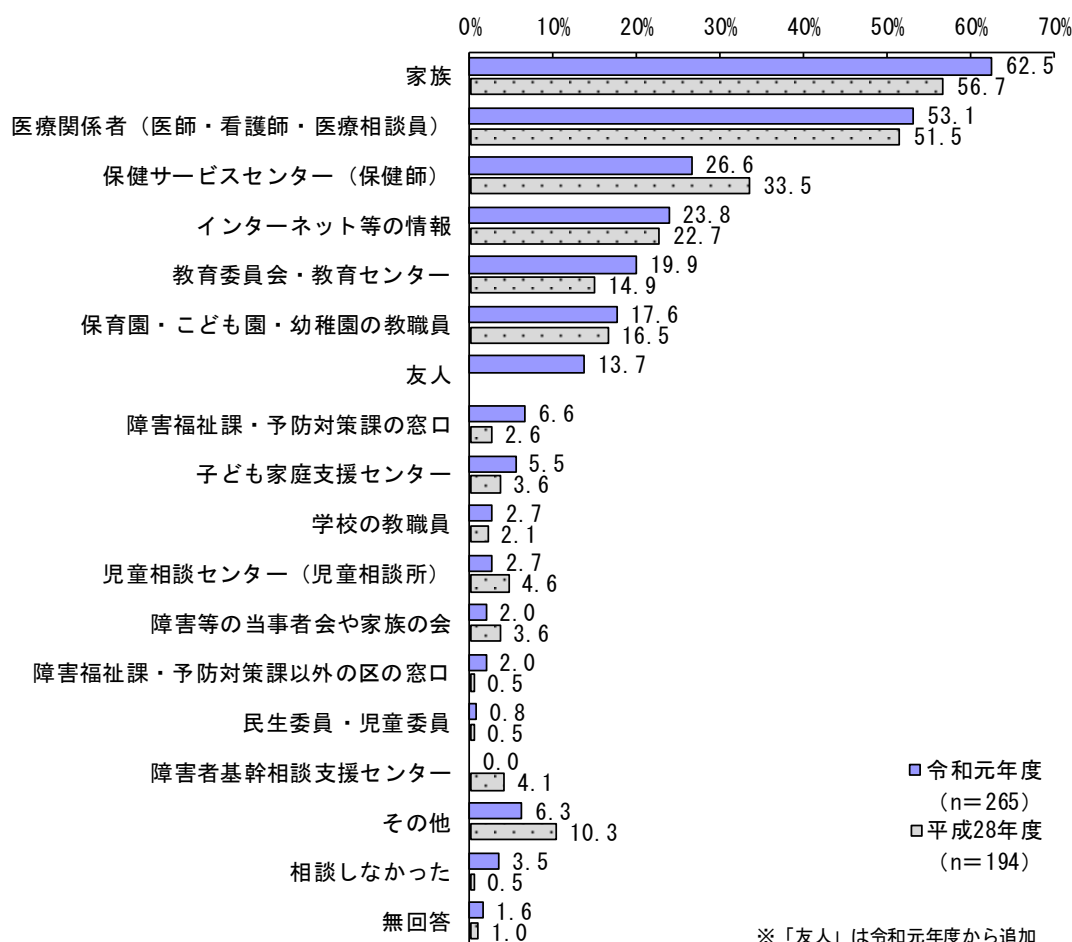
障害別にみると、“発達障害”や“精神障害”では「家族や周りの人が気づいた」が最も高くなっています。

それ以外の障害では「生まれてまもなく知らされた」が最も高くなっています。

“高次脳機能障害”や“難病（特定疾病）”では「医療機関で診察したときに知らされた」が3割前後で高くなっています。

(7) 障害に気づいたときの相談相手

問9 **保護者の方にお聞きします。**お子さんの障害や心身の不調についてはじめてわかったとき、誰に相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)



障害に気づいたときの相談相手は、「家族」が62.5%と6割を超えて最も高く、次いで「医療関係者 (医師・看護師・医療相談員)」が53.1%、「保健サービスセンター (保健師)」が26.6%、「インターネット等の情報」が23.8%と続いています。

平成28年度と比較すると、「保健サービスセンター (保健師)」が6.9ポイント、「障害者基幹相談支援センター」が4.1ポイント下がって、「家族」が5.8ポイント、「教育委員会・教育センター」が5.0ポイント上がっています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	家族	友人	学校の教職員	保育園・こども園・幼稚園の教職員	民生委員・児童委員	障害等の当事者会や家族の会
全体	256	62.5	13.7	2.7	17.6	0.8	2.0
障害別							
肢体不自由	33	63.6	6.1	0.0	0.0	0.0	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	19	73.7	10.5	0.0	0.0	0.0	5.3
視覚障害	15	66.7	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	6	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
内部障害	19	78.9	10.5	0.0	0.0	0.0	10.5
知的障害	123	71.5	11.4	0.0	11.4	0.8	3.3
発達障害	136	58.1	15.4	4.4	27.9	1.5	0.0
精神障害	4	75.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	14	71.4	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0
その他	5	60.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0

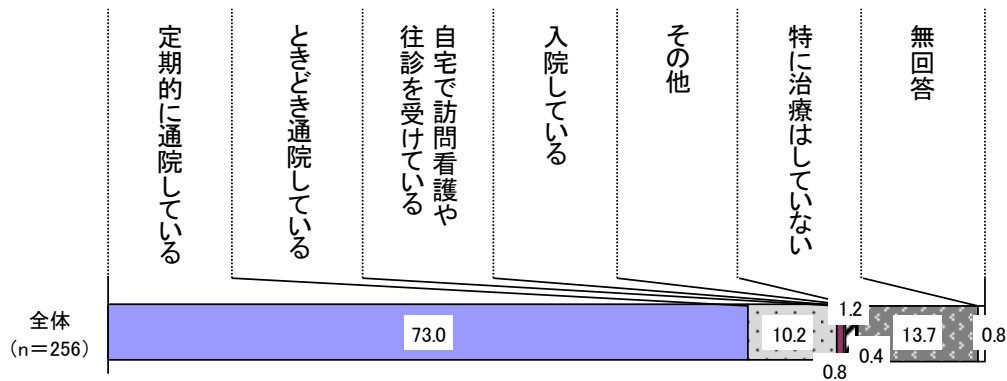
(単位:%)	n	医療関係者（医師・看護師・医療相談員）	障害福祉課・予防対策課の窓口	障害福祉課・予防対策課以外の区の窓口	保健サービスセンター（保健師）	障害者基幹相談支援センター	子ども家庭支援センター
全体	256	53.1	6.6	2.0	26.6	0.0	5.5
障害別							
肢体不自由	33	78.8	3.0	0.0	9.1	0.0	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	19	84.2	10.5	5.3	15.8	0.0	5.3
視覚障害	15	86.7	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	6	66.7	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0
内部障害	19	57.9	10.5	0.0	15.8	0.0	0.0
知的障害	123	59.3	5.7	2.4	28.5	0.0	2.4
発達障害	136	47.1	8.1	2.2	30.9	0.0	9.6
精神障害	4	100.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	3	100.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	14	85.7	7.1	0.0	7.1	0.0	0.0
その他	5	20.0	20.0	0.0	40.0	0.0	0.0

(単位:%)	n	教育委員会・教育センター	児童相談センター（児童相談所）	インターネット等の情報	その他	相談しなかった	無回答
全体	256	19.9	2.7	23.8	6.3	3.5	1.6
障害別							
肢体不自由	33	9.1	0.0	27.3	0.0	3.0	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	19	10.5	5.3	36.8	5.3	0.0	0.0
視覚障害	15	6.7	0.0	26.7	0.0	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	6	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0
内部障害	19	0.0	0.0	31.6	0.0	5.3	0.0
知的障害	123	10.6	1.6	24.4	4.9	4.1	1.6
発達障害	136	28.7	5.1	27.9	9.6	2.2	0.7
精神障害	4	25.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	14	7.1	0.0	35.7	0.0	0.0	7.1
その他	5	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0

障害別にみると、いずれの障害でも「家族」と「医療関係者（医師・看護師・医療相談員）」が他の項目よりも高くなっています。

(8) 受診状況

問10 あなたの受診状況等（歯科医療も含む）をお聞きます。（○はひとつ）



医療機関への受診状況は、「定期的に通院している」が73.0%と7割を超えて最も高くなっています。一方「特に治療はしていない」は13.7%となっています。

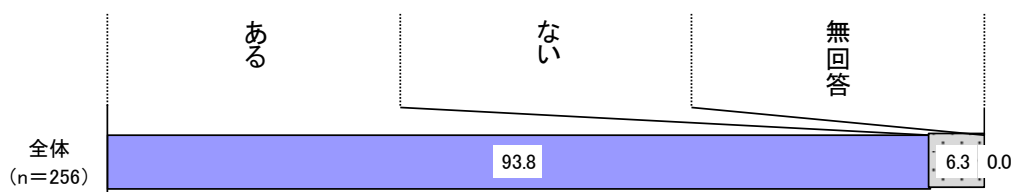
【クロス集計】障害別

(単位: %)	n	定期的に通院している	ときどき通院している	自宅で訪問看護や往診を受けている	入院している	その他	特に治療はしていない	無回答
全体	256	73.0	10.2	0.8	1.2	0.4	13.7	0.8
障害別								
肢体不自由	33	78.8	0.0	6.1	6.1	3.0	6.1	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	19	89.5	0.0	0.0	5.3	0.0	5.3	0.0
視覚障害	15	86.7	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	6	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
内部障害	19	94.7	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0
知的障害	123	82.9	8.9	0.0	0.0	0.0	7.3	0.8
発達障害	136	66.9	11.8	0.0	0.7	0.0	19.1	1.5
精神障害	4	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	3	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	14	92.9	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	5	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0

障害別にみると、いずれの障害でも「定期的に通院している」が6割以上で最も高くなっています。「特に治療はしていない」は“発達障害”と“その他”で2割前後と、他の障害に比べ高くなっています。

(9) かかりつけ医療機関の有無

問11 あなたはかかりつけの医療機関がありますか。（○はひとつ）

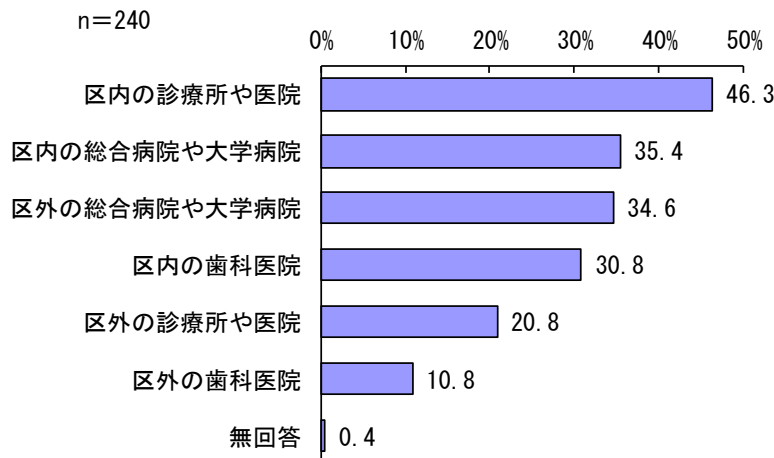


かかりつけ医療機関の有無は、「ある」が93.8%と9割を超えており、「ない」が6.3%となっています。

(10) 受診している医療機関

問 11 でかかりつけ医療機関が「ある」と回答された方にお聞きします。

問 12 どのような医療機関ですか。(あてはまるものすべてに○)



かかりつけの医療機関は、「区内の診療所や医院」が 46.3%と 4 割半ばを超えて最も高く、次いで「区内の総合病院や大学病院」が 35.4%、「区外の総合病院や大学病院」が 34.6%と 3 割半ば前後で続いています。

【クロス集計】障害別

(単位: %)	n	区内の診療所や医院	区内の歯科医院	区内の総合病院や大学病院	区外の診療所や医院	区外の歯科医院	区外の総合病院や大学病院	無回答
全体	240	46.3	30.8	35.4	20.8	10.8	34.6	0.4
障害別								
肢体不自由	32	18.8	12.5	46.9	9.4	15.6	59.4	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	19	15.8	21.1	42.1	15.8	21.1	57.9	0.0
視覚障害	15	26.7	13.3	40.0	20.0	0.0	53.3	0.0
聴覚・平衡機能障害	6	16.7	0.0	66.7	0.0	0.0	50.0	0.0
内部障害	19	26.3	10.5	78.9	5.3	0.0	36.8	0.0
知的障害	120	43.3	34.2	41.7	20.8	15.8	40.0	0.0
発達障害	124	54.8	35.5	24.2	29.8	9.7	24.2	0.8
精神障害	4	25.0	0.0	0.0	50.0	25.0	25.0	0.0
高次脳機能障害	3	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	100.0	0.0
難病(特定疾病)	14	7.1	7.1	42.9	14.3	21.4	57.1	0.0
その他	5	80.0	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0

障害別にみると、“知的障害”、“発達障害”、“その他”では、「区内の診療所や医院」が最も高くなっています。

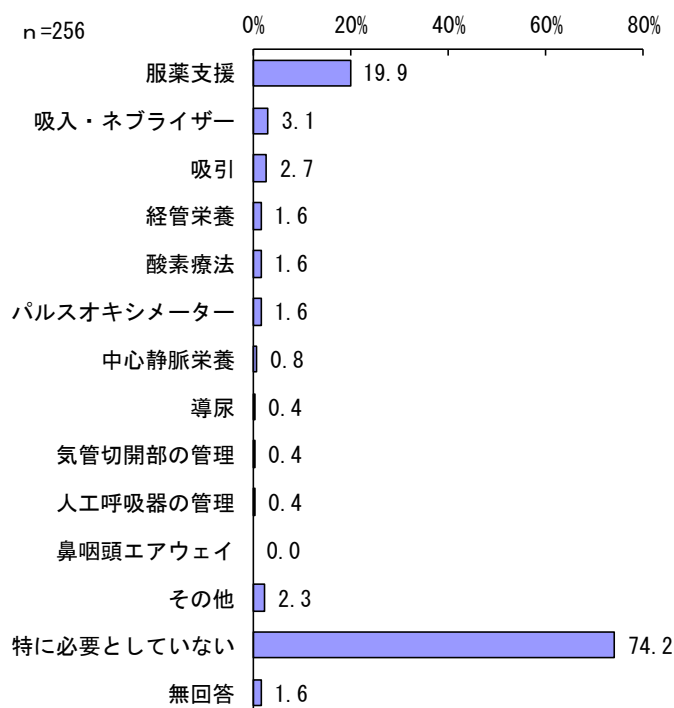
“聴覚・平衡機能障害”と“内部障害”では、「区内の総合病院や大学病院」が最も高くなっています。

“精神障害”では「区外の診療所や医院」が最も高くなっています。

それ以外の障害では、「区外の総合病院や大学病院」が最も高くなっています。

(11) 必要な医療的ケア

問 13 あなたが必要とする医療的ケアをお聞きします。(あてはまるものすべてに○)



必要とする医療的ケアは、「服薬支援」が 19.9%と 2割で最も高く、それ以外の項目はいずれも 1割を切っています。

一方、「特に必要としていない」は 74.2%と 7割半ば近くを占めています。

【クロス集計】年代別

(単位: %)		n	服薬支援	吸引	吸入・ネブライザー	経管栄養	中心静脈栄養	導尿	酸素療法
全体		256	19.9	2.7	3.1	1.6	0.8	0.4	1.6
年代別	0～2歳	8	37.5	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	12.5
	3～5歳	60	16.7	1.7	6.7	0.0	1.7	0.0	5.0
	6～8歳	53	17.0	3.8	0.0	1.9	0.0	1.9	0.0
	9～11歳	53	15.1	1.9	1.9	1.9	0.0	0.0	0.0
	12～14歳	34	26.5	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0
	15歳以上	39	25.6	5.1	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0

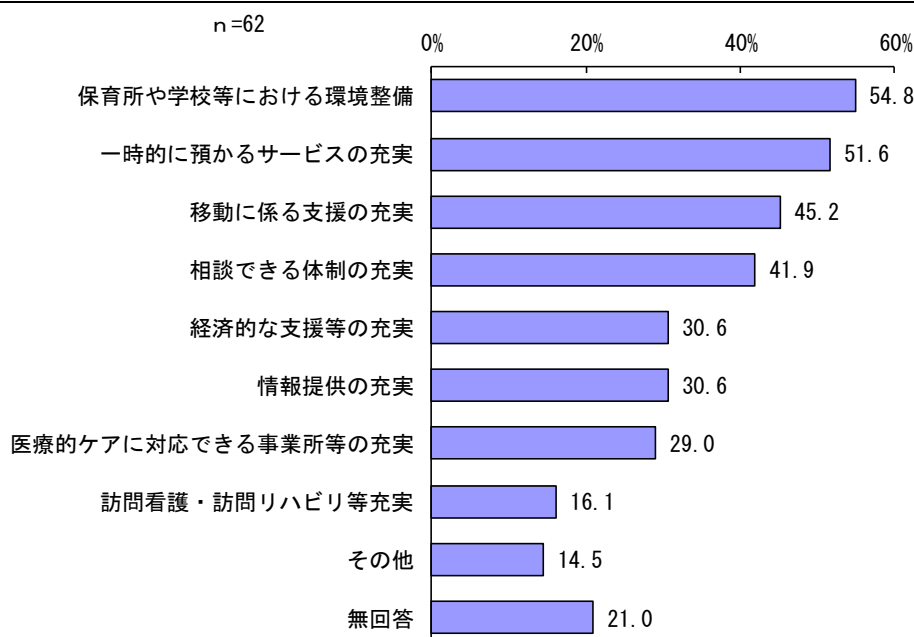
(単位: %)		n	鼻咽喉頭エアウェイ	パルスオキシメーター	気管切開部の管理	人工呼吸器の管理	その他	特に必要としていない	無回答
全体		256	0.0	1.6	0.4	0.4	2.3	74.2	1.6
年代別	0～2歳	8	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	3～5歳	60	0.0	3.3	0.0	0.0	1.7	75.0	0.0
	6～8歳	53	0.0	0.0	0.0	0.0	5.7	77.4	0.0
	9～11歳	53	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	79.2	1.9
	12～14歳	34	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	70.6	2.9
	15歳以上	39	0.0	2.6	2.6	2.6	0.0	69.2	5.1

年代別にみると、いずれの年代も“特に必要としていない”と“服薬支援”が高くなっています。

(12) 医療的ケア児やその介助者のために必要な支援策

問 13 で「特に必要としていない」以外を回答された方にお聞きします。

問 13-1 あなたやあなたの介助者のために、どのような支援が必要ですか。(あてはまるものすべてに○)



医療的ケア児や介助者のために必要な支援策は、「保育所や学校等における環境整備」が 54.8%、「一時的に預かるサービスの充実」が 51.6%と 5 割を超えて高く、次いで「移動に係る支援の充実」が 45.2%、「相談できる体制の充実」が 41.9%と 4 割を超えています。

【クロス集計】年代別

(単位: %)		n	一時的に預かるサービスの充実	移動に係る支援の充実	保育所や学校等における環境整備	経済的な支援等の充実	医療的ケアに対応できる事業所等の充実
全体		62	51.6	45.2	54.8	30.6	29.0
年代別	0～2歳	4	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
	3～5歳	15	46.7	33.3	66.7	33.3	33.3
	6～8歳	12	41.7	50.0	66.7	33.3	8.3
	9～11歳	10	70.0	60.0	50.0	10.0	10.0
	12～14歳	9	55.6	55.6	44.4	44.4	44.4
	15歳以上	10	60.0	60.0	50.0	40.0	40.0

(単位: %)		n	訪問看護・訪問リハビリ等充実	相談できる体制の充実	情報提供の充実	その他	無回答
全体		62	16.1	41.9	30.6	14.5	21.0
年代別	0～2歳	4	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0
	3～5歳	15	26.7	60.0	53.3	6.7	20.0
	6～8歳	12	16.7	58.3	25.0	16.7	8.3
	9～11歳	10	0.0	10.0	10.0	20.0	30.0
	12～14歳	9	11.1	44.4	22.2	11.1	22.2
	15歳以上	10	30.0	40.0	40.0	30.0	10.0

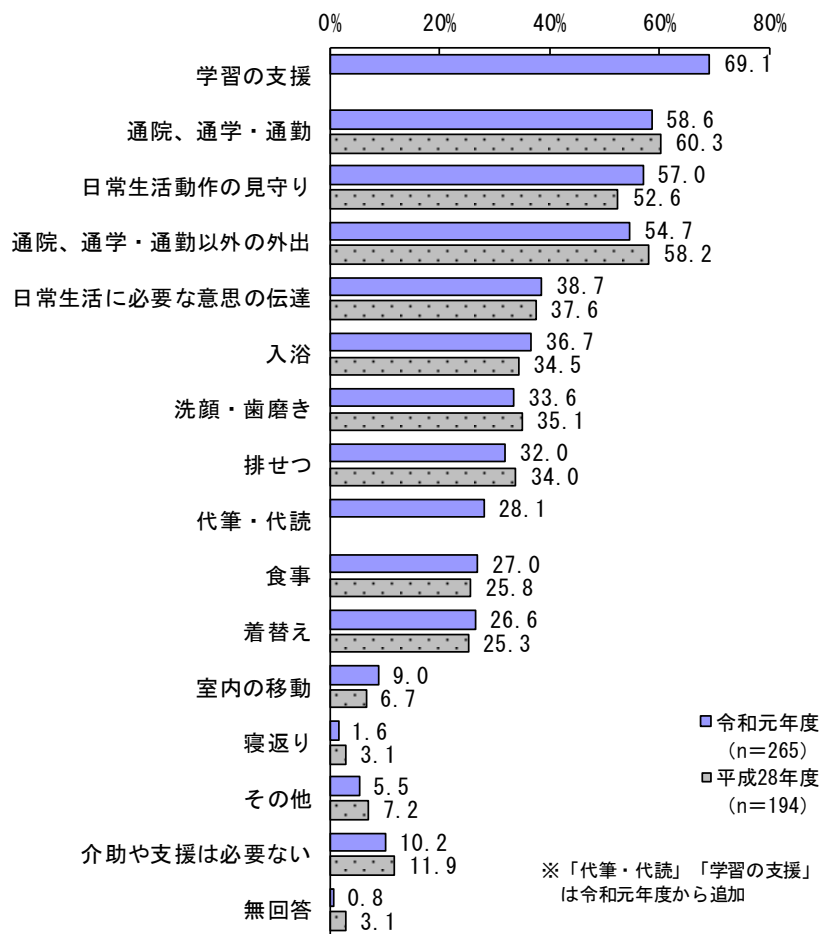
年代別にみると、“0～2歳”では「医療的ケアに対応できる事業所等の充実」が最も高くなっています。

“3～5歳”と“6～8歳”では「保育所や学校等における環境整備」と「相談できる体制の充実」が高くなっています。

9歳以上では「一時的に預かるサービスの充実」と「移動に係る支援の充実」が高くなっています。

(13) 日常生活に必要な介助や支援

問 14 あなたは、毎日の生活の中で、どのような介助や支援が必要ですか。(あてはまるものすべてに○)



日常生活に必要な介助や支援は、「学習の支援」が69.1%と約7割で最も高く、次いで「通院、通学・通勤」が58.6%、「日常生活動作の見守り」が57.0%、「通院、通学・通勤以外の外出」が54.7%と5割を超えて続いています。

平成28年度と比較すると、「日常生活動作の見守り」が4.4ポイント上がって、「通院、通学・通勤以外の外出」が3.5ポイント下がっているものの、大きな差はなく、全体的な傾向はあまり変化がありません。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	食事	排せつ	入浴	寝返り	着替え	室内の移動	洗顔・歯磨き	代筆・代読
全体	256	27.0	32.0	36.7	1.6	26.6	9.0	33.6	28.1
障害別									
肢体不自由	33	66.7	66.7	75.8	12.1	60.6	51.5	69.7	48.5
音声・言語・そしゃく機能障害	19	84.2	84.2	84.2	10.5	73.7	31.6	89.5	52.6
視覚障害	15	40.0	46.7	46.7	13.3	40.0	33.3	46.7	46.7
聴覚・平衡機能障害	6	50.0	50.0	33.3	0.0	50.0	16.7	16.7	0.0
内部障害	19	57.9	57.9	63.2	5.3	47.4	26.3	42.1	26.3
知的障害	123	42.3	48.8	53.7	1.6	42.3	10.6	50.4	43.1
発達障害	136	18.4	23.5	30.9	0.0	20.6	3.7	28.7	23.5
精神障害	4	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0
高次脳機能障害	3	66.7	66.7	66.7	33.3	66.7	66.7	100.0	66.7
難病(特定疾病)	14	64.3	64.3	64.3	0.0	57.1	42.9	64.3	50.0
その他	5	0.0	40.0	40.0	0.0	40.0	0.0	40.0	0.0

(単位:%)	n	通院、通学・通勤	通院、通学・通勤以外の外出	日常生活に必要な意思の伝達	日常生活動作の見守り	学習の支援	その他	介助や支援は必要ない	無回答
全体	256	58.6	54.7	38.7	57.0	69.1	5.5	10.2	0.8
障害別									
肢体不自由	33	84.8	75.8	51.5	66.7	57.6	12.1	9.1	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	19	94.7	84.2	84.2	94.7	84.2	0.0	0.0	0.0
視覚障害	15	80.0	73.3	33.3	60.0	73.3	0.0	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	6	50.0	33.3	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
内部障害	19	73.7	63.2	26.3	57.9	47.4	10.5	5.3	0.0
知的障害	123	74.8	74.8	54.5	71.5	80.5	4.9	4.1	0.0
発達障害	136	50.7	47.8	37.5	57.4	74.3	5.9	11.8	0.7
精神障害	4	50.0	50.0	100.0	75.0	75.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	3	100.0	100.0	66.7	66.7	100.0	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	14	71.4	71.4	50.0	71.4	64.3	0.0	14.3	7.1
その他	5	60.0	20.0	20.0	60.0	60.0	0.0	0.0	0.0

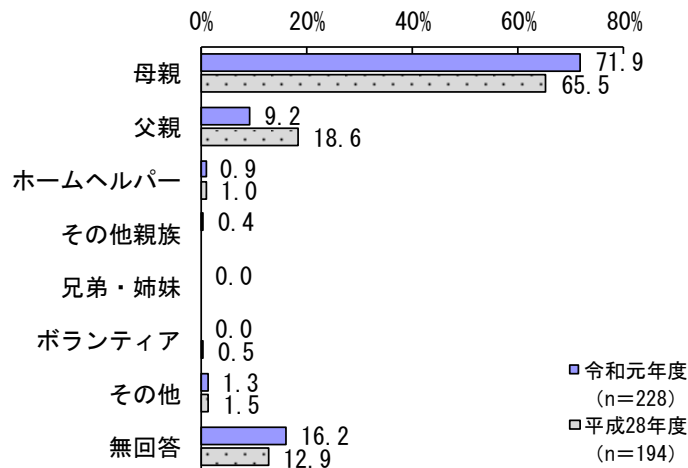
障害別にみると、“知的障害”と“発達障害”では「学習の支援」が7割を超えて最も高くなっています。

“知的障害”、“発達障害”、“精神障害”以外のいずれの障害も、「通院、通学・通勤」が最も高くなっています。

(14) 主な介助者・支援者

問 14 で「介助や支援は必要ない」以外を回答された方にお聞きします。

問 15 あなたを主に介助・支援している人はどなたですか。(○はひとつ)



主な介助者・支援者は、「母親」が71.9%と7割を超えて突出して高く、次いで「父親」が9.2%と続いています。

平成28年度と比較すると、「母親」が6.4ポイント上がって、「父親」が9.4ポイント下がっています。

【クロス集計】年代別・障害別

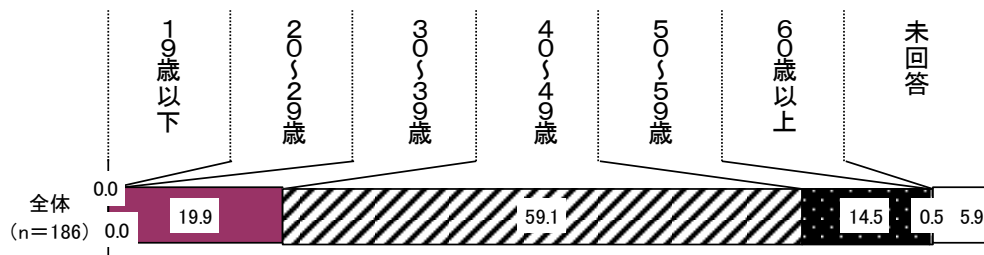
(単位:%)		n	父親	母親	兄弟・姉妹	その他親族	ホームヘルパー	ボランティア	その他	無回答
全体		228	9.2	71.9	0.0	0.4	0.9	0.0	1.3	16.2
障害別	肢体不自由	30	6.7	76.7	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	13.3
	音声・言語・そしゃく機能障害	19	15.8	68.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.8
	視覚障害	15	26.7	53.3	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	13.3
	聴覚・平衡機能障害	6	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	内部障害	18	11.1	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2
	知的障害	118	8.5	71.2	0.0	0.8	1.7	0.0	0.0	17.8
	発達障害	119	7.6	73.1	0.0	0.8	0.0	0.0	1.7	16.8
	精神障害	4	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
	高次脳機能障害	3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
	難病(特定疾病)	11	0.0	90.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1
その他	5	20.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

障害別にみると、いずれの障害も「母親」が最も高くなっています。
“知的障害”のみ、「ホームヘルパー」という回答が1.7%ありました。

(15) 主な介助者・支援者の年代

問 15 で家族や親族と回答された方にお聞きします。

問 15-1 あなたを主に介助・支援している人の年齢はいくつですか。(○はひとつ)



主な介助者・支援者の年代は、「40～49歳」が59.1%と約6割を占め最も高く、次いで「30～39歳」が19.9%、「50～59歳」が14.5%と続いています。

【クロス集計】 介助者別・障害別

(単位: %)	n	19歳以下	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60歳以上	無回答
全体	186	0.0	0.0	19.9	59.1	14.5	0.5	5.9
介助者別								
父親	21	0.0	0.0	23.8	57.1	14.3	0.0	4.8
母親	164	0.0	0.0	19.5	59.8	14.6	0.0	6.1
その他親族	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
障害別								
肢体不自由	25	0.0	0.0	12.0	68.0	12.0	0.0	8.0
音声・言語・そしゃく機能障害	16	0.0	0.0	12.5	81.3	6.3	0.0	0.0
視覚障害	13	0.0	0.0	15.4	61.5	15.4	7.7	0.0
聴覚・平衡機能障害	6	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
内部障害	14	0.0	0.0	35.7	35.7	21.4	0.0	7.1
知的障害	95	0.0	0.0	12.6	62.1	18.9	1.1	5.3
発達障害	97	0.0	0.0	17.5	66.0	11.3	1.0	4.1
精神障害	3	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	10	0.0	0.0	20.0	70.0	10.0	0.0	0.0
その他	5	0.0	0.0	40.0	40.0	20.0	0.0	0.0

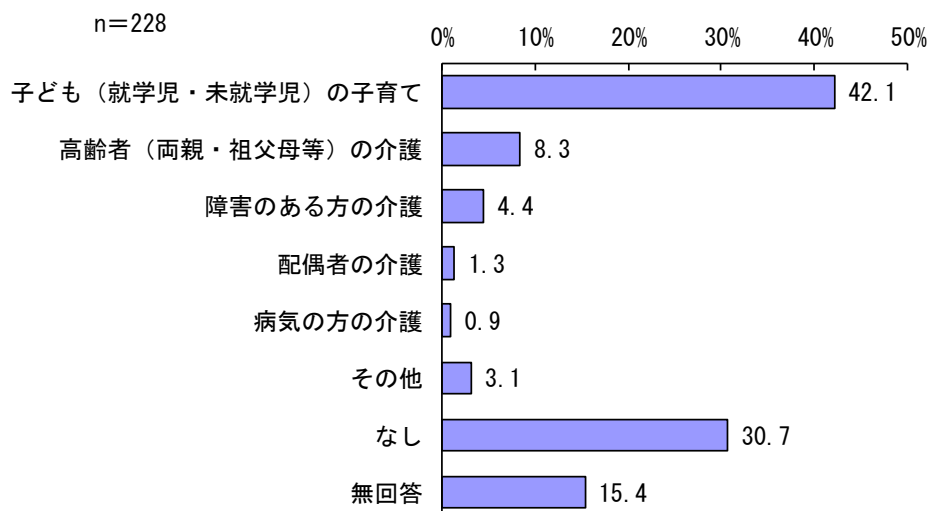
介助者別にみると、「父親」と「母親」とともに「40～49歳」が5割を超えて最も高く、「30～39歳」、「50～59歳」の順になっています。

障害別にみると、いずれの障害も「40～49歳」が最も高くなっています。

(16) 主な介助者による介助状況

問 14 で「介助や支援は必要ない」以外を回答された方にお聞きします。

問 16 あなたを主に介助・支援している人は、あなた以外に介護や子育てをしていますか。
(あてはまるものすべてに○)



主な介助者のその他の介助状況は、「子ども（就学児・未就学児）の子育て」が42.1%と4割を超えて最も高く、次いで「高齢者（両親・祖父母等）の介護」が8.3%、「障害のある方の介護」が4.4%と続いています。

一方、「なし」が30.7%と3割を超えています。

【クロス集計】 介助者別・障害別

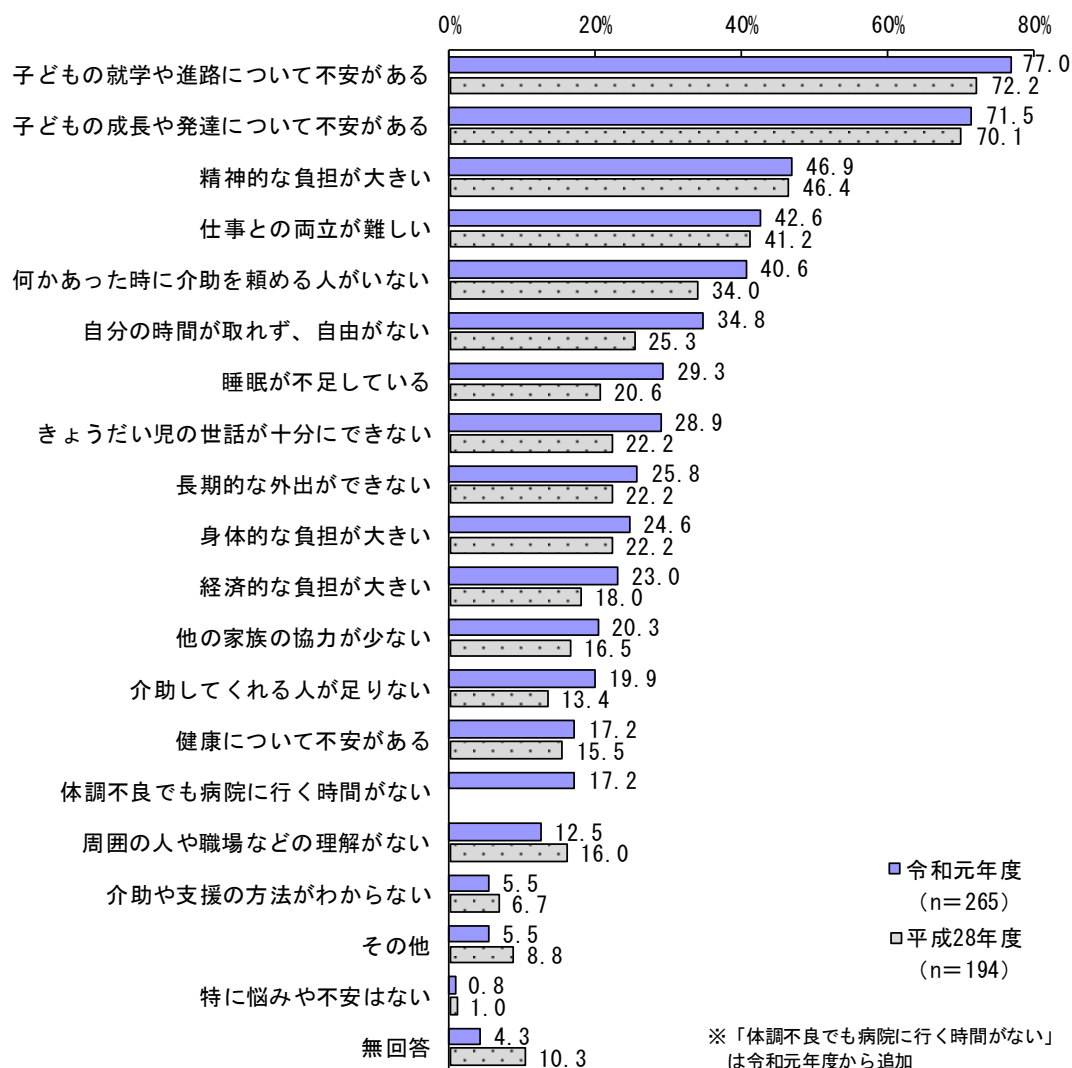
		高齢者（両親・祖父母等）の介護	配偶者の介護	子ども（就学児・未就学児）の子育て	病気の方の介護	障害のある方の介護	その他	なし	無回答	
	(単位:%)									
	n									
全体	228	8.3	1.3	42.1	0.9	4.4	3.1	30.7	15.4	
介助者別	父親	21	4.8	0.0	38.1	0.0	0.0	47.6	14.3	
	母親	164	9.1	1.2	48.8	0.6	4.9	28.0	10.4	
	その他親族	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	ホームヘルパー	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	
	その他	3	0.0	0.0	100.0	33.3	33.3	33.3	0.0	
障害別	肢体不自由	30	3.3	0.0	33.3	3.3	6.7	6.7	43.3	13.3
	音声・言語・そしゃく機能障害	19	5.3	5.3	42.1	0.0	5.3	0.0	21.1	21.1
	視覚障害	15	6.7	0.0	53.3	0.0	0.0	0.0	26.7	13.3
	聴覚・平衡機能障害	6	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	50.0	33.3
	内部障害	18	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	50.0	16.7
	知的障害	118	8.5	2.5	39.0	0.0	1.7	0.8	33.1	16.9
	発達障害	119	10.1	1.7	47.1	0.8	5.9	3.4	23.5	16.0
	精神障害	4	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
	高次脳機能障害	3	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0
	難病（特定疾病）	11	9.1	0.0	18.2	0.0	0.0	0.0	54.5	18.2
	その他	5	0.0	0.0	80.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0

介助者別にみると、“父親”と“母親”ともに、「子ども（就学児・未就学児）の子育て」と「なし」が高く、特に“母親”は「子ども（就学児・未就学児）の子育て」が48.8%と5割近くになっています。

障害別にみると、“肢体不自由”、“聴覚・平衡機能障害”、“内部障害”、“難病（特定疾病）”以外は、いずれの障害も「子ども（就学児・未就学児）の子育て」が最も高くなっています。

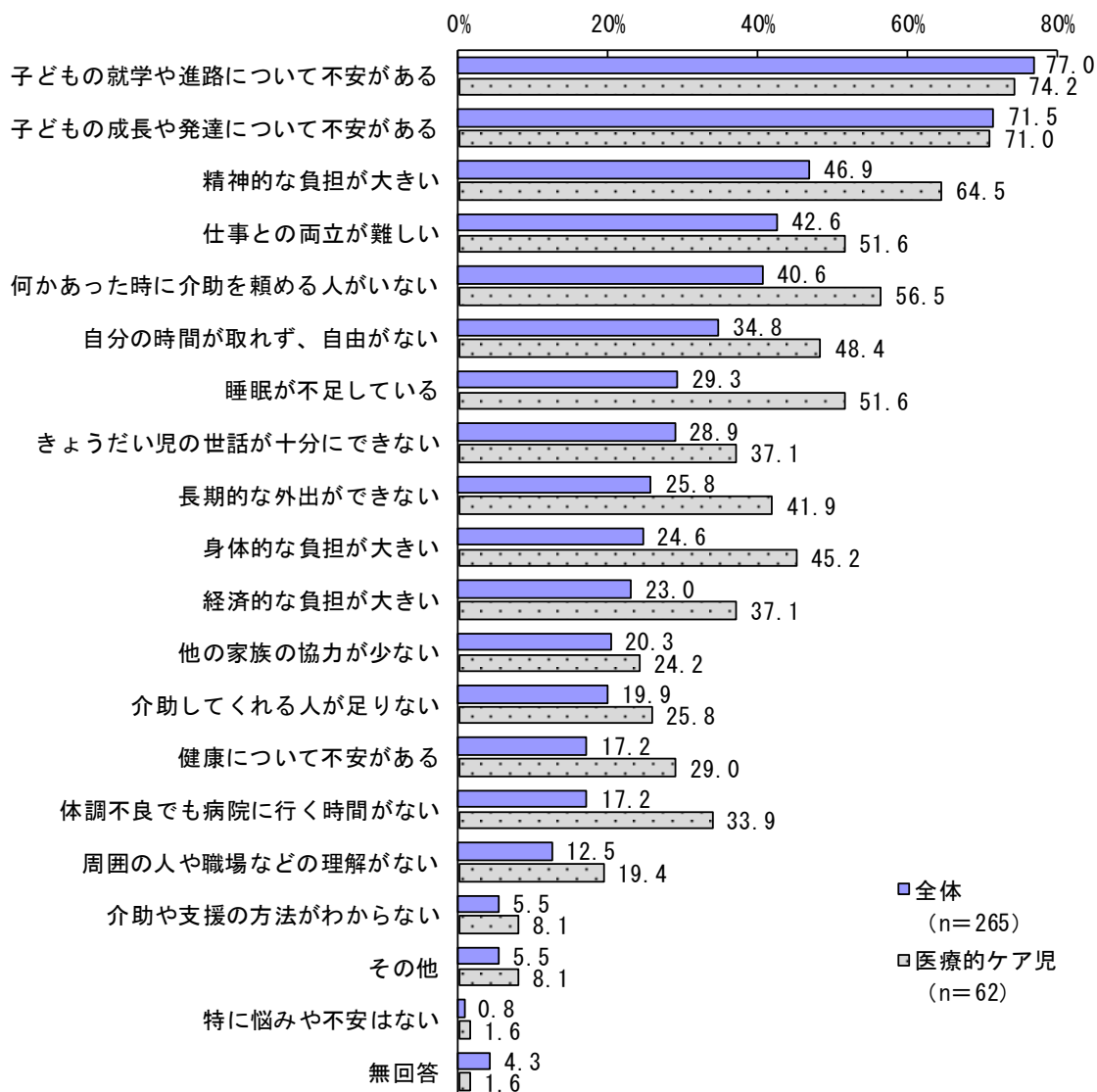
(17) 保護者の悩み・不安

問 17 **保護者の方にお聞きします。**どのような悩みや不安を抱えていますか。(あてはまるものすべてに○)



保護者の悩み・不安は、「子どもの就学や進路について不安がある」が77.0%、「子どもの成長や発達について不安がある」が71.5%と、子どもの将来についての項目が7割を超えて高くなっています。次いで「精神的な負担が大きい」が46.9%、「仕事との両立が難しい」が42.6%、「何かあった時に介助を頼める人がいない」が40.6%と4割台で続いています。

平成28年度と比較すると、「周囲の人や職場などの理解がない」、「介助や支援の方法がわからない」、「その他」以外のいずれの悩み・不安の割合は上がっており、特に「自分の時間が取れず、自由がない」が9.5ポイント、「睡眠が不足している」が8.7ポイント上がっています。



医療的ケア児の保護者と全体を比較すると、医療的ケア児の保護者の悩み・不安の割合は、「子どもの就学や進路について不安がある」と「子どもの成長や発達について不安がある」以外はいずれの項目も全体を大きく上回っています。特に「睡眠が不足している」が22.3ポイント、「身体的な負担が大きい」が20.6ポイントと、20ポイント以上大きく全体の割合を上回っています。

【クロス集計】障害別

(単位：%)		介助してく れる人が足 りない	何かあった 時に介助を 頼める人が いない	他の家族の 協力が少な い	仕事との両 立が難しい	長期的な外 出ができな い	介助や支援 の方法がわ からない	自分の時間 が取れず、 自由がない
	n							
全体	256	19.9	40.6	20.3	42.6	25.8	5.5	34.8
障害別	肢体不自由	33	27.3	60.6	27.3	45.5	9.1	39.4
	音声・言語・そしやく機能障害	19	31.6	47.4	31.6	42.1	5.3	36.8
	視覚障害	15	33.3	53.3	13.3	53.3	26.7	0.0
	聴覚・平衡機能障害	6	0.0	16.7	0.0	66.7	0.0	0.0
	内部障害	19	26.3	47.4	10.5	52.6	47.4	0.0
	知的障害	123	23.6	48.8	25.2	43.9	36.6	6.5
	発達障害	136	19.1	39.7	18.4	41.2	25.0	6.6
	精神障害	4	0.0	25.0	75.0	50.0	25.0	0.0
	高次脳機能障害	3	33.3	66.7	66.7	66.7	66.7	0.0
	難病（特定疾病）	14	21.4	50.0	14.3	42.9	50.0	7.1
その他	5	0.0	20.0	0.0	80.0	0.0	0.0	

(単位：%)		身体的な負 担が大きい	健康につい て不安があ る	体調不良で も病院に行 く時間がな い	睡眠が不足 している	精神的な負 担が大きい	経済的な負 担が大きい	周囲の人や 職場などの 理解がない
	n							
全体	256	24.6	17.2	17.2	29.3	46.9	23.0	12.5
障害別	肢体不自由	33	48.5	24.2	18.2	33.3	39.4	9.1
	音声・言語・そしやく機能障害	19	36.8	26.3	21.1	42.1	26.3	10.5
	視覚障害	15	13.3	13.3	13.3	33.3	40.0	6.7
	聴覚・平衡機能障害	6	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0
	内部障害	19	26.3	21.1	26.3	31.6	36.8	31.6
	知的障害	123	28.5	18.7	17.9	35.8	45.5	22.0
	発達障害	136	29.4	19.9	19.1	28.7	57.4	25.7
	精神障害	4	50.0	50.0	25.0	25.0	100.0	25.0
	高次脳機能障害	3	33.3	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0
	難病（特定疾病）	14	64.3	35.7	14.3	28.6	57.1	42.9
その他	5	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	

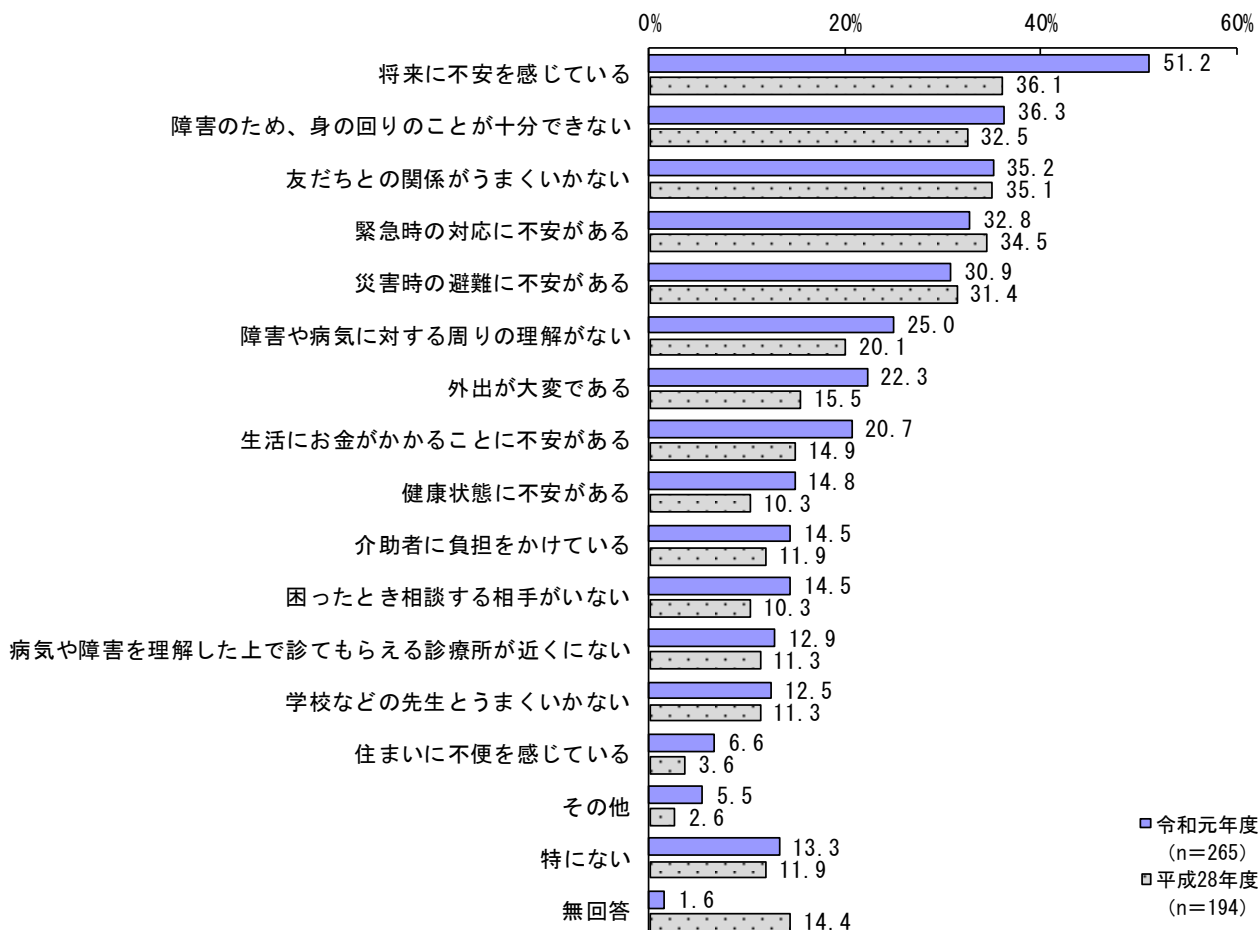
(単位：%)		きょうだい 児の世話が 十分にでき ない	子どもの就 学や進路に ついて不安 がある	子どもの成 長や発達に ついて不安 がある	その他	特に悩みや 不安はない	無回答
	n						
全体	256	28.9	77.0	71.5	5.5	0.8	4.3
障害別	肢体不自由	33	27.3	75.8	63.6	0.0	3.0
	音声・言語・そしやく機能障害	19	47.4	84.2	84.2	10.5	0.0
	視覚障害	15	26.7	66.7	46.7	13.3	0.0
	聴覚・平衡機能障害	6	50.0	100.0	66.7	0.0	0.0
	内部障害	19	31.6	57.9	63.2	10.5	5.3
	知的障害	123	30.9	78.9	72.4	6.5	0.8
	発達障害	136	33.8	79.4	79.4	2.9	0.0
	精神障害	4	50.0	75.0	100.0	0.0	0.0
	高次脳機能障害	3	33.3	100.0	66.7	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	14	21.4	64.3	71.4	14.3	0.0
その他	5	20.0	80.0	80.0	0.0	0.0	

障害別にみると、いずれの障害でも「子どもの就学や進路について不安がある」と「子どもの成長や発達について不安がある」が他の項目よりも高くなっています。

3 相談や福祉の情報について

(1) 日常生活で困っていること

問 18 あなたは、日常生活で困っていることがありますか。(あてはまるものすべてに○)
 (ご家族や支援者が回答する場合でも、ご本人(お子さん)の思いをご回答ください)



日常生活で困っていることは、「将来に不安を感じている」が51.2%と5割を超えて最も高く、次いで「障害のため、身の回りのことが十分できない」が36.3%、「友だちとの関係がうまくいかない」が35.2%と続いています。

平成28年度と比較すると、「緊急時の対応に不安がある」と「災害時の避難に不安がある」以外はいずれの項目も平成28年度を上回っており、特に「将来に不安を感じている」は15.1ポイントと大幅に上がっています。

【クロス集計】家族構成別

(単位:%)	n	健康状態に不安がある	障害のため、身の回りのことが十分できない	介助者に負担をかけている	外出が大変である	住まいに不便を感じている	災害時の避難に不安がある
全体	256	14.8	36.3	14.5	22.3	6.6	30.9
家族構成別							
両親と同居(二世帯世帯)	213	15.5	38.5	15.0	23.5	6.6	31.0
ひとり親家庭	23	17.4	26.1	13.0	13.0	4.3	39.1
三世帯世帯	12	8.3	25.0	16.7	33.3	16.7	16.7
その他	3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0

(単位:%)	n	緊急時の対応に不安がある	学校などの先生とうまくいかない	友だちとの関係がうまくいかない	障害や病気に対する周りの理解がない	困ったとき相談する相手がいない	病気や障害を理解した上で診てもらえる診療所が近くにない
全体	256	32.8	12.5	35.2	25.0	14.5	12.9
家族構成別							
両親と同居(二世帯世帯)	213	32.9	12.7	36.6	23.0	13.1	14.1
ひとり親家庭	23	43.5	13.0	26.1	30.4	17.4	13.0
三世帯世帯	12	16.7	0.0	25.0	33.3	25.0	0.0
その他	3	0.0	33.3	66.7	66.7	33.3	0.0

(単位:%)	n	生活にお金がかかることに不安がある	将来に不安を感じている	その他	特にない	無回答
全体	256	20.7	51.2	5.5	13.3	1.6
家族構成別						
両親と同居(二世帯世帯)	213	20.2	48.4	4.7	13.6	1.9
ひとり親家庭	23	26.1	65.2	4.3	8.7	0.0
三世帯世帯	12	25.0	75.0	16.7	16.7	0.0
その他	3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0

家族構成別にみると、“その他”以外のいずれの家族構成も「将来に不安を感じている」が最も高くなっています。

“ひとり親家庭”では「災害時の避難に不安がある」や「緊急時の対応に不安がある」が4割前後と他の家族構成に比べ高くなっています。

“三世帯世帯”では「外出が大変である」、「住まいに不便を感じている」が他の家族構成に比べ高くなっています。

【クロス集計】障害別

(単位：%)	n	健康状態に不安がある	障害のため、身の回りのことが十分できない	介助者に負担をかけている	外出が大変である	住まいに不便を感じている	災害時の避難に不安がある
全体	256	14.8	36.3	14.5	22.3	6.6	30.9
障害別							
肢体不自由	33	42.4	66.7	36.4	54.5	12.1	48.5
音声・言語・そしゃく機能障害	19	31.6	84.2	36.8	52.6	21.1	47.4
視覚障害	15	13.3	53.3	33.3	40.0	6.7	46.7
聴覚・平衡機能障害	6	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	16.7
内部障害	19	57.9	31.6	10.5	36.8	5.3	26.3
知的障害	123	18.7	54.5	22.0	35.0	7.3	43.1
発達障害	136	8.8	32.4	16.9	16.2	7.4	27.2
精神障害	4	50.0	75.0	50.0	25.0	50.0	25.0
高次脳機能障害	3	33.3	100.0	66.7	66.7	33.3	33.3
難病（特定疾病）	14	64.3	57.1	42.9	64.3	21.4	50.0
その他	5	0.0	40.0	0.0	20.0	0.0	40.0

(単位：%)	n	緊急時の対応に不安がある	学校などの先生とうまくいかない	友だちとの関係がうまくいかない	障害や病気に対する周りの理解がない	困ったとき相談する相手がいない	病気や障害を理解した上で診てもらえる診療所が近くにない
全体	256	32.8	12.5	35.2	25.0	14.5	12.9
障害別							
肢体不自由	33	42.4	6.1	6.1	27.3	6.1	12.1
音声・言語・そしゃく機能障害	19	47.4	10.5	31.6	31.6	15.8	31.6
視覚障害	15	40.0	0.0	20.0	13.3	6.7	6.7
聴覚・平衡機能障害	6	16.7	16.7	33.3	33.3	0.0	0.0
内部障害	19	26.3	5.3	5.3	15.8	0.0	5.3
知的障害	123	44.7	10.6	30.9	26.8	19.5	18.7
発達障害	136	31.6	17.6	49.3	28.7	19.1	15.4
精神障害	4	50.0	50.0	100.0	50.0	50.0	50.0
高次脳機能障害	3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
難病（特定疾病）	14	50.0	7.1	7.1	21.4	0.0	14.3
その他	5	40.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0

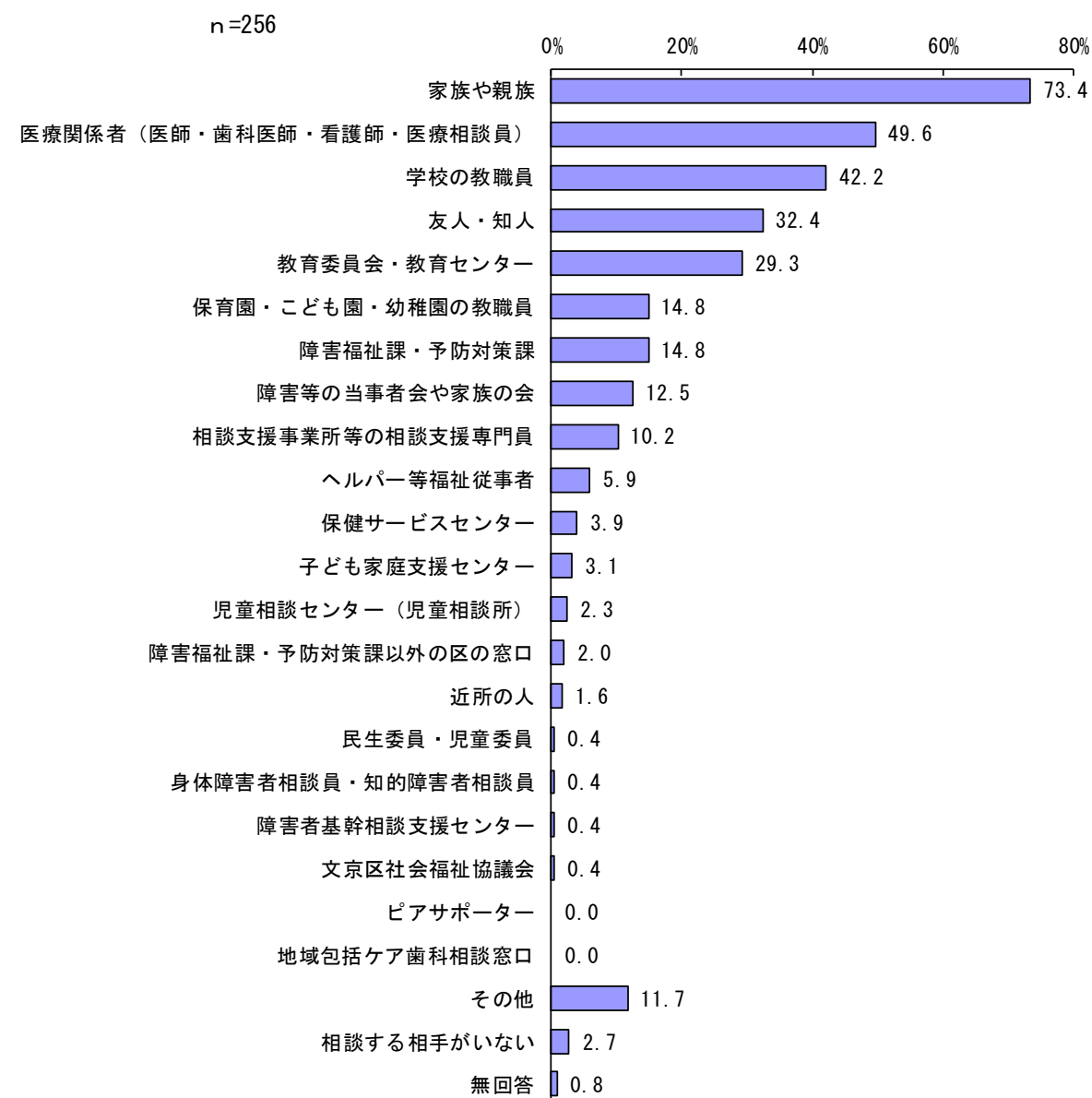
(単位：%)	n	生活にお金がかかることに不安がある	将来に不安を感じている	その他	特にない	無回答
全体	256	20.7	51.2	5.5	13.3	1.6
障害別						
肢体不自由	33	42.4	63.6	3.0	9.1	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	19	42.1	78.9	5.3	0.0	0.0
視覚障害	15	33.3	53.3	0.0	6.7	0.0
聴覚・平衡機能障害	6	16.7	50.0	16.7	16.7	0.0
内部障害	19	26.3	57.9	0.0	15.8	0.0
知的障害	123	28.5	56.9	4.9	7.3	1.6
発達障害	136	18.4	51.5	5.9	14.0	1.5
精神障害	4	25.0	100.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	3	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	14	64.3	71.4	0.0	14.3	0.0
その他	5	0.0	40.0	20.0	0.0	0.0

障害別にみると、“肢体不自由”、“音声・言語・そしゃく機能障害”、“高次脳機能障害”以外のいずれの障害も、「将来に不安を感じている」が最も高くなっています。

“難病（特定疾病）”は「生活にお金がかかることに不安がある」が64.3%と他の障害に比べ高くなっています。

(2) 困ったときの相談相手

問 19 あなたやご家族の方が困ったときに相談する相手は誰ですか。(あてはまるものすべてに○)



家族や本人が困ったときの相談相手は、「家族や親族」が73.4%と7割を超えて最も高く、次いで「医療関係者 (医師・歯科医師・看護師・医療相談員)」が49.6%、「学校の教職員」が42.2%、「友人・知人」が32.4%、「教育委員会・教育センター」が29.3%と続いています。

一方、「相談する相手がない」は2.7%となっています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	家族や親族	近所の人	友人・知人	ピアサポーター	学校の教職員	保育園・子ども園・幼稚園の教職員	民生委員・児童委員	障害等の当事者会や家族の会
全体	256	73.4	1.6	32.4	0.0	42.2	14.8	0.4	12.5
障害別									
肢体不自由	33	78.8	3.0	33.3	0.0	30.3	3.0	0.0	24.2
音声・言語・そしゃく機能障害	19	73.7	0.0	31.6	0.0	47.4	26.3	0.0	26.3
視覚障害	15	80.0	0.0	46.7	0.0	46.7	20.0	0.0	13.3
聴覚・平衡機能障害	6	83.3	0.0	33.3	0.0	50.0	50.0	0.0	33.3
内部障害	19	89.5	0.0	36.8	0.0	26.3	5.3	0.0	52.6
知的障害	123	79.7	1.6	41.5	0.0	50.4	13.8	0.8	18.7
発達障害	136	66.9	1.5	26.5	0.0	41.2	15.4	0.0	2.9
精神障害	4	75.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	3	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3
難病（特定疾病）	14	100.0	7.1	35.7	0.0	35.7	0.0	0.0	28.6
その他	5	80.0	0.0	20.0	0.0	40.0	40.0	0.0	20.0

(単位:%)	n	身体障害者相談員・知的障害者相談員	ヘルパー等福祉従事者	相談支援事業所等の相談支援専門員	医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）	地域包括ケア歯科相談窓口	障害福祉課・予防対策課	障害福祉課・予防対策課以外の区の窓口	保健サービスセンター
全体	256	0.4	5.9	10.2	49.6	0.0	14.8	2.0	3.9
障害別									
肢体不自由	33	0.0	9.1	9.1	66.7	0.0	24.2	3.0	6.1
音声・言語・そしゃく機能障害	19	0.0	15.8	26.3	68.4	0.0	26.3	5.3	0.0
視覚障害	15	0.0	6.7	0.0	60.0	0.0	13.3	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	6	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0
内部障害	19	0.0	15.8	15.8	52.6	0.0	21.1	5.3	15.8
知的障害	123	0.8	8.1	12.2	54.5	0.0	17.1	3.3	2.4
発達障害	136	0.0	2.9	8.8	45.6	0.0	11.8	2.2	2.9
精神障害	4	0.0	25.0	0.0	100.0	0.0	50.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	3	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0
難病（特定疾病）	14	0.0	14.3	14.3	78.6	0.0	21.4	0.0	7.1
その他	5	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	20.0	0.0	20.0

(単位:%)	n	障害者基幹相談支援センター	子ども家庭支援センター	教育委員会・教育センター	児童相談センター（児童相談所）	文京区社会福祉協議会	その他	相談する相手がいない	無回答
全体	256	0.4	3.1	29.3	2.3	0.4	11.7	2.7	0.8
障害別									
肢体不自由	33	0.0	0.0	24.2	6.1	0.0	12.1	0.0	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	19	0.0	0.0	15.8	0.0	0.0	5.3	5.3	0.0
視覚障害	15	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
内部障害	19	0.0	0.0	15.8	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0
知的障害	123	0.8	0.8	24.4	0.8	0.8	10.6	2.4	0.8
発達障害	136	0.0	5.1	36.0	2.9	0.0	15.4	4.4	0.7
精神障害	4	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
難病（特定疾病）	14	0.0	0.0	21.4	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0
その他	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0

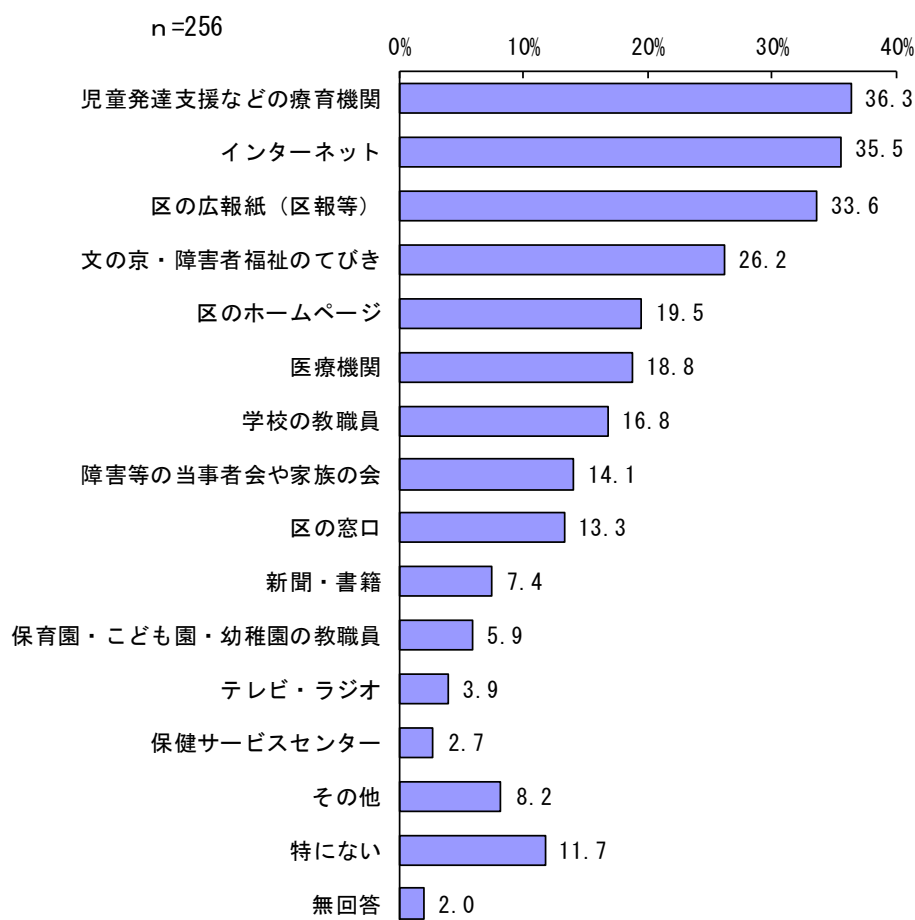
障害別にみると、“精神障害”と“高次脳機能障害”以外のいずれの障害も「家族や親族」が最も高くなっています。

「医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）」はいずれの障害も4割以上で高く、「友人・知人」や「学校の教職員」もいずれの障害でも2割以上となっています。

“音声・言語・そしゃく機能障害”、“知的障害”、“発達障害”では「相談する相手がいない」との回答がありました。

(3) 福祉情報の入手先

問 20 あなたは、福祉に関する情報を、主にどこから得ていますか。(あてはまるものすべてに○)



福祉情報の入手先は、「児童発達支援などの療育機関」が36.3%、「インターネット」が35.5%、「区の広報紙 (区報等)」が33.6%と3割台で高く、次いで「文の京・障害者福祉のてびき」が26.2%と続いています。

一方、「特にない」は11.7%となっています。

【クロス集計】年代別・障害別

(単位:%)	n	区の広報紙(区報等)	区のホームページ	文の京・障害者福祉のてびき	区の窓口	保健サービスセンター	テレビ・ラジオ	インターネット	新聞・書籍
全体	256	33.6	19.5	26.2	13.3	2.7	3.9	35.5	7.4
障害別									
肢体不自由	33	30.3	15.2	48.5	21.2	3.0	0.0	42.4	6.1
音声・言語・そしゃく機能障害	19	36.8	21.1	42.1	26.3	0.0	5.3	57.9	0.0
視覚障害	15	13.3	13.3	40.0	26.7	0.0	6.7	40.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	6	16.7	0.0	33.3	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0
内部障害	19	15.8	15.8	31.6	21.1	15.8	0.0	26.3	10.5
知的障害	123	43.9	17.1	40.7	17.1	1.6	3.3	39.8	8.1
発達障害	136	29.4	24.3	21.3	8.8	1.5	5.1	39.0	8.1
精神障害	4	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	75.0	0.0
高次脳機能障害	3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
難病(特定疾病)	14	28.6	14.3	64.3	14.3	0.0	0.0	42.9	0.0
その他	5	60.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0

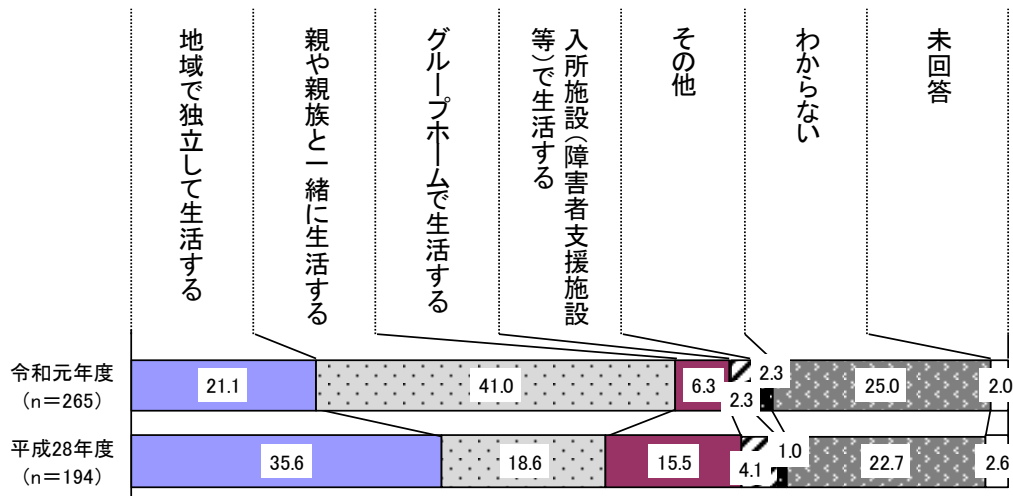
(単位:%)	n	障害等の当事者会や家族の会	医療機関	学校の教職員	保育園・こども園・幼稚園の教職員	児童発達支援などの療育機関	その他	特にな	無回答
全体	256	14.1	18.8	16.8	5.9	36.3	8.2	11.7	2.0
障害別									
肢体不自由	33	21.2	36.4	21.2	0.0	27.3	6.1	3.0	6.1
音声・言語・そしゃく機能障害	19	21.1	26.3	31.6	5.3	26.3	5.3	5.3	0.0
視覚障害	15	26.7	20.0	26.7	6.7	26.7	0.0	13.3	0.0
聴覚・平衡機能障害	6	16.7	33.3	50.0	0.0	50.0	16.7	0.0	0.0
内部障害	19	36.8	31.6	10.5	0.0	10.5	5.3	15.8	0.0
知的障害	123	22.8	14.6	20.3	3.3	31.7	15.4	8.1	1.6
発達障害	136	5.9	16.2	18.4	7.4	41.9	6.6	15.4	0.7
精神障害	4	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	3	33.3	33.3	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0
難病(特定疾病)	14	28.6	21.4	21.4	0.0	14.3	0.0	21.4	0.0
その他	5	20.0	0.0	0.0	20.0	40.0	0.0	20.0	0.0

障害別にみると、障害ごとに様々な情報入手先を回答しており、“知的障害”では「区の広報紙(区報等)」が43.9%、“発達障害”では「児童発達支援などの療育機関」が41.9%と最も高くなっています。

「インターネット」は、障害の種類にかかわらず高い傾向にあります。

(4) 将来希望する生活

問 21 あなたは今後、どのような生活を希望しますか。(〇はひとつ)



将来希望する生活は、「親や親族と一緒に生活する」が41.0%と4割と超えて最も高く、次いで「地域で独立して生活する」が21.1%と続いており、それ以外の項目は1割を切っています。

一方、「わからない」は25.0%と全体の4分の1を占めています。

平成28年度と比較すると、「親や親族と一緒に生活する」が22.4ポイント大きく上がっており、反対に「地域で独立して生活する」が14.5ポイント、「グループホームで生活する」が9.2ポイント大きく下がっています。

【クロス集計】障害別

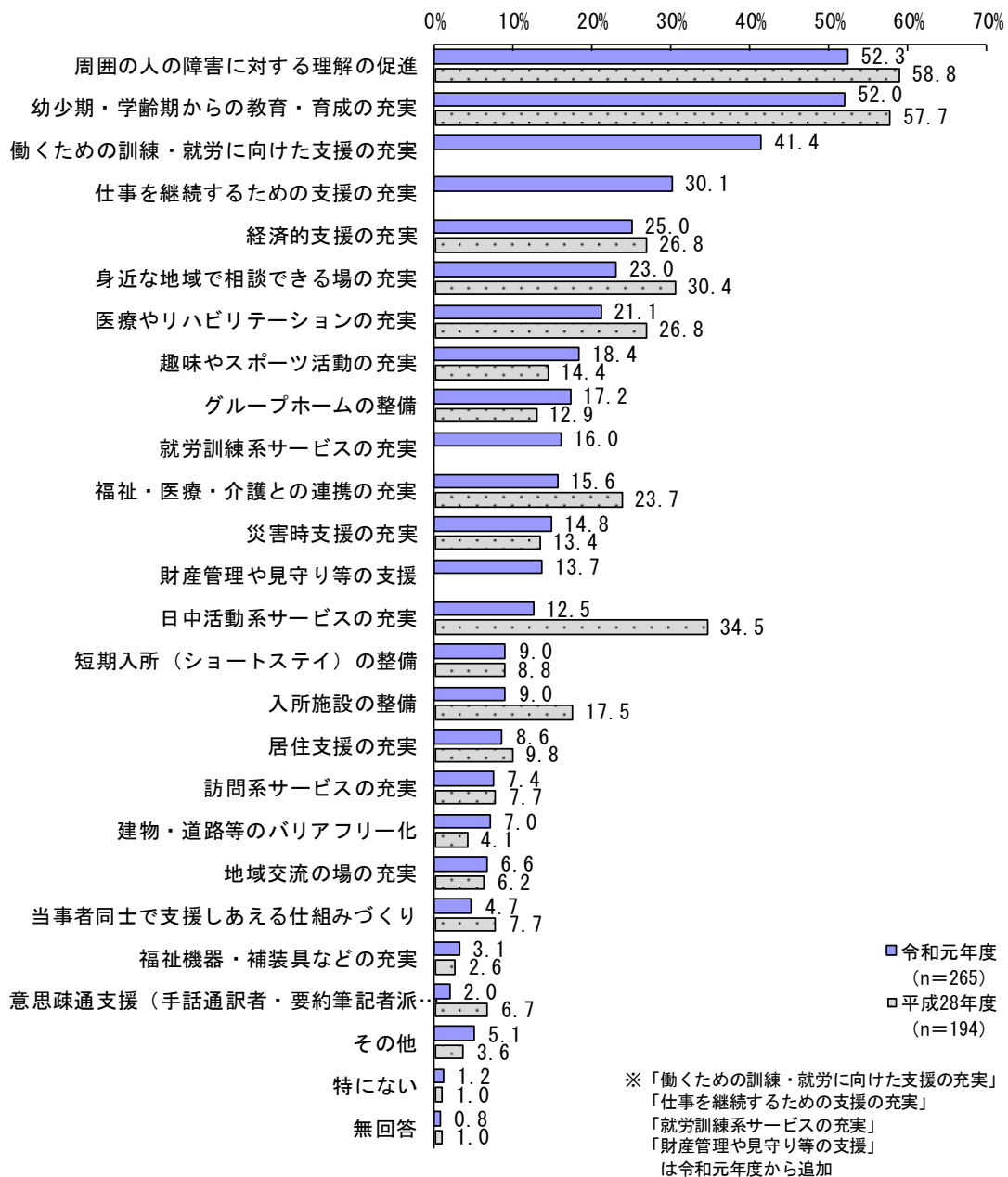
	n	地域で独立して生活する	親や親族と一緒に生活する	グループホームで生活する	入所施設(障害者支援施設等)で生活する	その他	わからない	無回答
(単位:%)								
全体	256	21.1	41.0	6.3	2.3	2.3	25.0	2.0
障害別								
肢体不自由	33	12.1	36.4	9.1	12.1	3.0	24.2	3.0
盲声・言語・そしゃく機能障害	19	10.5	47.4	10.5	15.8	0.0	15.8	0.0
視覚障害	15	20.0	53.3	6.7	6.7	0.0	13.3	0.0
聴覚・平衡機能障害	6	16.7	33.3	16.7	0.0	0.0	33.3	0.0
内部障害	19	15.8	42.1	5.3	5.3	5.3	26.3	0.0
知的障害	123	13.8	34.1	13.0	3.3	2.4	31.7	1.6
発達障害	136	23.5	46.3	3.7	0.7	2.9	21.3	1.5
精神障害	4	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
高次脳機能障害	3	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	14	7.1	50.0	14.3	0.0	7.1	14.3	7.1
その他	5	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0

障害別にみると、いずれの障害も「親や親族と一緒に生活する」が3割以上で最も高くなっています。

“難病(特定疾病)”では「地域で独立して生活する」が7.1%と1割を切って他の障害よりも低くなっています。

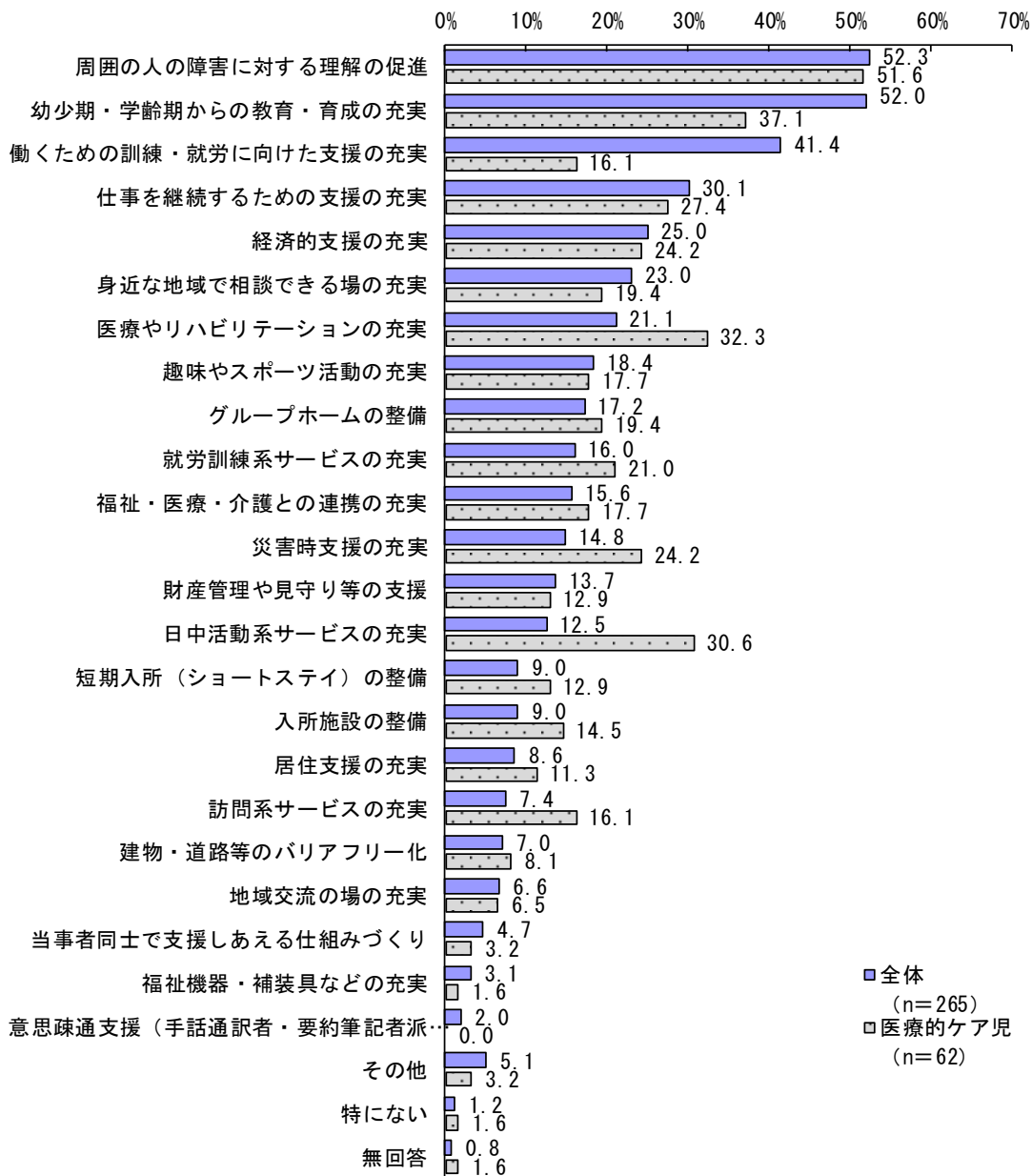
(5) 地域で安心して暮らすために必要な施策

問 22 あなたが地域で安心して暮らしていくためには、どのような施策が重要だと思いますか。(〇は5つまで)



地域で安心して暮らすために必要な施策は、「周囲の人の障害に対する理解の促進」が52.3%、「幼少期・学齢期からの教育・育成の充実」が52.0%と5割を超えて高く、次いで「働くための訓練・就労に向けた支援の充実」が41.4%、「仕事を継続するための支援の充実」が30.1%と続いています。

平成28年度と比較すると、追加項目があったこともあり、「日中活動系サービスの充実」が22.0ポイント大きく下がっています。



医療的ケア児と全体を比較すると、医療的ケア児が地域で安心して暮らすために必要な施策の割合は、「日中活動系サービスの充実」が 18.1 ポイント、「医療やリハビリテーションの充実」が 11.2 ポイントと、「災害時支援の充実」が 9.4 ポイント、「訪問系サービスの充実」が 8.7 ポイント全体の割合を上回っています。

反対に、「働くための訓練・就労に向けた支援の充実」は 25.3 ポイント、「幼少期・学齢期からの教育・育成の充実」は 14.9 ポイントと、大きく全体の割合を下回っています。

【クロス集計】年代別

(単位:%)		n	周囲の人の障害に対する理解の促進	医療やリハビリテーションの充実	幼少期・学齢期からの教育・育成の充実	働くための訓練・就労に向けた支援の充実	仕事を継続するための支援の充実	身近な地域で相談できる場の充実	訪問系サービスの充実
全体	256	52.3	21.1	52.0	41.4	30.1	23.0	7.4	
0～2歳	8	62.5	25.0	50.0	25.0	25.0	50.0	12.5	
3～5歳	60	51.7	38.3	78.3	36.7	16.7	28.3	8.3	
6～8歳	53	52.8	17.0	67.9	43.4	24.5	26.4	3.8	
9～11歳	53	47.2	18.9	47.2	45.3	35.8	20.8	9.4	
12～14歳	34	61.8	14.7	32.4	55.9	41.2	20.6	11.8	
15歳以上	39	46.2	7.7	12.8	33.3	48.7	5.1	5.1	

(単位:%)		n	日中活動系サービスの充実	就労訓練系サービスの充実	短期入所の整備	意思疎通支援の充実	福祉機器・補装具などの充実	グループホームの整備	入所施設の整備
全体	256	12.5	16.0	9.0	2.0	3.1	17.2	9.0	
0～2歳	8	0.0	12.5	0.0	25.0	0.0	0.0	12.5	
3～5歳	60	10.0	11.7	8.3	1.7	3.3	10.0	5.0	
6～8歳	53	13.2	11.3	5.7	3.8	1.9	7.5	7.5	
9～11歳	53	13.2	11.3	5.7	0.0	0.0	18.9	13.2	
12～14歳	34	11.8	38.2	11.8	0.0	8.8	23.5	8.8	
15歳以上	39	20.5	15.4	17.9	0.0	5.1	41.0	12.8	

(単位:%)		n	居住支援の充実	建物・道路等のバリアフリー化	当事者同士で支援しあえる仕組みづくり	趣味やスポーツ活動の充実	財産管理や見守り等の支援	経済的支援の充実	災害時支援の充実
全体	256	8.6	7.0	4.7	18.4	13.7	25.0	14.8	
0～2歳	8	0.0	12.5	12.5	12.5	12.5	25.0	37.5	
3～5歳	60	6.7	11.7	5.0	13.3	8.3	18.3	11.7	
6～8歳	53	7.5	3.8	13.2	13.2	15.1	24.5	11.3	
9～11歳	53	7.5	1.9	0.0	17.0	18.9	18.9	17.0	
12～14歳	34	8.8	11.8	0.0	26.5	11.8	38.2	5.9	
15歳以上	39	15.4	5.1	2.6	30.8	17.9	30.8	23.1	

(単位:%)		n	地域交流の場の充実	福祉・医療・介護との連携の充実	その他	特にない	無回答
全体	256	6.6	15.6	5.1	1.2	0.8	
0～2歳	8	12.5	37.5	0.0	0.0	0.0	
3～5歳	60	8.3	16.7	0.0	1.7	0.0	
6～8歳	53	5.7	13.2	9.4	0.0	0.0	
9～11歳	53	9.4	17.0	5.7	1.9	0.0	
12～14歳	34	2.9	17.6	2.9	0.0	0.0	
15歳以上	39	2.6	12.8	5.1	2.6	5.1	

年代別にみると、“0～2歳”と“3～5歳”の未就学児、“9～11歳”、“12～14歳”では「周囲の人の障害に対する理解の促進」が最も高くなっています。

“3～5歳”の未就学児、“6～8歳”、“9～11歳”の小学生では「幼少期・学齢期からの教育・育成の充実」が最も高くなっています。

“15歳以上”では「仕事を継続するための支援の充実」が48.7%と5割近くで最も高くなっています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	周囲の人の障害に対する理解の促進	医療やリハビリテーションの充実	幼少期・学齢期からの教育・育成の充実	働くための訓練・就労に向けた支援の充実	仕事を継続するための支援の充実	身近な地域で相談できる場の充実	訪問系サービスの充実
全体	256	52.3	21.1	52.0	41.4	30.1	23.0	7.4
障害別								
肢体不自由	33	27.3	39.4	36.4	15.2	6.1	12.1	27.3
音声・言語・そしゃく機能障害	19	57.9	31.6	26.3	26.3	26.3	10.5	5.3
視覚障害	15	40.0	26.7	33.3	26.7	26.7	13.3	13.3
聴覚・平衡機能障害	6	66.7	16.7	50.0	16.7	50.0	33.3	0.0
内部障害	19	47.4	31.6	26.3	21.1	21.1	10.5	10.5
知的障害	123	55.3	17.9	39.8	47.2	36.6	10.6	10.6
発達障害	136	53.7	19.9	62.5	43.4	33.8	30.9	5.1
精神障害	4	100.0	50.0	75.0	50.0	50.0	50.0	0.0
高次脳機能障害	3	66.7	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3
難病（特定疾病）	14	35.7	28.6	21.4	14.3	14.3	14.3	35.7
その他	5	40.0	40.0	80.0	20.0	0.0	60.0	0.0

(単位:%)	n	日中活動系サービスの充実	就労訓練系サービスの充実	短期入所の整備	意思疎通支援の充実	福祉機器・補装具などの充実	グループホームの整備	入所施設の整備
全体	256	12.5	16.0	9.0	2.0	3.1	17.2	9.0
障害別								
肢体不自由	33	33.3	6.1	21.2	0.0	18.2	33.3	30.3
音声・言語・そしゃく機能障害	19	42.1	10.5	31.6	0.0	0.0	36.8	36.8
視覚障害	15	6.7	6.7	13.3	13.3	13.3	13.3	33.3
聴覚・平衡機能障害	6	16.7	33.3	0.0	50.0	0.0	16.7	0.0
内部障害	19	21.1	5.3	15.8	0.0	5.3	15.8	5.3
知的障害	123	19.5	22.0	15.4	0.8	2.4	32.5	14.6
発達障害	136	8.8	16.2	5.9	0.7	0.7	11.8	5.9
精神障害	4	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3
難病（特定疾病）	14	35.7	14.3	14.3	0.0	14.3	42.9	14.3
その他	5	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(単位:%)	n	居住支援の充実	建物・道路等のバリアフリー化	当事者同士で支援しあえる仕組みづくり	趣味やスポーツ活動の充実	財産管理や見守り等の支援	経済的支援の充実	災害時支援の充実
全体	256	8.6	7.0	4.7	18.4	13.7	25.0	14.8
障害別								
肢体不自由	33	15.2	27.3	3.0	3.0	6.1	39.4	6.1
音声・言語・そしゃく機能障害	19	10.5	10.5	5.3	26.3	15.8	31.6	26.3
視覚障害	15	20.0	26.7	0.0	13.3	26.7	40.0	20.0
聴覚・平衡機能障害	6	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	16.7
内部障害	19	15.8	15.8	5.3	21.1	15.8	31.6	26.3
知的障害	123	8.1	4.9	4.1	22.0	19.5	30.9	21.1
発達障害	136	6.6	2.9	4.4	17.6	14.7	22.8	12.5
精神障害	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
高次脳機能障害	3	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	66.7	0.0
難病（特定疾病）	14	35.7	21.4	7.1	0.0	7.1	35.7	14.3
その他	5	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0

(単位:%)	n	地域交流の場の充実	福祉・医療・介護との連携の充実	その他	特にない	無回答
全体	256	6.6	15.6	5.1	1.2	0.8
障害別						
肢体不自由	33	6.1	30.3	6.1	0.0	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	19	0.0	10.5	0.0	0.0	0.0
視覚障害	15	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	6	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0
内部障害	19	5.3	31.6	5.3	0.0	0.0
知的障害	123	8.9	13.8	4.1	0.0	1.6
発達障害	136	5.9	11.8	5.9	1.5	0.0
精神障害	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	14	7.1	21.4	7.1	7.1	0.0
その他	5	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0

障害別にみると、“肢体不自由”では「医療やリハビリテーションの充実」が39.4%と約4割で最も高くなっています。

“発達障害”と“その他”では「幼少期・学齢期からの教育・育成の充実」が最も高くなっています。

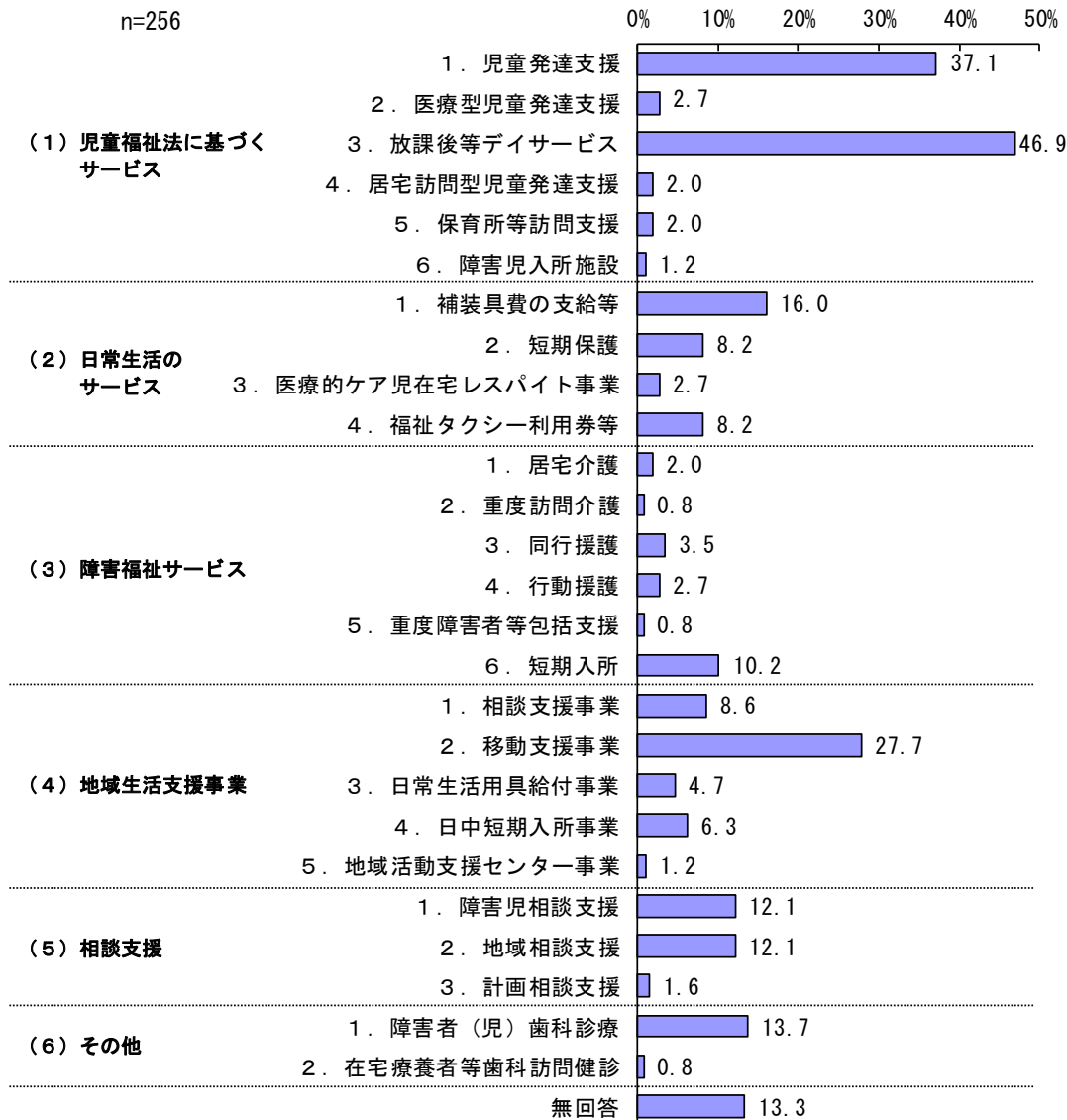
“難病（特定疾病）”では、「グループホームの整備」が42.9%と4割を超えて最も高くなっています。それ以外の障害ではいずれも「周囲の人の障害に対する理解の促進」が最も高くなっています。

4 福祉サービスについて

(1) 現在利用しているサービス

問 23 障害児通所支援等の利用状況と満足度についてお聞きします。

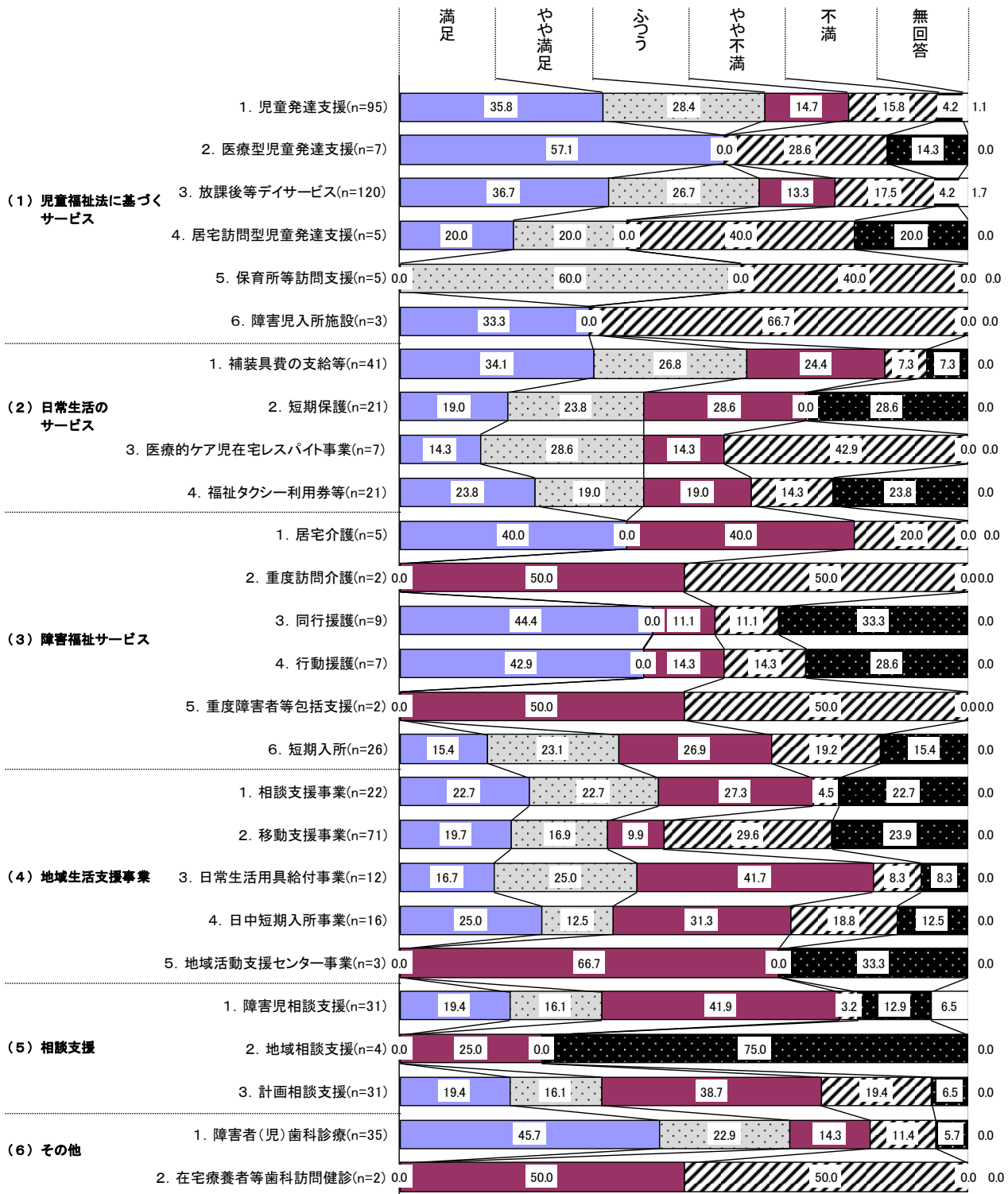
A. 現在利用しているサービスに○をつけてください。



現在利用している障害児通所支援サービス等は、「放課後等デイサービス」が46.9%と4割半ばを超えて最も高く、次いで「児童発達支援」が37.1%、「移動支援事業」が27.7%と続いています。

(2) サービスの満足度

B. 現在利用しているサービスに満足していますか。(〇はひとつ)



利用している障害児通所支援サービスの「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』は、「児童発達支援」、「放課後等デイサービス」、「保育所等訪問支援」、「補装具費の支給等」、「障害者(児)歯科診療」が6割を超えて高くなっています。

「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』は、「移動支援事業」が53.5%と高くなっています。

(3) サービスの『不満』の理由

B欄で「やや不満」、「不満」を選んだ方

C. サービスに不満の理由を下の欄からお選びください。(〇はいくつでも)

	n	少 利用 でき る回 数や 日数 等が	利 用料 が高 い	少 な い	サ ー ビ ス 提 供 事 業 所 が	利 用 日 時 が 合 わ な い	サ ー ビ ス 内 容 (質) に 不 安 を 感 じ る	サ ー ビ ス 提 供 事 業 所 の 対 応 が 良 く な い	事 業 所 と 家 族 の 連 携 が 取 れ て い な い	医 療 的 ケ ア の 対 応 が 十 分 で な い	そ の 他	無 回 答
(単位:%)	n											
児童発達支援	19	42.1	5.3	36.8	36.8	31.6	15.8	0.0	0.0	5.3	31.6	0.0
医療型児童発達支援	3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0
放課後等デイサービス	26	57.7	30.8	38.5	50.0	34.6	3.8	7.7	3.8	7.7	7.7	0.0
居宅訪問型児童発達支援	3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
保育所等訪問支援	2	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
障害児入所施設	2	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
補装具費の支給等	6	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	50.0
短期保護	6	100.0	0.0	100.0	50.0	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
医療的ケア児在宅レスパイト事業	3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
福祉タクシー利用券等	7	57.1	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3
居宅介護	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
重度訪問介護	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
同行援護	4	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
行動援護	3	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
重度障害者等包括支援	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
短期入所	9	77.8	0.0	66.7	33.3	22.2	33.3	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0
相談支援事業	6	16.7	0.0	16.7	16.7	83.3	33.3	50.0	16.7	16.7	16.7	0.0
移動支援事業	38	50.0	0.0	60.5	60.5	15.8	5.3	0.0	2.6	5.3	2.6	2.6
日常生活用具給付事業	2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
日中短期入所事業	5	40.0	0.0	60.0	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
地域活動支援センター事業	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
障害児相談支援	5	0.0	0.0	0.0	20.0	80.0	60.0	80.0	40.0	20.0	0.0	0.0
地域相談支援	3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	100.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
計画相談支援	8	0.0	0.0	0.0	12.5	75.0	25.0	25.0	12.5	25.0	0.0	0.0
障害者(児)歯科診療	6	66.7	0.0	33.3	16.7	0.0	16.7	0.0	16.7	16.7	16.7	0.0
在宅療養者等歯科訪問健診	1	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

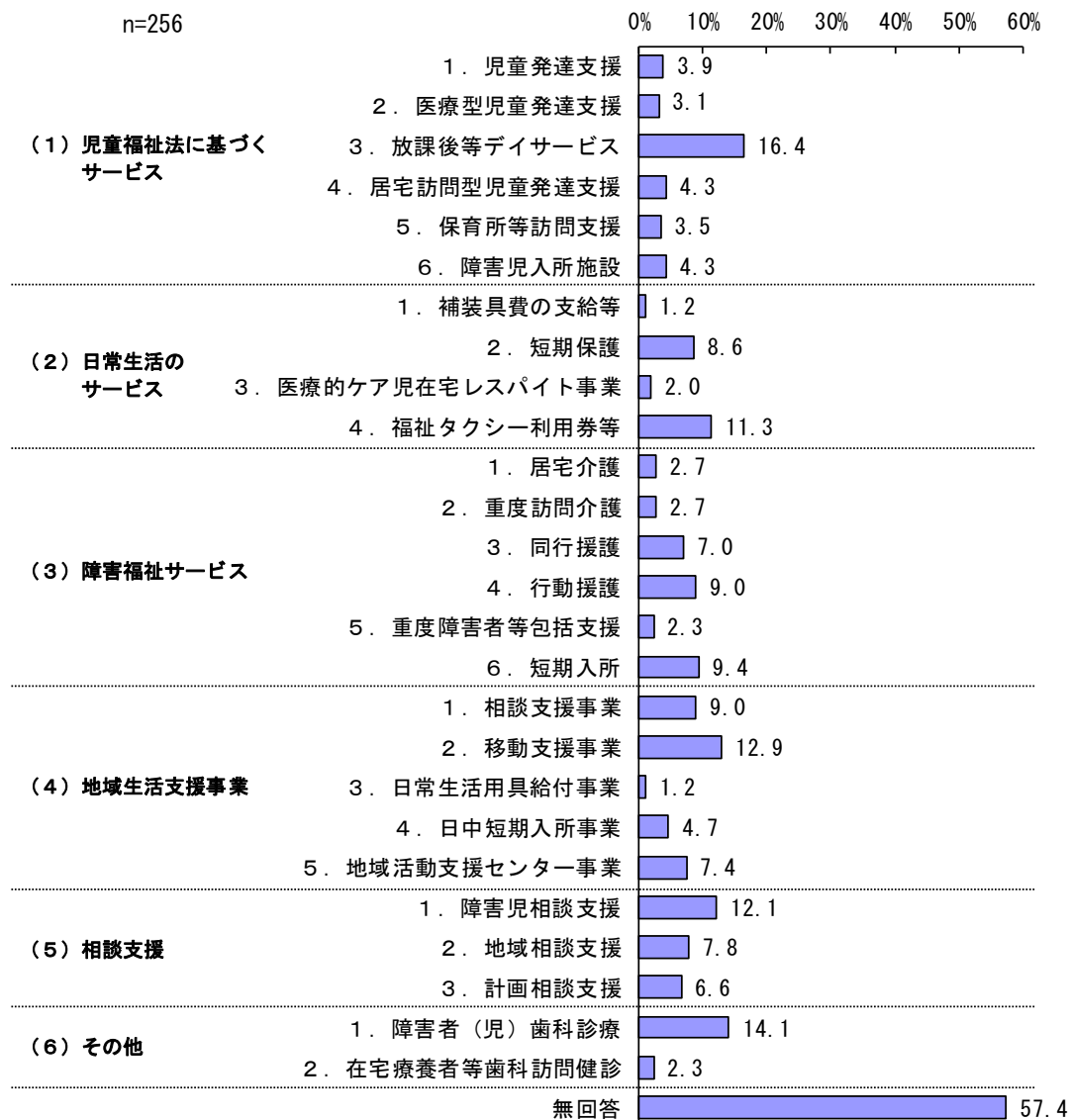
利用している障害児通所支援サービス等の『不満』の理由を、『不満』と答えた回答者が10人を超えたサービスでみると、“放課後デイサービス”、“移動支援事業”では「利用できる回数や日数等が少ない」が5割台で高く、“児童発達支援”で42.1%と4割を超えて高くなっています。

“放課後デイサービス”では「利用日時が合わない」が50.0%と5割に達しています。

“移動支援事業”では「サービス提供事業所が少ない」と「利用日時が合わない」がともに60.5%と6割を超えて高くなっています。

(4) 今後利用したいサービス

D. 現在は利用していないが、今後利用したいサービスに○をつけてください。

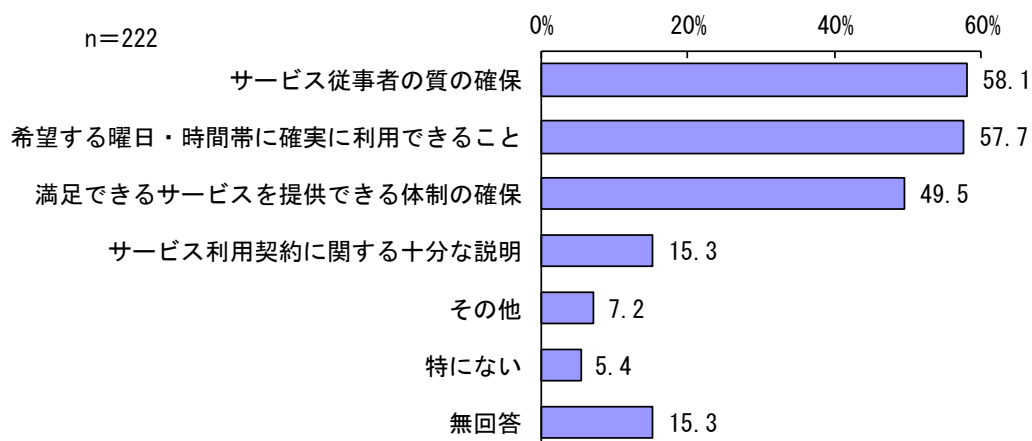


今後利用したい障害児通所支援サービス等は、「放課後等デイサービス」が16.4%と最も高く、次いで「障害者(児)歯科診療」が14.1%、「移動支援事業」が12.9%、「障害児相談支援」が12.1%、「福祉タクシー利用券等」が11.3%と1割台が続いています。

(5) サービス提供事業者に望むこと

問 23 にあるいずれかの障害児通所支援サービス等で「A 現在利用している」に○をつけた方にお聞きします。

問 24 サービス提供事業者に望むことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)



現在障害児通所支援サービス等を利用している方がサービス提供事業者に望むことは、「サービス従事者の質の確保」が 58.1%、「希望する曜日・時間帯に確実に利用できること」が 57.7%と 6 割近くで高く、次いで「満足できるサービスを提供できる体制の確保」が 49.5%、「サービス利用契約に関する十分な説明」が 15.3%と続いています。

一方、「特にない」は 5.4%となっています。

【クロス集計】障害児通所支援サービス等別

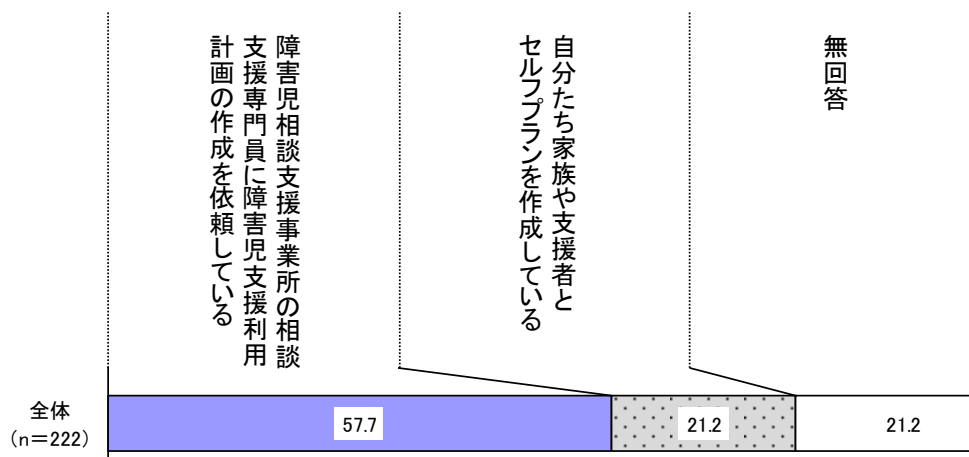
		サービス利用 契約に関する 十分な説明	希望する曜日・時間帯に 確実に利用できること	サービス従事者（ホームヘルパー、施設職員など）の 質の確保	満足できるサービスを提供できる体制 の確保	その他	特になし	無回答
(単位:%)	n							
全体	222	15.3	57.7	58.1	49.5	7.2	5.4	15.3
児童発達支援	95	21.1	54.7	61.1	52.6	8.4	5.3	12.6
医療型児童発達支援	7	28.6	42.9	42.9	57.1	0.0	0.0	28.6
放課後等デイサービス	120	12.5	63.3	65.0	53.3	9.2	6.7	7.5
居宅訪問型児童発達支援	5	20.0	40.0	40.0	60.0	0.0	0.0	40.0
保育所等訪問支援	5	20.0	60.0	60.0	40.0	0.0	0.0	20.0
障害児入所施設	3	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	66.7
補装具費の支給等	41	7.3	39.0	46.3	39.0	4.9	2.4	41.5
短期保護	21	14.3	61.9	81.0	57.1	14.3	0.0	14.3
医療的ケア児在宅レスパイト事業	7	14.3	57.1	71.4	57.1	0.0	0.0	28.6
福祉タクシー利用券等	21	19.0	52.4	57.1	61.9	0.0	0.0	28.6
居宅介護	5	0.0	20.0	40.0	60.0	0.0	0.0	40.0
重度訪問介護	2	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0
同行援護	9	22.2	55.6	66.7	55.6	11.1	0.0	33.3
行動援護	7	28.6	42.9	57.1	57.1	14.3	0.0	42.9
重度障害者等包括支援	2	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0
短期入所	26	11.5	61.5	53.8	46.2	11.5	3.8	11.5
相談支援事業	22	18.2	59.1	54.5	50.0	9.1	4.5	27.3
移動支援事業	71	12.7	70.4	70.4	50.7	9.9	7.0	7.0
日常生活用具給付事業	12	8.3	25.0	33.3	41.7	0.0	8.3	41.7
日中短期入所事業	16	12.5	62.5	50.0	43.8	6.3	0.0	18.8
地域活動支援センター事業	3	33.3	33.3	66.7	66.7	0.0	0.0	33.3
障害児相談支援	31	25.8	71.0	74.2	61.3	3.2	6.5	6.5
地域相談支援	31	16.1	74.2	71.0	41.9	12.9	3.2	9.7
計画相談支援	4	0.0	0.0	75.0	75.0	0.0	0.0	25.0
障害者（児）歯科診療	35	20.0	54.3	62.9	42.9	5.7	2.9	17.1
在宅療養者等歯科訪問健診	2	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0

利用している障害児通所支援サービス等別にみると、多くのサービス利用者で「サービス従事者（ホームヘルパー、施設職員など）の質の確保」や「満足できるサービスを提供できる体制の確保」が最も高くなっていますが、「保育所等訪問支援」、「相談支援事業」、「移動支援事業」、「日中短期入所事業」、「地域相談支援」では「希望する曜日・時間帯に確実に利用できること」が最も高くなっています。

(6) 障害児支援利用計画の作成手段

問 23 にあるいずれかの障害児通所支援サービス等で「A 現在利用している」に○をつけた方にお聞きします。

問 25 どのように障害児支援利用計画を作成しましたか。(○はひとつ)



障害児支援利用計画の作成手段は、「障害児相談支援事業所の相談支援専門員に障害児支援利用計画の作成を依頼している」が57.7%と5割半ばを超えており、「自分たち家族や支援者とセルフプランを作成している」が21.2%となっています。

【クロス集計】障害別

	n	障害児相談支援事業所の相談支援専門員に障害児支援利用計画の作成を依頼している	自分たち家族や支援者とセルフプランを作成している	無回答
(単位: %)				
全体	222	57.7	21.2	21.2
障害別				
肢体不自由	30	40.0	30.0	30.0
音声・言語・そしゃく機能障害	19	68.4	15.8	15.8
視覚障害	14	28.6	28.6	42.9
聴覚・平衡機能障害	6	50.0	0.0	50.0
内部障害	13	61.5	15.4	23.1
知的障害	111	64.9	16.2	18.9
発達障害	119	60.5	26.9	12.6
精神障害	3	33.3	33.3	33.3
高次脳機能障害	3	66.7	33.3	0.0
難病(特定疾病)	12	58.3	33.3	8.3
その他	5	80.0	0.0	20.0

障害別にみると、いずれの障害でも「障害児相談支援事業所の相談支援専門員に障害児支援利用計画の作成を依頼している」が最も高くなっています。

“視覚障害”と“精神障害”では、「自分たち家族や支援者とセルフプランを作成している」が「障害児相談支援事業所の相談支援専門員に障害児支援利用計画の作成を依頼している」と同じ割合になっています。

【クロス集計】 障害児通所支援サービス等別

	n	障害児相談支援事業所の 相談支援専門員に障害児 支援利用計画の作成を依 頼している	自分たち家族や支援者と セルフプランを作成して いる	無回答
(単位:%)				
全体	222	57.7	21.2	21.2
児童発達支援	95	66.3	15.8	17.9
医療型児童発達支援	7	57.1	14.3	28.6
放課後等デイサービス	120	62.5	26.7	10.8
居宅訪問型児童発達支援	5	40.0	20.0	40.0
障害児通所支援サービス等別	5	20.0	40.0	40.0
保育所等訪問支援	5	20.0	40.0	40.0
障害児入所施設	3	33.3	0.0	66.7
補装具費の支給等	41	31.7	19.5	48.8
短期保護	21	66.7	14.3	19.0
医療的ケア児在宅レスパイト事業	7	42.9	42.9	14.3
福祉タクシー利用券等	21	52.4	4.8	42.9
居宅介護	5	40.0	20.0	40.0
重度訪問介護	2	50.0	0.0	50.0
同行援護	9	44.4	22.2	33.3
行動援護	7	42.9	14.3	42.9
重度障害者等包括支援	2	50.0	0.0	50.0
短期入所	26	65.4	19.2	15.4
相談支援事業	22	63.6	9.1	27.3
移動支援事業	71	66.2	19.7	14.1
日常生活用具給付事業	12	8.3	50.0	41.7
日中短期入所事業	16	75.0	6.3	18.8
地域活動支援センター事業	3	33.3	33.3	33.3

利用している障害児通所支援サービス等別にみると、“保育所等訪問支援”と“日常生活用具給付事業”では「自分たち家族や支援者とセルフプランを作成している」が最も高くなっています。

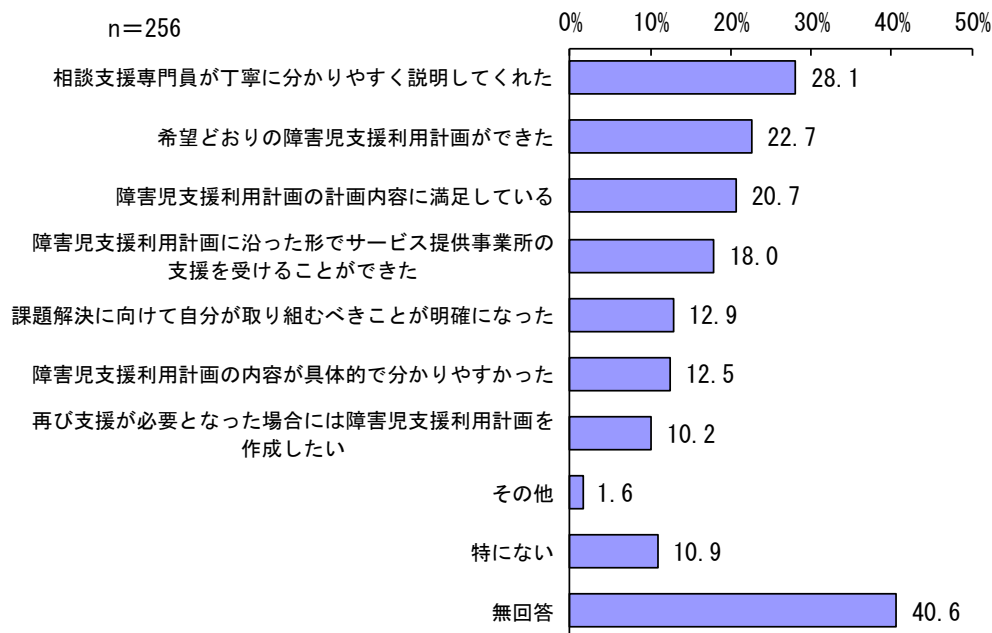
“医療的ケア児在宅レスパイト事業”と“地域活動支援センター事業”では「障害児相談支援事業所の相談支援専門員に障害児支援利用計画の作成を依頼している」と「自分たち家族や支援者とセルフプランを作成している」が同じ割合になっています。

それ以外のサービスでは「障害児相談支援事業所の相談支援専門員に障害児支援利用計画の作成を依頼している」が最も高くなっています。

(7) 障害児支援利用計画の作成時に満足したこと

障害児相談支援事業所で障害児支援利用計画を作成したことがある方にお聞きします。

問 26 障害児支援利用計画を作成して満足したことはありますか。(あてはまるものすべてに○)



障害児支援利用計画を作成して満足したことは、「相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれた」が28.1%と3割近くで最も高く、次いで「希望どおりの障害児支援利用計画ができた」が22.7%、「障害児支援利用計画の計画内容に満足している」が20.7%と2割台が続いています。一方、「特にない」は10.9%と1割を占めています。

【クロス集計】障害別

(単位: %)	n	相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれた	希望どおりの障害児支援利用計画ができた	障害児支援利用計画の計画内容に満足している	再び支援が必要となった場合には障害児支援利用計画を作成したい	障害児支援利用計画に沿った形でサービス提供事業所の支援を受けることができた
全体	256	28.1	22.7	20.7	10.2	18.0
障害別						
肢体不自由	33	18.2	6.1	15.2	9.1	12.1
音声・言語・そしゃく機能障害	19	26.3	10.5	15.8	10.5	10.5
視覚障害	15	13.3	6.7	20.0	13.3	6.7
聴覚・平衡機能障害	6	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0
内部障害	19	21.1	0.0	10.5	5.3	15.8
知的障害	123	32.5	22.0	24.4	13.0	17.9
発達障害	136	32.4	28.7	23.5	12.5	16.9
精神障害	4	50.0	25.0	0.0	25.0	25.0
高次脳機能障害	3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	14	28.6	7.1	7.1	7.1	14.3
その他	5	40.0	20.0	0.0	0.0	40.0

(単位: %)	n	障害児支援利用計画の内容が具体的に分かりやすかった	課題解決に向けて自分に取り組むべきことが明確になった	その他	特にない	無回答
全体	256	12.5	12.9	1.6	10.9	40.6
障害別						
肢体不自由	33	6.1	9.1	0.0	9.1	48.5
音声・言語・そしゃく機能障害	19	10.5	10.5	0.0	26.3	21.1
視覚障害	15	6.7	6.7	0.0	20.0	60.0
聴覚・平衡機能障害	6	0.0	0.0	0.0	16.7	66.7
内部障害	19	5.3	0.0	0.0	5.3	63.2
知的障害	123	13.0	12.2	2.4	9.8	33.3
発達障害	136	14.0	16.9	1.5	12.5	35.3
精神障害	4	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0
高次脳機能障害	3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3
難病（特定疾病）	14	0.0	14.3	0.0	7.1	42.9
その他	5	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0

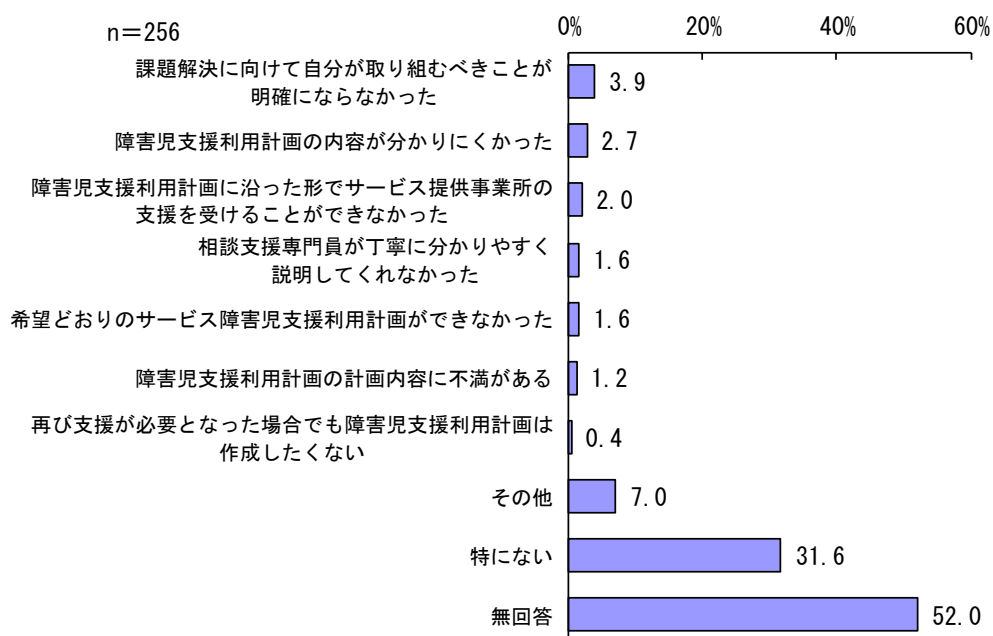
障害別にみると、“視覚障害”では「障害児支援利用計画の計画内容に満足している」が20.0%と2割で最も高くなっています。

それ以外の障害ではいずれも、「相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれた」が最も高くなっています。

(8) 障害児支援利用計画の作成時に満足できなかったこと

障害児相談支援事業所で障害児支援利用計画を作成したことがある方にお聞きします。

問 27 障害児支援利用計画を作成して満足できなかったことはありますか。(あてはまるものすべてに○)



障害児支援利用計画を作成して満足できなかったことは、「課題解決に向けて自分が取り組むべきことが明確にならなかった」が3.9%と最も高く、次いで「障害児支援利用計画の内容が分かりにくかった」が2.7%、「障害児支援利用計画に沿った形でサービス提供事業所の支援を受けることができなかった」が2.0%と続いています。

一方、「特にない」は31.6%と3割を超えています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明し てくれなかった	希望どおりのサービス障害児 支援利用計画が できなかった	障害児支援利用 計画の計画内容 に不満がある	再び支援が必要と なった場合でも障 害児支援利用計画 は作成したくない	障害児支援利用計 画に沿った形でサ ービス提供事業所の支 援を受けることが できなかった
全体	256	1.6	1.6	1.2	0.4	2.0
障害別						
肢体不自由	33	3.0	3.0	6.1	3.0	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	19	0.0	0.0	5.3	0.0	5.3
視覚障害	15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
内部障害	19	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
知的障害	123	1.6	0.8	0.8	0.0	2.4
発達障害	136	0.7	1.5	0.7	0.0	3.7
精神障害	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
難病（特定疾病）	14	7.1	7.1	14.3	7.1	0.0
その他	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(単位:%)	n	障害児支援利用 計画の内容が分 かりにくかった	課題解決に向けて 自分に取り組むべ きことが明確にな らなかった	その他	特にない	無回答
全体	256	2.7	3.9	7.0	31.6	52.0
障害別						
肢体不自由	33	3.0	3.0	15.2	24.2	57.6
音声・言語・そしゃく機能障害	19	5.3	10.5	10.5	42.1	31.6
視覚障害	15	0.0	0.0	6.7	20.0	73.3
聴覚・平衡機能障害	6	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7
内部障害	19	0.0	0.0	5.3	21.1	73.7
知的障害	123	2.4	4.9	9.8	30.9	49.6
発達障害	136	2.9	4.4	6.6	35.3	46.3
精神障害	4	0.0	25.0	0.0	50.0	25.0
高次脳機能障害	3	0.0	33.3	0.0	33.3	33.3
難病（特定疾病）	14	7.1	7.1	14.3	28.6	50.0
その他	5	0.0	40.0	0.0	40.0	20.0

障害別にみると、いずれの障害も「特にない」が最も多くなっています。

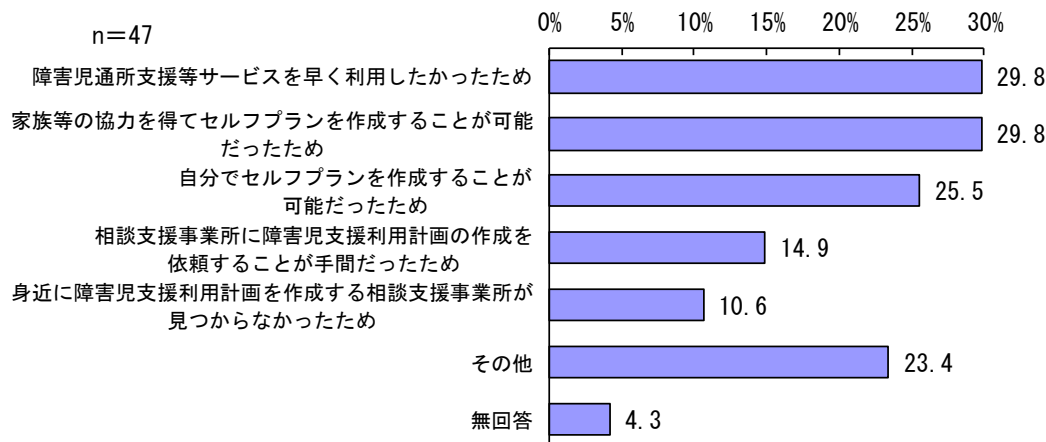
「特にない」、「その他」以外では、「肢体不自由」、「高次脳機能障害」「難病（特定疾病）」で、「障害児支援利用計画の計画内容に不満がある」が最も高くなっています。

また、半分以上の障害で「課題解決に向けて自分に取り組むべきことが明確にならなかった」が最も高くなっています。

(9) セルフプランにした理由

問 25 で「セルフプランを作成している」と回答した方にお聞きします。

問 28 セルフプランとした理由はなんですか。(あてはまるものすべてに○)



セルフプランを作成した理由は、「障害児通所支援等サービスを早く利用しなかったため」と「家族等の協力を得てセルフプランを作成することが可能だったため」がともに 29.8%と約3割で最も高く、次いで「自分でセルフプランを作成することが可能だったため」が 25.5%と続いています。

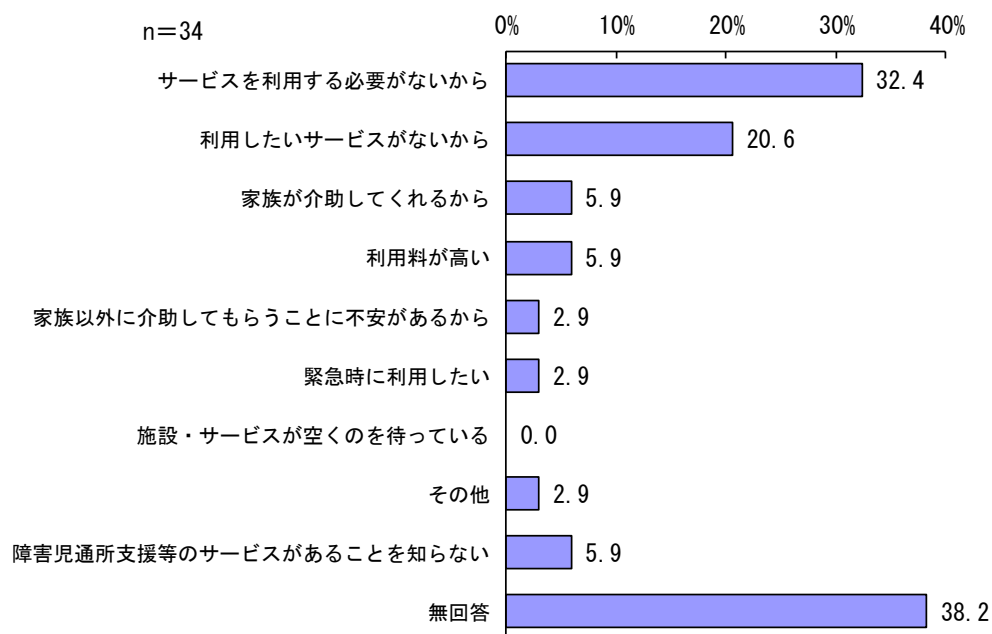
【クロス集計】障害別

	n	相談支援事業所に障害児支援利用計画の作成を依頼することが手間だったため	身近に障害児支援利用計画を作成する相談支援事業所が見つからなかったため	障害児通所支援等サービスを早く利用しなかったため	家族等の協力を得てセルフプランを作成することが可能だったため	自分でセルフプランを作成することが可能だったため	その他	無回答
		(単位:%)						
全体	47	14.9	10.6	29.8	29.8	25.5	23.4	4.3
障害別								
肢体不自由	9	0.0	11.1	22.2	11.1	11.1	66.7	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	3	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0
視覚障害	4	0.0	0.0	50.0	25.0	50.0	50.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
内部障害	2	0.0	0.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0
知的障害	18	22.2	16.7	44.4	33.3	27.8	27.8	0.0
発達障害	32	18.8	9.4	31.3	34.4	25.0	18.8	6.3
精神障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
難病(特定疾病)	4	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	75.0	0.0
その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

障害別にみると、回答数が10件以上の“知的障害”では「障害児通所支援等サービスを早く利用しなかったため」が 44.4%、「発達障害」では「家族等の協力を得てセルフプランを作成することが可能だったため」が 34.4%と最も高くなっています。

(10) 障害児通所支援等サービスを利用していない理由

問 23 にあるいずれの障害児通所支援等サービスも利用していない方にお聞きします
問 29 障害児通所支援等のサービスを利用しない理由はなんですか。(あてはまるものすべてに○)



障害児通所支援等サービスを利用していない理由は、「サービスを利用する必要がないから」が32.4%と3割を超えて最も高く、次いで「利用したいサービスがないから」が20.6%と続いています。一方、「障害児通所支援等のサービスがあることを知らない」は5.9%となっています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	サービスを利用する必要がないから	利用したいサービスがないから	家族が介助してくれるから	家族以外に介助してもらうことに不安があるから	施設・サービスが空くのを待っている	
全体	34	32.4	20.6	5.9	2.9	0.0	
障害別	肢体不自由	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	視覚障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	内部障害	6	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	知的障害	12	33.3	16.7	8.3	0.0	0.0
	発達障害	17	41.2	41.2	11.8	5.9	0.0
	精神障害	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	高次脳機能障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病(特定疾病)	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

(単位:%)	n	緊急時に利用したい	利用料が高い	その他	障害児通所支援等のサービスがあることを知らない	無回答	
全体	34	2.9	5.9	2.9	5.9	38.2	
障害別	肢体不自由	3	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	視覚障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	聴覚・平衡機能障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	内部障害	6	0.0	0.0	0.0	33.3	50.0
	知的障害	12	0.0	0.0	8.3	0.0	50.0
	発達障害	17	5.9	11.8	0.0	0.0	11.8
	精神障害	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	高次脳機能障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病(特定疾病)	2	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

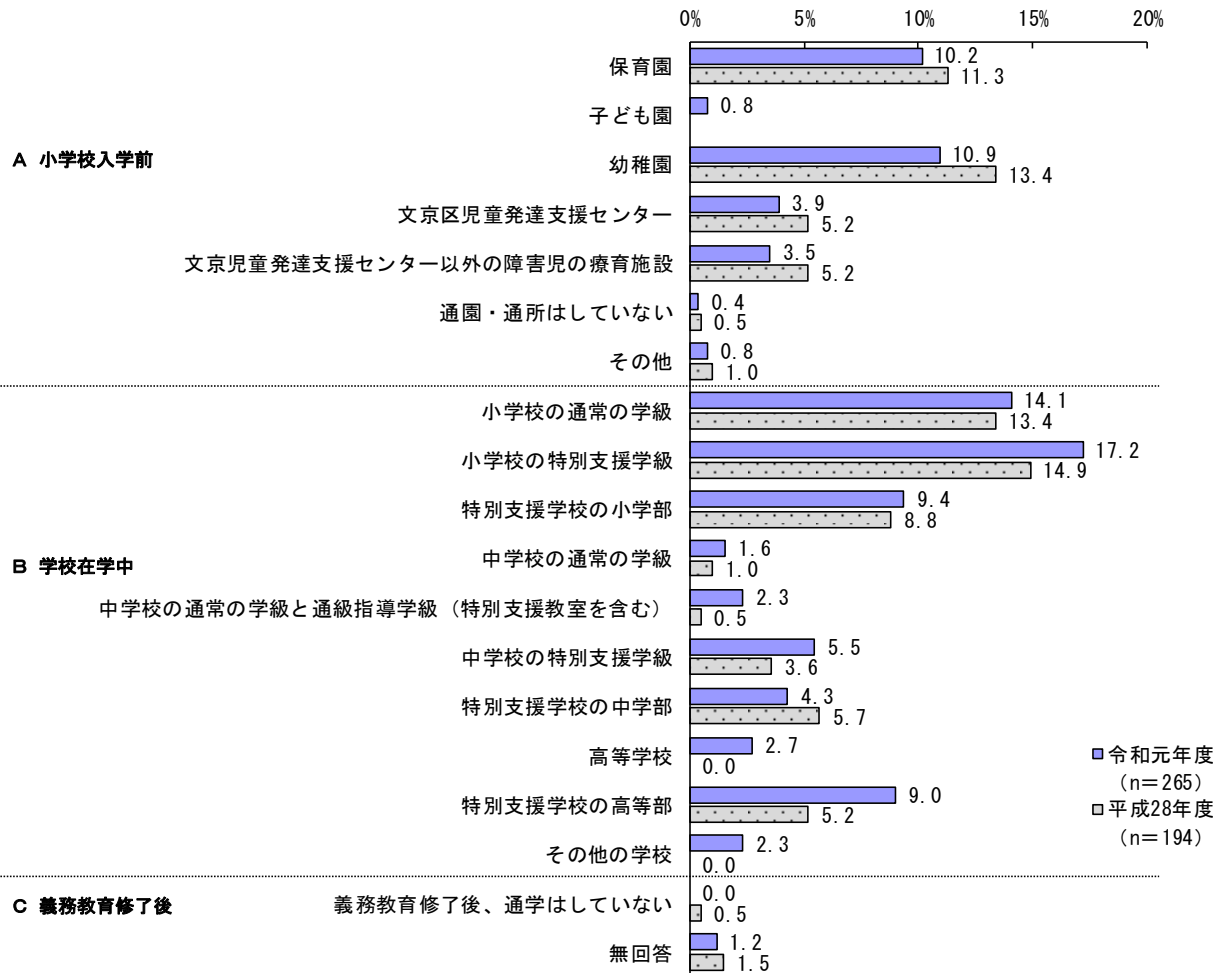
障害別にみると、回答数が10件以上の“知的障害”では「サービスを利用する必要がないから」が33.3%と最も高くなっています。

同じく回答数が10件以上の“発達障害”では「サービスを利用する必要がないから」と「利用したいサービスがないから」がともに41.2%と最も高くなっています。

5 教育・保育について

(1) 主な通園・通学先

問 30 あなたが主に通園・通学などを行っているところをお聞きます。(〇はひとつ)



主な通園・通学先は、「小学校の特別支援学級」が17.2%と最も高く、次いで「小学校の通常の学級」が14.1%、「幼稚園」が10.9%、「保育園」が10.2%と続いています。

また、「義務教育修了後、通学はしていない」という回答はありませんでした。

【クロス集計】障害別

【A 小学校入学前】

(単位：%)		保育園	子ども園	幼稚園	文京区児童発達支援センター	文京区児童発達支援センター以外の障害児の療育施設	通園・通所はしていない	その他
n								
全体	256	10.2	0.8	10.9	3.9	3.5	0.4	0.8
障害別	肢体不自由	33	12.1	0.0	3.0	0.0	12.1	3.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	19	15.8	5.3	0.0	10.5	10.5	0.0
	視覚障害	15	13.3	0.0	6.7	0.0	6.7	0.0
	聴覚・平衡機能障害	6	16.7	16.7	0.0	0.0	33.3	16.7
	内部障害	19	21.1	5.3	15.8	0.0	5.3	5.3
	知的障害	123	8.1	1.6	6.5	4.1	4.9	0.0
	発達障害	136	8.8	0.0	11.8	5.1	1.5	0.0
	精神障害	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	高次脳機能障害	3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	14	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0
	その他	5	20.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0

【B 学校在学中】

(単位：%)		小学校の通常の学級	小学校の特別支援学級	特別支援学校の小学部	中学校の通常の学級	中学校の通常の学級と通級指導学級（特別支援教室を含む）	中学校の特別支援学級	特別支援学校の中学部
n								
全体	256	14.1	17.2	9.4	1.6	2.3	5.5	4.3
障害別	肢体不自由	33	12.1	3.0	21.2	3.0	0.0	12.1
	音声・言語・そしゃく機能障害	19	0.0	0.0	21.1	0.0	0.0	10.5
	視覚障害	15	0.0	6.7	33.3	0.0	0.0	6.7
	聴覚・平衡機能障害	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	内部障害	19	15.8	0.0	5.3	5.3	0.0	0.0
	知的障害	123	0.8	23.6	15.4	1.6	0.0	7.3
	発達障害	136	19.9	20.6	6.6	2.2	4.4	1.5
	精神障害	4	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
	高次脳機能障害	3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	14	7.1	0.0	21.4	0.0	0.0	14.3
	その他	5	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0

(単位：%)		高等学校	特別支援学校の高等部	その他の学校
n				
全体	256	2.7	9.0	2.3
障害別	肢体不自由	33	3.0	9.1
	音声・言語・そしゃく機能障害	19	0.0	21.1
	視覚障害	15	0.0	13.3
	聴覚・平衡機能障害	6	0.0	16.7
	内部障害	19	0.0	15.8
	知的障害	123	0.8	14.6
	発達障害	136	2.2	4.4
	精神障害	4	0.0	25.0
	高次脳機能障害	3	0.0	33.3
	難病（特定疾病）	14	14.3	14.3
	その他	5	0.0	0.0

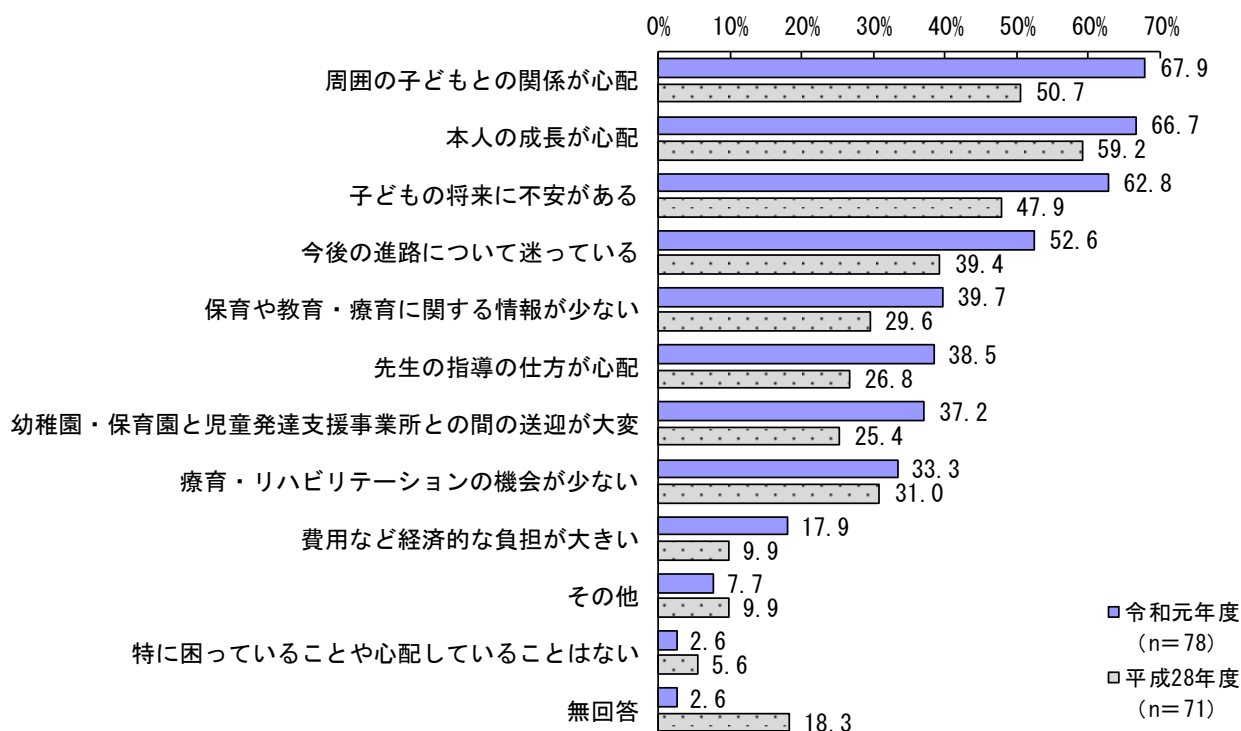
【A 小学校入学前】を障害別にみると、“発達障害”と“その他”では、「幼稚園」が、“肢体不自由”、“聴覚・平衡機能障害”、“難病（特定疾病）”では「文京区児童発達支援センター以外の障害児の療育施設」が最も高く、それ以外の障害では「保育園」が最も高くなっています。

【B 学校在学中】を障害別にみると、“聴覚・平衡機能障害”を除く身体障害と“難病（特定疾病）”では「特別支援学校の小学部」が高くなっています。また、“知的障害”、“発達障害”、“高次脳機能障害”では「小学校の特別支援学級」が最も高く、“内部障害”では「小学校の通常の学級」と「特別支援学校の高等部」が最も高くなっています。

(2) 通園生活等の困りごと

問 30 で「A 小学校入学前」の中から回答した家族の方にお聞きします。

問 31 通園生活や今後の進路等で困っていることや心配していることはありますか。(あてはまるものすべてに○)



小学校入学前児童の通園生活等の困りごとは、「周囲の子どもとの関係が心配」が 67.9%、「本人の成長が心配」が 66.7%、「子どもの将来に不安がある」が 62.8%と 6 割台で高く、次いで「今後の進路について迷っている」が 52.6%と続いています。

平成 28 年度と比較すると、「その他」以外のいずれの項目の割合も平成 28 年度を大きく上回っており、特に「周囲の子どもとの関係が心配」は 17.2 ポイント、「子どもの将来に不安がある」は 14.9 ポイント大きく上回っています。

【クロス集計】年代別・障害別

(単位:%)		n	周囲の子どもとの関係が心配	先生の指導の仕方が心配	本人の成長が心配	今後の進路について迷っている	子どもの将来に不安がある	保育や教育・療育に関する情報が少ない
年代別	全体	78	67.9	38.5	66.7	52.6	62.8	39.7
	0～2歳	8	50.0	25.0	87.5	75.0	75.0	50.0
	3～5歳	59	71.2	39.0	67.8	52.5	64.4	42.4
障害別	肢体不自由	10	20.0	10.0	50.0	30.0	60.0	20.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	8	37.5	25.0	50.0	62.5	75.0	62.5
	視覚障害	4	75.0	25.0	75.0	75.0	75.0	50.0
	聴覚・平衡機能障害	5	60.0	0.0	60.0	100.0	60.0	20.0
	内部障害	11	45.5	18.2	54.5	54.5	63.6	36.4
	知的障害	31	54.8	45.2	58.1	67.7	74.2	51.6
	発達障害	37	83.8	48.6	78.4	45.9	67.6	51.4
	精神障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
	難病(特定疾病)	4	0.0	0.0	50.0	50.0	75.0	25.0
その他	3	100.0	33.3	66.7	66.7	66.7	66.7	

(単位:%)		n	療育・リハビリテーションの機会が少ない	費用など経済的な負担が大きい	幼稚園・保育園と児童発達支援事業所との間の送迎が大変	その他	特に困っていることや心配していることはない	無回答
年代別	全体	78	33.3	17.9	37.2	7.7	2.6	2.6
	0～2歳	8	12.5	12.5	37.5	0.0	0.0	0.0
	3～5歳	59	37.3	18.6	40.7	6.8	3.4	3.4
障害別	肢体不自由	10	30.0	40.0	60.0	20.0	0.0	10.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	8	37.5	37.5	62.5	12.5	0.0	0.0
	視覚障害	4	25.0	25.0	75.0	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	5	20.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0
	内部障害	11	9.1	18.2	18.2	0.0	18.2	0.0
	知的障害	31	48.4	19.4	41.9	9.7	0.0	3.2
	発達障害	37	37.8	18.9	43.2	5.4	0.0	0.0
	精神障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	高次脳機能障害	1	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	難病(特定疾病)	4	50.0	25.0	75.0	0.0	0.0	0.0
その他	3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

年代別にみると、“0～2歳”では「本人の成長が心配」が87.5%と最も高くなっています。

“3～5歳”では、「周囲の子どもとの関係が心配」が71.2%と最も高くなっています。

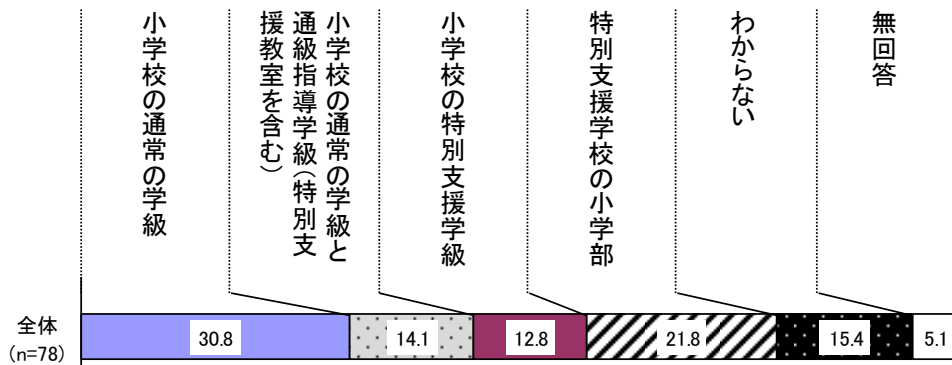
障害別にみると、回答数が10件以上の“肢体不自由”では「子どもの将来に不安がある」と「幼稚園・保育園と児童発達支援事業所との間の送迎が大変」が60.0%と最も高くなっています。

同じく回答数が10件以上の“知的障害”と“内部障害”では「子どもの将来に不安がある」が最も高く、“発達障害”では「周囲の子どもとの関係が心配」が83.8%と8割を超えて最も高くなっています。

(3) 小学校入学前児童の希望の教育機関

問30で「A 小学校入学前」の中から回答した家族の方にお聞きします。

問32 小学校はどの教育機関を希望しますか。(〇はひとつ)



小学校入学前児童の希望の教育機関は、「小学校の通常の学級」が30.8%と3割で最も高く、次いで「特別支援学校の小学部」が21.8%、「小学校の通常の学級と通級指導学級(特別支援教室を含む)」が14.1%、「小学校の特別支援学級」が12.8%と続いています。一方、「わからない」は15.4%と1割半ばを占めています。

【クロス集計】年代別・障害別

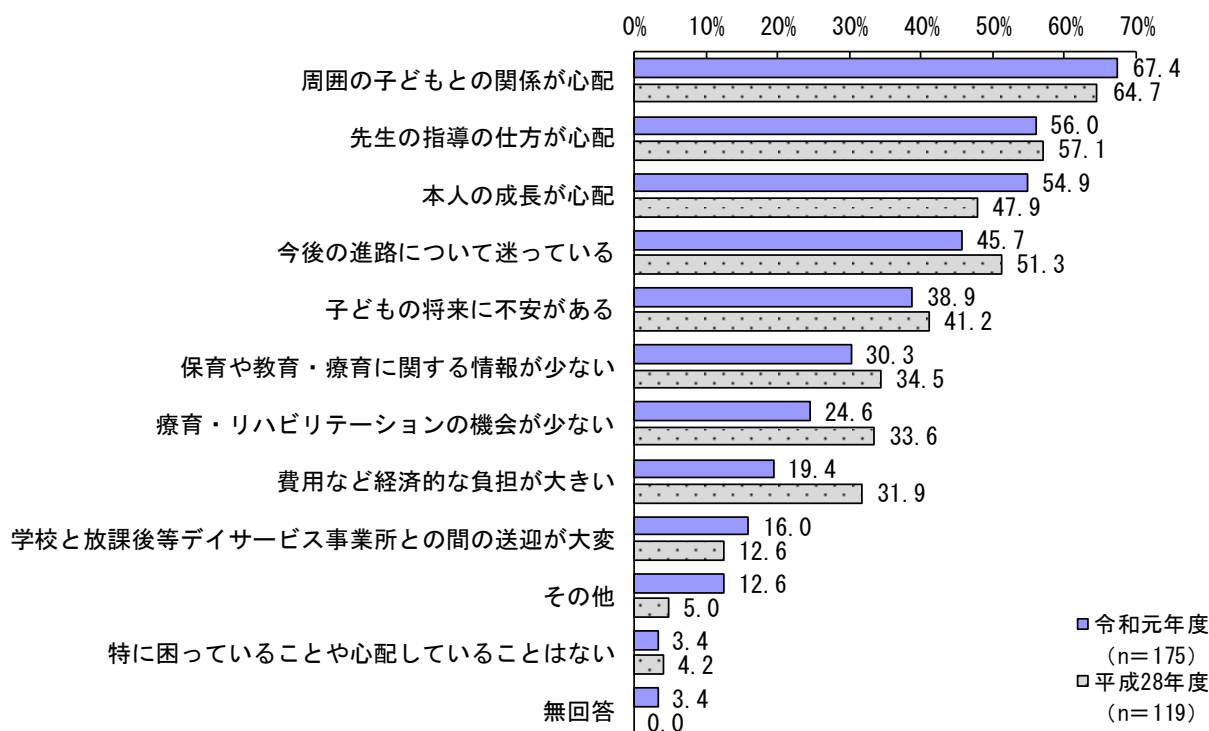
	n	小学校の通常の学級	小学校の通常の学級と通級指導学級(特別支援教室を含む)	小学校の特別支援学級	特別支援学校の小学部	わからない	無回答
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
全体	78	30.8	14.1	12.8	21.8	15.4	5.1
年代別							
0～2歳	8	25.0	12.5	0.0	25.0	37.5	0.0
3～5歳	59	32.2	11.9	11.9	23.7	13.6	6.8
障害別							
肢体不自由	10	0.0	10.0	0.0	40.0	40.0	10.0
音声・言語・そしゃく機能障害	8	0.0	0.0	25.0	75.0	0.0	0.0
視覚障害	4	0.0	0.0	25.0	50.0	25.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	5	20.0	0.0	20.0	40.0	20.0	0.0
内部障害	11	45.5	9.1	9.1	18.2	18.2	0.0
知的障害	31	0.0	3.2	19.4	48.4	19.4	9.7
発達障害	37	32.4	24.3	13.5	24.3	5.4	0.0
精神障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	4	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0
その他	3	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0

年代別にみると、“0～2歳”では「わからない」が37.5%と最も高くなっています。“3～5歳”では、「小学校の通常の学級」が32.2%と最も高くなっています。障害別にみると、“内部障害”と“精神障害”では「小学校の通常の学級」が最も高くなっています。それ以外の障害では「特別支援学校の小学部」が最も高くなっています。

(4) 通学生活等の困りごと

問 30 で「B 学校在学中」の中から回答した家族の方にお聞きします。

問 33 通学生活等で困っていることや心配していることはありますか。(あてはまるものすべてに○)



学校在学中の児童の通学生活等の困りごとは、「周囲の子どもとの関係が心配」が 67.4%と 6 割半ばを超えて最も高く、次いで「先生の指導の仕方が心配」が 56.0%、「本人の成長が心配」が 54.9%と 5 割台が続いています。

平成 28 年度と比較すると、「本人の成長が心配」が 7.0 ポイント上がっていますが、全体的に平成 28 年度より割合が下がっている項目が多く、特に「費用など経済的な負担が大きい」は 12.5 ポイント、「療育・リハビリテーションの機会が少ない」は 9.0 ポイント大きく下がっています。

【クロス集計】年代別・障害別

(単位：%)		n	周囲の子どもの関係が心配	先生の指導の仕方が心配	本人の成長が心配	今後の進路について迷っている	子どもの将来に不安がある	保育や教育・療育に関する情報が少ない
全体		175	45.7	38.9	56.0	54.9	67.4	19.4
年代別	6～8歳	42	64.3	45.2	76.2	57.1	71.4	23.8
	9～11歳	53	43.4	49.1	60.4	58.5	75.5	26.4
	12～14歳	34	38.2	35.3	52.9	58.8	64.7	23.5
	15歳以上	38	31.6	21.1	31.6	44.7	60.5	0.0
	障害別	肢体不自由	21	33.3	23.8	33.3	14.3	52.4
	音声・言語・そしゃく機能障害	11	27.3	18.2	45.5	27.3	63.6	27.3
	視覚障害	10	10.0	10.0	20.0	30.0	70.0	10.0
	聴覚・平衡機能障害	1	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	内部障害	8	12.5	37.5	25.0	25.0	62.5	25.0
	知的障害	91	31.9	30.8	51.6	52.7	70.3	17.6
	発達障害	98	62.2	48.0	69.4	64.3	74.5	25.5
	精神障害	4	75.0	75.0	100.0	75.0	75.0	25.0
	高次脳機能障害	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	10	30.0	10.0	60.0	30.0	50.0	0.0
	その他	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0

(単位：%)		n	療育・リハビリテーションの機会が少ない	費用など経済的な負担が大きい	学校と放課後等デイサービス事業所との間の送迎が大変	その他	特に困っていることや心配していることはない	無回答
全体		175	30.3	16.0	24.6	12.6	3.4	3.4
年代別	6～8歳	42	33.3	16.7	47.6	11.9	0.0	0.0
	9～11歳	53	35.8	11.3	24.5	7.5	1.9	0.0
	12～14歳	34	29.4	23.5	14.7	17.6	8.8	0.0
	15歳以上	38	13.2	13.2	5.3	13.2	5.3	13.2
	障害別	肢体不自由	21	23.8	9.5	23.8	14.3	9.5
	音声・言語・そしゃく機能障害	11	45.5	9.1	9.1	18.2	18.2	0.0
	視覚障害	10	10.0	10.0	20.0	0.0	10.0	10.0
	聴覚・平衡機能障害	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	内部障害	8	25.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	知的障害	91	33.0	11.0	26.4	11.0	3.3	4.4
	発達障害	98	35.7	20.4	28.6	16.3	2.0	2.0
	精神障害	4	75.0	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0
	高次脳機能障害	2	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
	難病（特定疾病）	10	10.0	30.0	20.0	10.0	0.0	0.0
	その他	2	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0

年代別にみると、「6～8歳」では「本人の成長が心配」が76.2%と最も高く、「子どもの将来に不安がある」も71.4%と7割を超えて高くなっています。

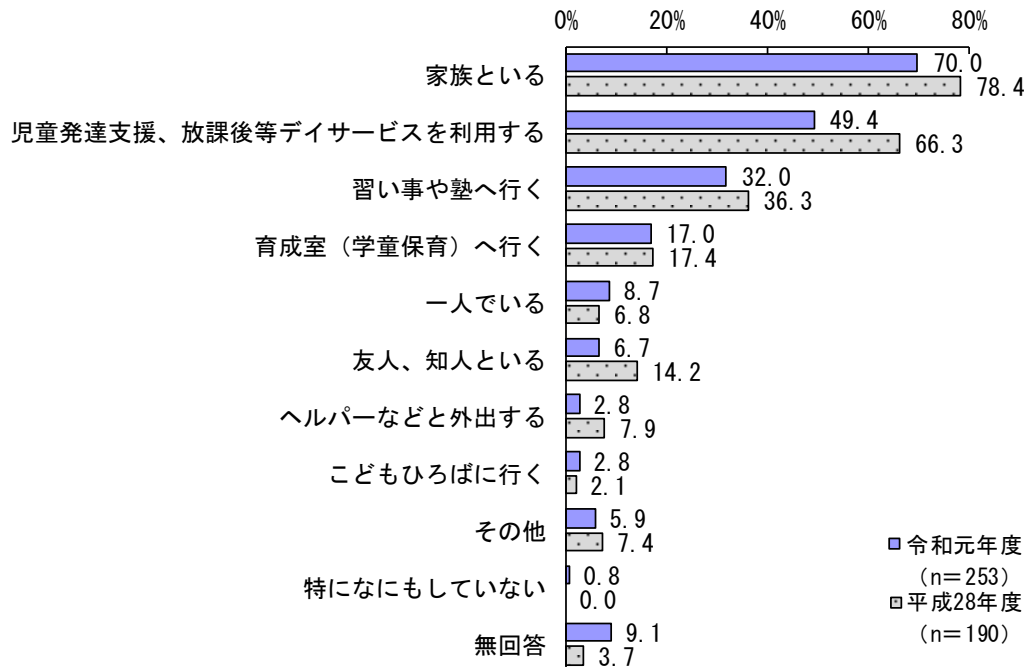
それ以外の年代ではいずれも「子どもの将来に不安がある」が6割以上で最も高くなっています。

障害別にみると、いずれの障害も「子どもの将来に不安がある」が5割以上で高くなっています。

“難病（特定疾病）”では「本人の成長が心配」が60.0%と最も高くなっています。

(5) 学校等以外の過ごし方

問30で「A 小学校入学前」、「B 学校在学中」の中から回答した家族の方にお聞きします。
 問34 放課後や長期休業中など、幼稚園や保育園、子ども園、学校等にいる以外の時間は、
 どのように過ごしていますか。(あてはまるものすべてに○)



幼稚園や保育園、子ども園、学校等にいる以外の時間の過ごし方は、「家族といる」が70.0%と7割で最も高く、次いで「児童発達支援、放課後等デイサービスを利用する」が49.4%、「習い事や塾へ行く」が32.0%と続いています。

平成28年度と比較すると、「一人でいる」、「こどもひろばに行く」以外の項目はいずれも平成28年度より割合が下がっているおり、特に「児童発達支援、放課後等デイサービスを利用する」は16.9ポイント、「家族といる」は8.4ポイント、「友人、知人といる」は7.5ポイント大きく下がっています。

【クロス集計】年代別・障害別

(単位：%)		n	家族とい	友人、知人	一人でいる	ヘルパーな	育成室(学	こどもひろ
			いる	とい		どと外出す	童保育)へ	ばに行く
全体	253	70.0	6.7	8.7	2.8	17.0	2.8	
年代別	0～2歳	8	75.0	12.5	0.0	0.0	25.0	
	3～5歳	59	83.1	5.1	0.0	0.0	5.1	
	6～8歳	53	67.9	3.8	0.0	0.0	28.3	
	9～11歳	53	62.3	7.5	7.5	3.8	45.3	
	12～14歳	34	82.4	5.9	29.4	2.9	0.0	
	15歳以上	38	55.3	10.5	18.4	10.5	0.0	
障害別	肢体不自由	31	61.3	9.7	3.2	3.2	6.5	
	音声・言語・そしゃく機能障害	19	68.4	5.3	0.0	15.8	0.0	
	視覚障害	14	71.4	14.3	0.0	0.0	21.4	
	聴覚・平衡機能障害	6	100.0	0.0	0.0	0.0	50.0	
	内部障害	19	63.2	5.3	5.3	5.3	10.5	
	知的障害	122	72.1	4.9	7.4	4.9	18.0	
	発達障害	135	74.8	5.9	11.1	2.2	18.5	
	精神障害	4	50.0	0.0	25.0	25.0	25.0	
	高次脳機能障害	3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	難病(特定疾病)	14	78.6	14.3	7.1	7.1	0.0	
	その他	5	80.0	0.0	0.0	0.0	20.0	

(単位：%)		n	児童発達支援、 放課後等デ イサービスを利用	習い事や塾 へ行く	その他	特になにも していない	無回答
全体	253	49.4	32.0	5.9	0.8	9.1	
年代別	0～2歳	8	12.5	0.0	0.0	12.5	
	3～5歳	59	32.2	18.6	6.8	15.3	
	6～8歳	53	52.8	35.8	11.3	5.7	
	9～11歳	53	71.7	52.8	3.8	1.9	
	12～14歳	34	47.1	38.2	2.9	0.0	
	15歳以上	38	50.0	15.8	5.3	0.0	
障害別	肢体不自由	31	51.6	12.9	6.5	0.0	
	音声・言語・そしゃく機能障害	19	63.2	10.5	0.0	0.0	
	視覚障害	14	50.0	28.6	0.0	0.0	
	聴覚・平衡機能障害	6	16.7	0.0	0.0	0.0	
	内部障害	19	26.3	10.5	5.3	5.3	
	知的障害	122	60.7	27.0	4.9	0.0	
	発達障害	135	54.8	40.0	7.4	0.7	
	精神障害	4	25.0	25.0	0.0	0.0	
	高次脳機能障害	3	66.7	33.3	0.0	0.0	
	難病(特定疾病)	14	50.0	14.3	0.0	0.0	
	その他	5	60.0	20.0	0.0	0.0	

年代別にみると、“9～11歳”では「児童発達支援、放課後等デイサービスを利用する」が71.7%と7割を超えて、最も高くなっています。

それ以外の年代ではいずれも「家族といる」が最も高く、また“9～11歳”を含むいずれの年代でも6割を超えています。

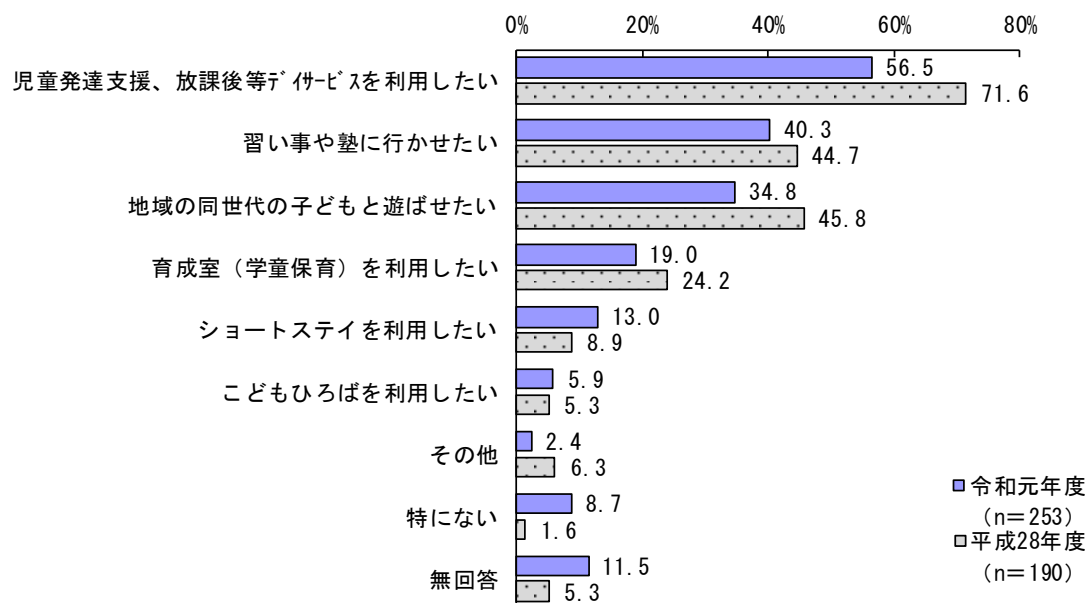
また、「育成室(学童保育)へ行く」は“6～8歳”で28.3%、“9～11歳”で45.3%と他の年代よりも高くなっています。

障害別にみると、“高次脳機能障害”以外のいずれの障害も「家族といる」が最も高くなっています。

また、“聴覚・平衡機能障害”と“内部障害”以外のいずれの障害も「児童発達支援、放課後等デイサービスを利用する」が5割を超えて高くなっています。

(6) 学校等以外の過ごし方希望

問 30 で「A 小学校入学前」、「B 学校在学中」の中から回答した家族の方にお聞きします。
 問 35 放課後や長期休業中など、幼稚園や保育園、子ども園、学校等にいる以外の時間は、
 どのように過ごすことを希望しますか。



幼稚園や保育園、子ども園、学校等にいる以外の時間の希望する過ごし方は、「児童発達支援、放課後等デイサービスを利用したい」が 56.5%と 5 割半ばを超えて最も高く、次いで「習い事や塾に行かせたい」が 40.3%、「地域の同世代の子どもと遊ばせたい」が 34.8%と続いています。

平成 28 年度と比較すると、「ショートステイを利用したい」、「こどもひろばを利用したい」以外の項目はいずれも平成 28 年度より割合が下がっており、特に「児童発達支援、放課後等デイサービスを利用したい」は 15.1 ポイント、「地域の同世代の子どもと遊ばせたい」は 11.0 ポイント大きく下がっています。

【クロス集計】年代別・障害別

(単位:%)		n	地域の同世代 の子どもと遊 ばせたい	育成室(学童 保育)を利用 したい	こどもひろば を利用したい	習い事や塾に 行かせたい	ショートステ イを利用した い
全体		253	34.8	19.0	5.9	40.3	13.0
年代別	0～2歳	8	37.5	12.5	0.0	12.5	12.5
	3～5歳	59	37.3	16.9	10.2	25.4	5.1
	6～8歳	53	37.7	32.1	3.8	52.8	7.5
	9～11歳	53	52.8	34.0	13.2	62.3	13.2
	12～14歳	34	14.7	0.0	0.0	32.4	20.6
	15歳以上	38	15.8	0.0	0.0	23.7	26.3
障害別	肢体不自由	31	22.6	12.9	3.2	19.4	22.6
	音声・言語・そしゃく機能障害	19	15.8	15.8	0.0	21.1	21.1
	視覚障害	14	42.9	14.3	0.0	21.4	21.4
	聴覚・平衡機能障害	6	50.0	0.0	0.0	0.0	33.3
	内部障害	19	31.6	26.3	5.3	36.8	15.8
	知的障害	122	27.0	19.7	4.9	36.1	20.5
	発達障害	135	39.3	19.3	6.7	46.7	8.9
	精神障害	4	25.0	0.0	0.0	50.0	25.0
	高次脳機能障害	3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0
	難病(特定疾病)	14	28.6	7.1	0.0	7.1	21.4
	その他	5	20.0	20.0	20.0	60.0	20.0

(単位:%)		n	児童発達支援、放 課後等デイサー ビスを利用した い	その他	特にない	無回答
全体		253	56.5	2.4	8.7	11.5
年代別	0～2歳	8	25.0	0.0	12.5	25.0
	3～5歳	59	61.0	3.4	8.5	15.3
	6～8歳	53	58.5	5.7	0.0	11.3
	9～11歳	53	66.0	0.0	3.8	1.9
	12～14歳	34	50.0	0.0	23.5	8.8
	15歳以上	38	44.7	0.0	15.8	18.4
障害別	肢体不自由	31	54.8	3.2	3.2	9.7
	音声・言語・そしゃく機能障害	19	68.4	5.3	5.3	5.3
	視覚障害	14	50.0	7.1	0.0	7.1
	聴覚・平衡機能障害	6	33.3	0.0	33.3	0.0
	内部障害	19	36.8	5.3	5.3	15.8
	知的障害	122	71.3	1.6	6.6	5.7
	発達障害	135	57.8	2.2	8.9	12.6
	精神障害	4	25.0	0.0	0.0	25.0
	高次脳機能障害	3	66.7	0.0	0.0	0.0
	難病(特定疾病)	14	42.9	0.0	14.3	14.3
	その他	5	80.0	0.0	20.0	0.0

年代別にみると、“0～2歳”では「地域の同世代の子どもと遊ばせたい」が37.5%と最も高くなっています。

それ以外の年代ではいずれも「児童発達支援、放課後等デイサービスを利用したい」が4割以上で最も高くなっています。

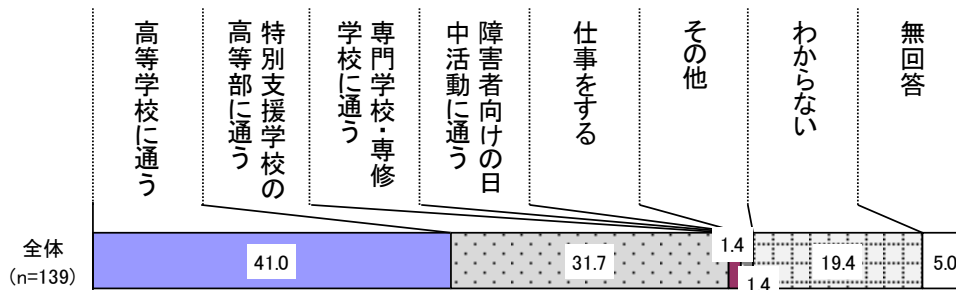
また、「育成室(学童保育)を利用したい」は“6～8歳”で32.1%、“9～11歳”で34.0%と3割を超えて他の年代よりも高くなっています。

障害別にみると、“聴覚・平衡機能障害”と“精神障害”以外のいずれの障害も「児童発達支援、放課後等デイサービスを利用したい」が最も高くなっています。

(7) 中学校卒業後の希望進路

問30で「B 学校在学中」の中から、小学校（小学部）または中学校（中学部）に通っていると回答した方の家族の方にお聞きします。

問36 中学校（中学部）卒業後はどのような進路を希望しますか。（○はひとつ）



中学校（中学部）卒業後の希望進路は、「高等学校に通う」が41.0%と4割を超えて最も高く、次いで「特別支援学校の高等部に通う」が31.7%と続いており、高等学校・高等部で7割以上を占めています。

一方、「わからない」は19.4%と約2割を占めています。

【クロス集計】 障害別

(単位: %)		n	高等学校に通う	特別支援学校の高等部に通う	専門学校・専修学校に通う	障害者向けの日中活動に通う	仕事をする	その他	わからない	無回答
全体	139	41.0	31.7	1.4	0.0	0.0	1.4	19.4	5.0	
年代別	6～8歳	42	61.9	23.8	2.4	0.0	0.0	0.0	7.1	4.8
	9～11歳	53	34.0	24.5	1.9	0.0	0.0	1.9	32.1	5.7
	12～14歳	33	30.3	51.5	0.0	0.0	0.0	3.0	15.2	0.0
	15歳以上	4	0.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
障害別	肢体不自由	17	23.5	64.7	0.0	0.0	0.0	5.9	5.9	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	7	0.0	85.7	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0
	視覚障害	8	0.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
	聴覚・平衡機能障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	内部障害	5	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
	知的障害	70	15.7	51.4	2.9	0.0	0.0	2.9	21.4	5.7
	発達障害	83	56.6	16.9	1.2	0.0	0.0	1.2	19.3	4.8
	精神障害	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	高次脳機能障害	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	6	16.7	66.7	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0
	その他	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

年代別にみると、「6～8歳」と「9～11歳」では「高等学校に通う」が75.0%と最も高くなっています。また、「9～11歳」では「わからない」が32.1%と3割を超えて他の障害よりも高くなっています。

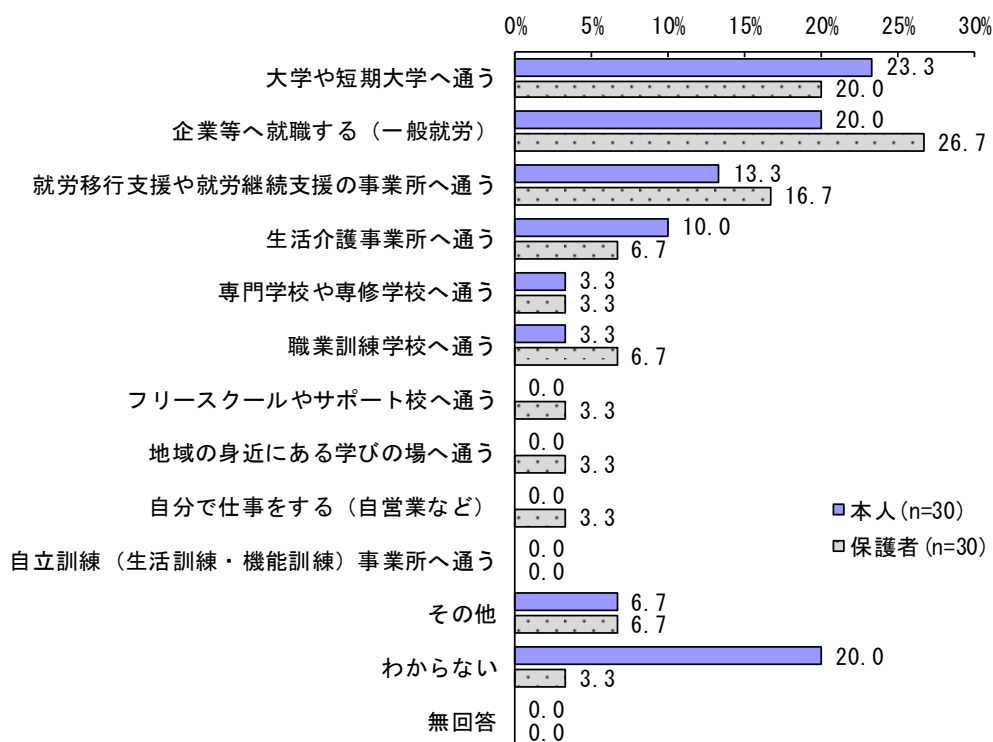
「12～14歳」と「15歳以上」では「特別支援学校の高等部に通う」が75.0%と最も高くなっています。

障害別にみると、いずれの障害も「高等学校に通う」か「特別支援学校の高等部に通う」が最も高くなっています。

(8) 学校卒業後希望する進路

問30で「学校在学中」の中から「高等学校」・「特別支援学校の高等部」、または「C 義務教育を終了後、通学はしていない」と回答した方にお聞きします。

問37 どのような進路を希望しますか。(○はひとつ)



高等学校・高等部卒業後の進路について、本人の希望は、「大学や短期大学へ通う」が23.3%と最も高く、次いで「企業等へ就職する (一般就労)」が20.0%、「就労移行支援や就労継続支援の事業所へ通う」が13.3%、「生活介護事業所へ通う」が10.0%と続いています。

一方、「わからない」は20.0%と2割を占めています。

保護者の希望は、「企業等へ就職する (一般就労)」が26.7%と最も高く、次いで「大学や短期大学へ通う」が20.0%、「就労移行支援や就労継続支援の事業所へ通う」が16.7%と続いています。

【クロス集計】障害別

【本人の希望】

(単位：%)		n	大学や短期大学へ通う	専門学校や専修学校へ通う	フリースクールやサポート校へ通う	地域の身近にある学びの場へ通う	職業訓練学校へ通う	企業等へ就職する（一般就労）	自分で仕事をする（自営業など）
全体		30	23.3	3.3	0.0	0.0	3.3	20.0	0.0
障害別	肢体不自由	4	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
	視覚障害	2	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	内部障害	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	知的障害	19	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0	26.3	0.0
	発達障害	9	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
	精神障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	4	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
	その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(単位：%)		n	就労移行支援や就労継続支援の事業所へ通う	自立訓練（生活訓練・機能訓練）事業所へ通う	生活介護事業所へ通う	その他	わからない	無回答
全体		30	13.3	0.0	10.0	6.7	20.0	0.0
障害別	肢体不自由	4	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	4	0.0	0.0	50.0	0.0	25.0	0.0
	視覚障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	内部障害	3	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0
	知的障害	19	21.1	0.0	15.8	5.3	26.3	0.0
	発達障害	9	0.0	0.0	11.1	11.1	11.1	0.0
	精神障害	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	難病（特定疾病）	4	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
	その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【本人の希望】を障害別にみると、回答数が10件以上の“知的障害”では、「企業等へ就職する（一般就労）」が26.3%と2割半ばを超えて最も高くなっています。

【クロス集計】障害別

【保護者の希望】

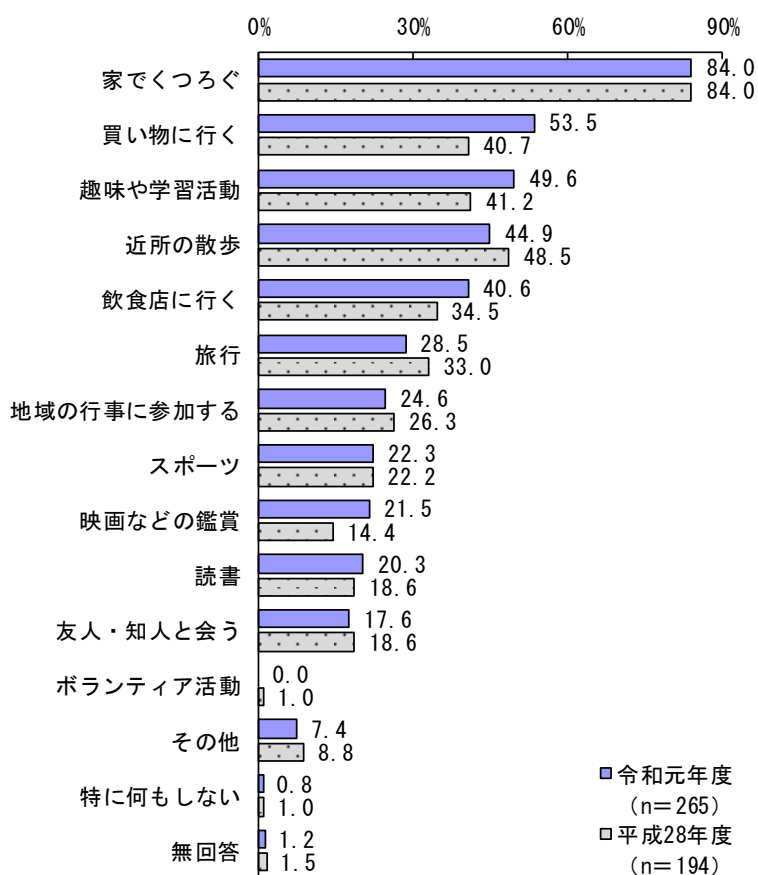
(単位：%)	n	大学や短期大学へ通う	専門学校や専修学校へ通う	フリースクールやサポート校へ通う	地域の身近にある学びの場へ通う	職業訓練学校へ通う	企業等へ就職する（一般就労）	自分で仕事をする（自営業など）
全体	30	20.0	3.3	3.3	3.3	6.7	26.7	3.3
障害別								
肢体不自由	4	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	4	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0
視覚障害	2	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
内部障害	3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
知的障害	19	0.0	0.0	5.3	0.0	5.3	36.8	5.3
発達障害	9	22.2	11.1	0.0	0.0	11.1	22.2	0.0
精神障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	4	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(単位：%)	n	就労移行支援や就労継続支援の事業所へ通う	自立訓練（生活訓練・機能訓練）事業所へ通う	生活介護事業所へ通う	その他	わからない	無回答
全体	30	16.7	0.0	6.7	6.7	3.3	0.0
障害別							
肢体不自由	4	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	4	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
視覚障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
内部障害	3	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0
知的障害	19	26.3	0.0	10.5	5.3	5.3	0.0
発達障害	9	11.1	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0
精神障害	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	4	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【保護者の希望】を障害別にみると、回答数が10以上の“知的障害”では、「企業等へ就職する（一般就労）」が36.8%と3割半ばを超えて最も高くなっています。

(9) 休日の過ごし方

問 38 あなたは、休日や余裕のあるときに、どのように過ごしていますか。(あてはまるものすべてに○)



休日の過ごし方は、「家でくつろぐ」が84.0%と8割を超えて突出して高く、次いで「買い物に行く」が53.5%、「趣味や学習活動」が49.6%、「近所の散歩」が44.9%と続いています。

平成28年度と比較すると、「買い物に行く」が12.8ポイント、「趣味や学習活動」が8.4ポイント、「映画などの鑑賞」が7.1ポイント、「飲食店に行く」が6.1ポイント上がっています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)		趣味や学 習活動	スポー ツ	ボラン ティア 活動	友人・ 知人と 会う	映画など の鑑賞	買い物 に行く	飲食店 に行く	読書	
	n									
全体	256	49.6	22.3	0.0	17.6	21.5	53.5	40.6	20.3	
障害別	肢体不自由	33	24.2	9.1	0.0	18.2	24.2	48.5	39.4	12.1
	音声・言語・そしやく機能障害	19	36.8	10.5	0.0	0.0	31.6	42.1	26.3	10.5
	視覚障害	15	46.7	20.0	0.0	20.0	6.7	53.3	46.7	0.0
	聴覚・平衡機能障害	6	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	33.3	16.7	0.0
	内部障害	19	36.8	5.3	0.0	15.8	15.8	47.4	31.6	15.8
	知的障害	123	43.9	22.8	0.0	9.8	22.8	52.8	38.2	13.8
	発達障害	136	56.6	22.1	0.0	17.6	20.6	52.2	38.2	25.0
	精神障害	4	50.0	0.0	0.0	25.0	25.0	50.0	25.0	25.0
	高次脳機能障害	3	33.3	33.3	0.0	0.0	66.7	66.7	33.3	0.0
	難病(特定疾病)	14	35.7	35.7	0.0	28.6	42.9	78.6	50.0	21.4
その他	5	40.0	20.0	0.0	20.0	20.0	40.0	40.0	40.0	

(単位:%)		旅行	家でく つろぐ	地域の行 事に参加 する	近所の 散歩	その他	特に何も しない	無回答	
	n								
全体	256	28.5	84.0	24.6	44.9	7.4	0.8	1.2	
障害別	肢体不自由	33	24.2	81.8	12.1	48.5	6.1	0.0	3.0
	音声・言語・そしやく機能障害	19	36.8	94.7	5.3	52.6	0.0	0.0	0.0
	視覚障害	15	40.0	86.7	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	6	16.7	66.7	16.7	83.3	16.7	0.0	0.0
	内部障害	19	15.8	78.9	10.5	52.6	0.0	5.3	0.0
	知的障害	123	35.0	85.4	22.8	48.8	6.5	0.8	0.8
	発達障害	136	27.2	84.6	24.3	41.9	8.8	0.7	1.5
	精神障害	4	50.0	50.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0
	高次脳機能障害	3	66.7	66.7	33.3	66.7	33.3	0.0	0.0
	難病(特定疾病)	14	35.7	85.7	7.1	57.1	0.0	0.0	0.0
その他	5	20.0	60.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	

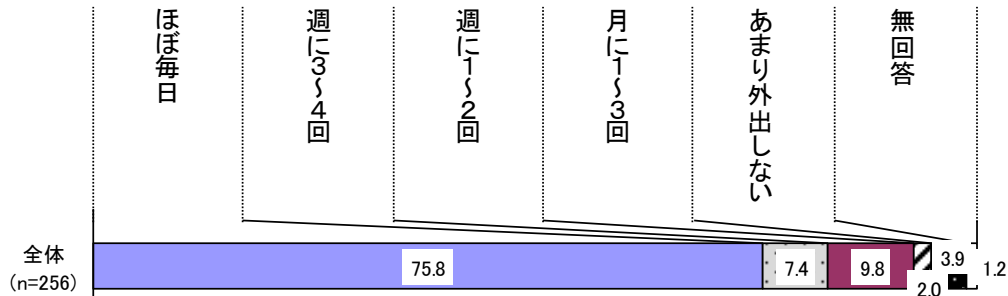
障害別にみると、「聴覚・平衡機能障害」以外のいずれの障害も「家でくつろぐ」が最も高くなっています。

“発達障害”では、「趣味や学習活動」が56.6%と5割を超えて他の障害よりも高くなっています。

6 外出や住まいについて

(1) 外出の頻度

問 39 あなたは、どのくらいの頻度で外出していますか。(〇はひとつ)



外出の頻度は、「ほぼ毎日」が75.8%と全体の4分の3を占めて最も高く、次いで「週に1~2回」が9.8%、「週に3~4回」が7.4%と続いています。

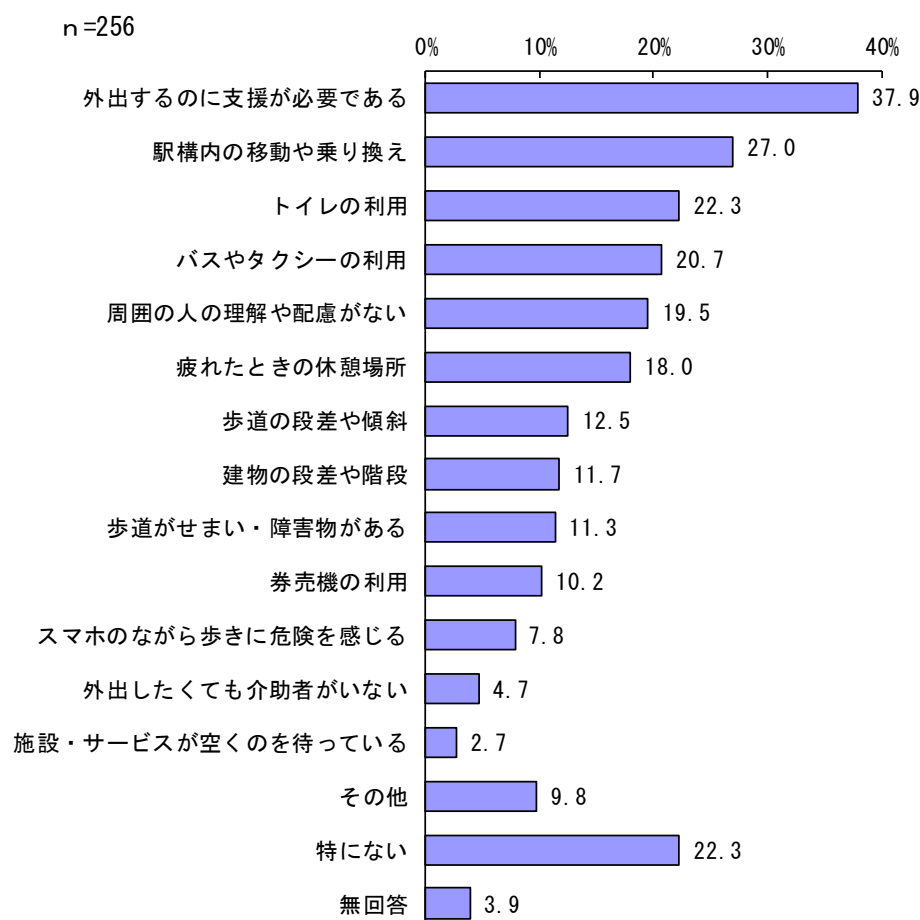
【クロス集計】障害別

(単位: %)	n	ほぼ毎日	週に3~4回	週に1~2回	月に1~3回	あまり外出しない	無回答
全体	256	75.8	7.4	9.8	2.0	3.9	1.2
障害別							
肢体不自由	33	69.7	6.1	9.1	3.0	9.1	3.0
音声・言語・そしゃく機能障害	19	84.2	5.3	5.3	0.0	5.3	0.0
視覚障害	15	73.3	13.3	6.7	6.7	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	6	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
内部障害	19	73.7	5.3	21.1	0.0	0.0	0.0
知的障害	123	81.3	5.7	9.8	0.8	2.4	0.0
発達障害	136	71.3	9.6	11.8	2.2	3.7	1.5
精神障害	4	50.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0
高次脳機能障害	3	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0
難病(特定疾病)	14	78.6	0.0	14.3	7.1	0.0	0.0
その他	5	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

障害別にみると、いずれの障害でも、「ほぼ毎日」が最も高くなっています。

(2) 外出時の困りごと

問 40 あなたは、外出に関してどのようなことで困っていますか。(あてはまるものすべてに○)



外出時の困りごとは、「外出するのに支援が必要である」が 37.9%と 3 割半ばを超えて最も高く、次いで「駅構内の移動や乗り換え」が 27.0%、「トイレの利用」が 22.3%、「バスやタクシーの利用」が 20.7%と 2 割台が続いています。

一方、「特にない」は 22.3%と 2 割を超えています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	歩道の段差や傾斜	建物の段差や階段	バスやタクシーの利用	駅構内の移動や乗り換え	券売機の利用	トイレの利用	歩道がせまい・障害物がある	疲れたときの休憩場所
全体	256	12.5	11.7	20.7	27.0	10.2	22.3	11.3	18.0
障害別									
肢体不自由	33	45.5	45.5	45.5	51.5	6.1	48.5	24.2	24.2
音声・言語・そしゃく機能障害	19	36.8	21.1	47.4	36.8	10.5	52.6	26.3	42.1
視覚障害	15	40.0	26.7	40.0	60.0	13.3	60.0	40.0	26.7
聴覚・平衡機能障害	6	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7	16.7	0.0
内部障害	19	26.3	21.1	26.3	31.6	0.0	42.1	21.1	31.6
知的障害	123	15.4	12.2	27.6	37.4	17.1	31.7	13.8	18.7
発達障害	136	3.7	4.4	17.6	16.9	8.8	16.9	5.9	16.9
精神障害	4	25.0	25.0	25.0	50.0	25.0	25.0	0.0	50.0
高次脳機能障害	3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	66.7	66.7
難病（特定疾病）	14	35.7	50.0	35.7	50.0	14.3	50.0	21.4	21.4
その他	5	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	20.0	0.0	0.0

(単位:%)	n	施設・サービスが空くの待っている	スマホのながら歩きに危険を感じる	外出するのに支援が必要である	外出したくても介助者がいない	周囲の人の理解や配慮がない	その他	特にない	無回答
全体	256	2.7	7.8	37.9	4.7	19.5	9.8	22.3	3.9
障害別									
肢体不自由	33	6.1	3.0	57.6	9.1	18.2	6.1	6.1	3.0
音声・言語・そしゃく機能障害	19	10.5	5.3	57.9	10.5	31.6	5.3	5.3	0.0
視覚障害	15	0.0	33.3	46.7	0.0	13.3	13.3	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	6	0.0	16.7	16.7	16.7	33.3	0.0	50.0	0.0
内部障害	19	5.3	10.5	31.6	0.0	0.0	0.0	10.5	5.3
知的障害	123	4.9	5.7	59.3	8.9	22.0	5.7	12.2	2.4
発達障害	136	2.9	5.9	29.4	5.1	19.9	14.7	27.2	2.2
精神障害	4	0.0	25.0	50.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0
高次脳機能障害	3	66.7	0.0	66.7	33.3	66.7	33.3	0.0	0.0
難病（特定疾病）	14	7.1	7.1	64.3	14.3	35.7	0.0	0.0	7.1
その他	5	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0

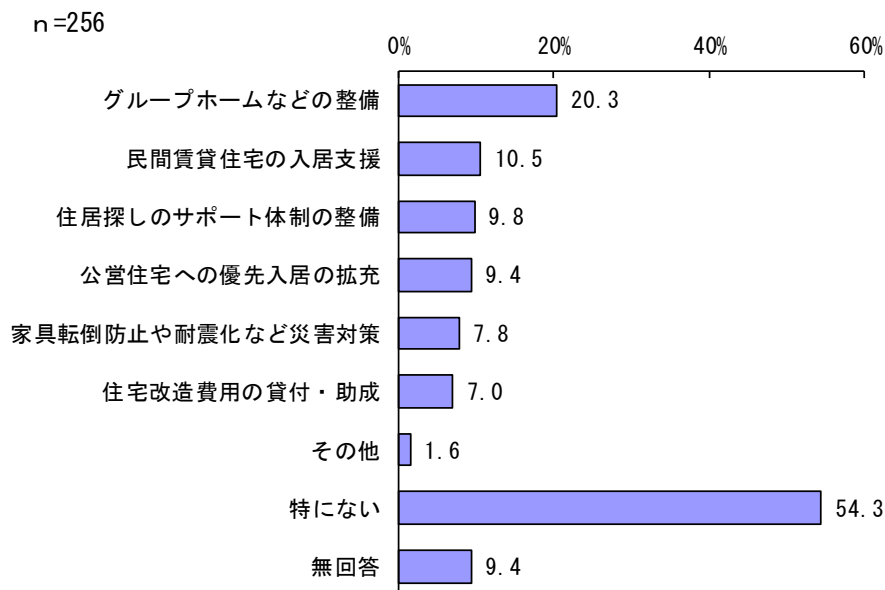
障害別にみると、“視覚障害”と“内部障害”では「トイレの利用」が最も高く、“視覚障害”では「駅構内の移動や乗り換え」も同じ割合で最も高くなっています。

“聴覚障害”と“その他”では「特にない」が最も高くなっています。

それ以外の障害ではいずれも「外出するのに支援が必要である」が最も高くなっています。

(3) 住まいで必要な支援

問 41 住まいに関してどのような支援を必要としていますか。(あてはまるものすべてに○)



住まいで必要な支援は、「グループホームなどの整備」が20.3%と2割で最も高く、次いで「民間賃貸住宅の入居支援」が10.5%と続いており、それ以外の項目は1割を切っています。

一方、「特にない」は54.3%と5割半ば近くを占めています。

【クロス集計】障害別

(単位：%)		住宅改造費用 の貸付・助成	家具転倒防止 や耐震化など 災害対策	公営住宅への 優先入居の拡 充	民間賃貸住宅 の入居支援	グループホーム などの整備	
n							
全体		256	7.0	7.8	9.4	10.5	20.3
障害別	肢体不自由	33	18.2	3.0	6.1	6.1	36.4
	音声・言語・そしゃく機能障害	19	10.5	10.5	15.8	5.3	57.9
	視覚障害	15	6.7	13.3	26.7	40.0	26.7
	聴覚・平衡機能障害	6	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7
	内部障害	19	5.3	0.0	15.8	5.3	5.3
	知的障害	123	9.8	6.5	9.8	12.2	35.8
	発達障害	136	5.9	10.3	9.6	12.5	16.9
	精神障害	4	25.0	25.0	0.0	0.0	50.0
	高次脳機能障害	3	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7
	難病（特定疾病）	14	21.4	7.1	0.0	14.3	50.0
その他	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

(単位：%)		住居探しのサ ポート体制の 整備	その他	特にない	無回答	
n						
全体		256	9.8	1.6	54.3	9.4
障害別	肢体不自由	33	12.1	3.0	33.3	15.2
	音声・言語・そしゃく機能障害	19	15.8	0.0	26.3	5.3
	視覚障害	15	26.7	0.0	33.3	6.7
	聴覚・平衡機能障害	6	16.7	0.0	66.7	16.7
	内部障害	19	5.3	0.0	63.2	10.5
	知的障害	123	12.2	1.6	43.9	8.1
	発達障害	136	7.4	2.2	56.6	8.8
	精神障害	4	0.0	0.0	50.0	0.0
	高次脳機能障害	3	33.3	0.0	0.0	33.3
	難病（特定疾病）	14	21.4	0.0	28.6	0.0
その他	5	0.0	0.0	100.0	0.0	

障害別にみると、“視覚障害”、“内部障害”、“その他”以外のいずれの障害も「グループホームなどの整備」が最も高くなっています。

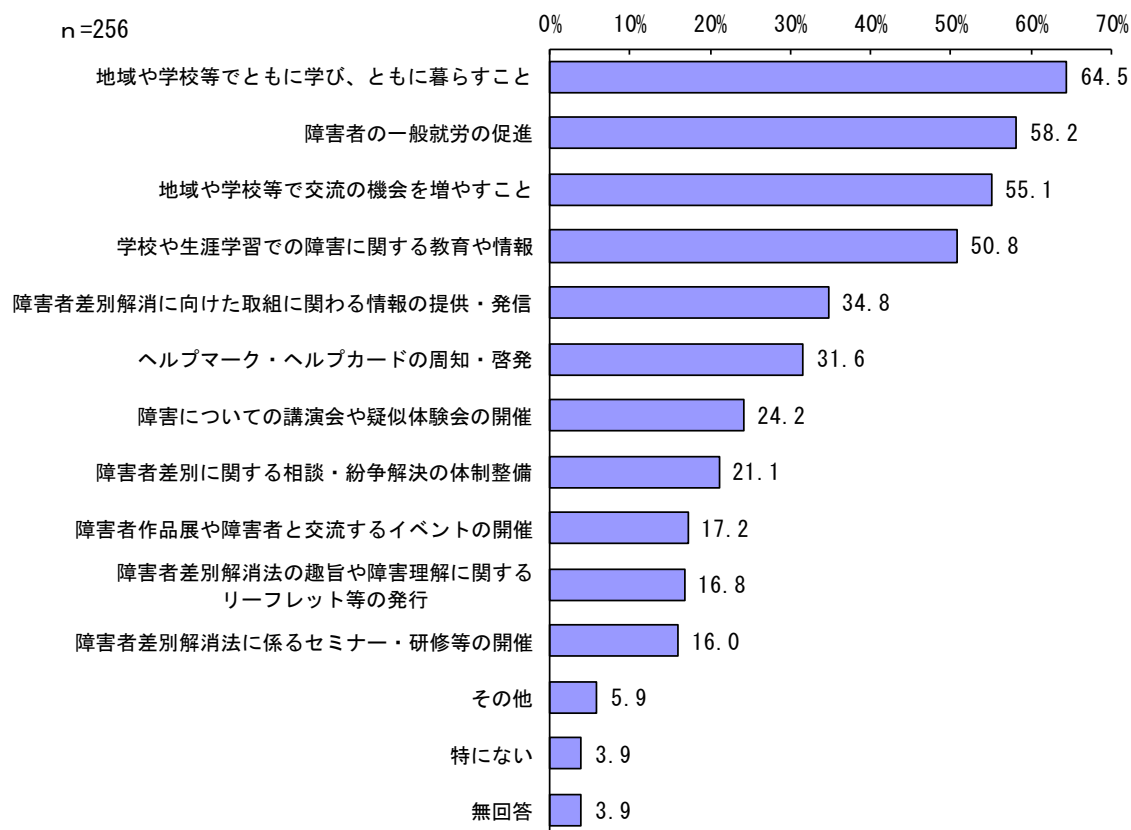
“視覚障害”では「民間賃貸住宅の入居支援」が40.0%と他の障害に比べ突出して高くなっています。

“内部障害”では「公営住宅への優先入居の拡充」が15.8%と最も高くなっています。

7 差別解消について

(1) 差別解消に必要なこと

問 42 障害者の差別解消を進めていくために必要なことはなんだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)



障害者の差別解消を進めていくために必要なことは、「地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと」が64.5%と6割を超えて最も高く、次いで「障害者の一般就労の促進」が58.2%、「地域や学校等で交流の機会を増やすこと」が55.1%、「学校や生涯学習での障害に関する教育や情報」が50.8%と5割台が続いています。

一方、「特にない」は3.9%となっています。

【クロス集計】障害別

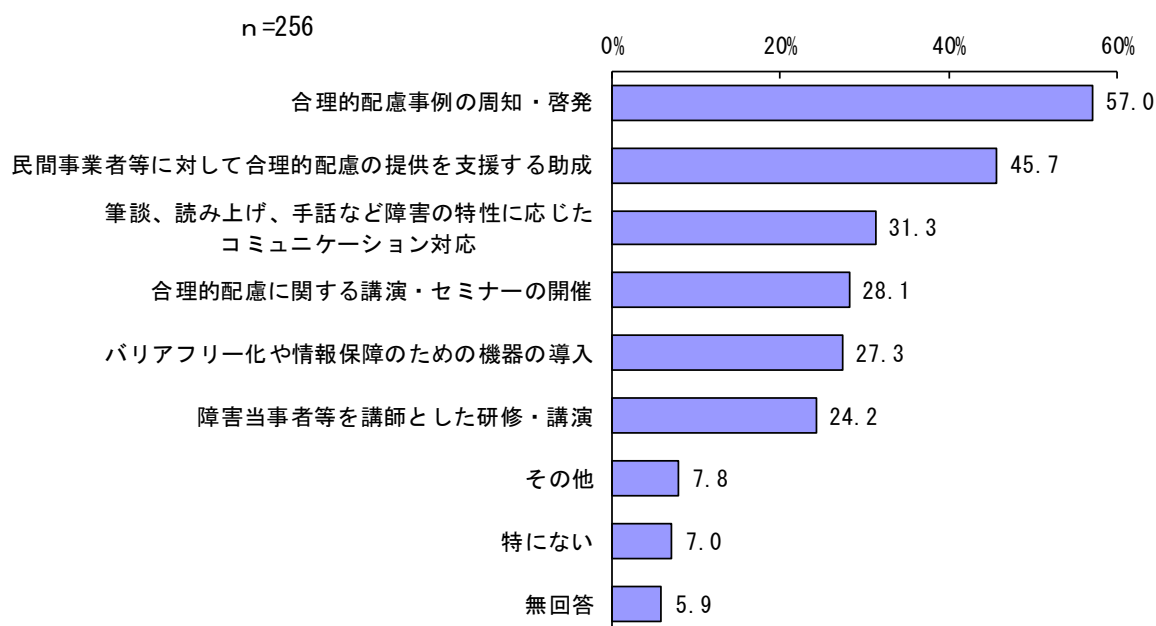
(単位:%)	n	障害者差別に関する相談・紛争解決の体制整備	障害者差別解消に向けた取組に関する情報の提供・発信	障害者差別解消に係るセミナー・研修等の開催	障害者差別解消法の趣旨や障害理解に関するリーフレット等の発行	障害者作品展や障害者と交流するイベントの開催	地域や学校等で交流の機会を増やすこと	地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと
全体	256	21.1	34.8	16.0	16.8	17.2	55.1	64.5
障害別								
肢体不自由	33	15.2	30.3	12.1	30.3	21.2	45.5	54.5
音声・言語・そしゃく機能障害	19	26.3	52.6	21.1	21.1	26.3	84.2	52.6
視覚障害	15	13.3	13.3	0.0	13.3	13.3	73.3	60.0
聴覚・平衡機能障害	6	50.0	50.0	33.3	16.7	16.7	66.7	66.7
内部障害	19	15.8	42.1	15.8	21.1	10.5	42.1	47.4
知的障害	123	22.8	40.7	18.7	22.8	23.6	67.5	72.4
発達障害	136	19.1	38.2	17.6	16.2	16.9	53.7	65.4
精神障害	4	0.0	75.0	25.0	50.0	0.0	75.0	75.0
高次脳機能障害	3	0.0	33.3	0.0	0.0	66.7	66.7	66.7
難病（特定疾病）	14	21.4	42.9	14.3	28.6	28.6	64.3	64.3
その他	5	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	60.0	80.0

(単位:%)	n	学校や生涯学習での障害に関する教育や情報	障害についての講演会や疑似体験会の開催	障害者の一般就労の促進	ヘルプマーク・ヘルプカードの周知・啓発	その他	特になし	無回答
全体	256	50.8	24.2	58.2	31.6	5.9	3.9	3.9
障害別								
肢体不自由	33	42.4	27.3	36.4	39.4	9.1	3.0	9.1
音声・言語・そしゃく機能障害	19	52.6	36.8	52.6	42.1	0.0	0.0	0.0
視覚障害	15	53.3	26.7	46.7	20.0	0.0	6.7	0.0
聴覚・平衡機能障害	6	100.0	50.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
内部障害	19	31.6	21.1	63.2	42.1	10.5	0.0	0.0
知的障害	123	55.3	28.5	72.4	34.1	2.4	2.4	2.4
発達障害	136	52.2	23.5	53.7	31.6	7.4	3.7	4.4
精神障害	4	25.0	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	3	33.3	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	14	35.7	28.6	42.9	64.3	7.1	7.1	7.1
その他	5	40.0	20.0	80.0	40.0	0.0	20.0	0.0

障害別にみると、「音声・言語・そしゃく機能障害」、「視覚障害」、「聴覚・平衡機能障害」以外のいずれの障害も、「地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと」が最も高くなっています。「地域や学校等で交流の機会を増やすこと」はいずれの障害でも4割以上と高く、特に「音声・言語・そしゃく機能障害」で84.2%と8割を超えて他の障害よりも高くなっています。「知的障害」では、「障害者の一般就労の促進」が72.4%と7割を超えて最も高くなっています。

(2) 合理的配慮に必要なこと

問 43 社会的障壁の除去に向けて、合理的配慮を進めていくために必要なことはなんだと思われるか。(あてはまるものすべてに○)



合理的配慮を進めていくために必要なことは、「合理的配慮事例の周知・啓発」が57.0%と5割半ばを超えて最も高く、次いで「筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応」が31.3%と続いています。

一方、「特にない」は7.0%となっています。

【クロス集計】障害別

(単位：%)	n	合理的配慮に関する講演・セミナーの開催	合理的配慮事例の周知・啓発	筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応	バリアフリー化や情報保障のための機器の導入	障害当事者等を講師とした研修・講演
全体	256	28.1	57.0	31.3	27.3	24.2
障害別						
肢体不自由	33	9.1	42.4	21.2	57.6	18.2
音声・言語・そしゃく機能障害	19	26.3	52.6	31.6	42.1	31.6
視覚障害	15	6.7	33.3	33.3	33.3	13.3
聴覚・平衡機能障害	6	50.0	83.3	83.3	66.7	66.7
内部障害	19	10.5	63.2	26.3	21.1	15.8
知的障害	123	31.7	62.6	33.3	24.4	27.6
発達障害	136	30.9	60.3	30.9	22.1	22.8
精神障害	4	25.0	100.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	3	0.0	0.0	33.3	66.7	33.3
難病（特定疾病）	14	7.1	50.0	28.6	57.1	21.4
その他	5	0.0	40.0	0.0	20.0	40.0

(単位：%)	n	民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成	その他	特にない	無回答
全体	256	45.7	7.8	7.0	5.9
障害別					
肢体不自由	33	36.4	9.1	3.0	6.1
音声・言語・そしゃく機能障害	19	47.4	0.0	5.3	5.3
視覚障害	15	46.7	13.3	6.7	6.7
聴覚・平衡機能障害	6	50.0	0.0	0.0	0.0
内部障害	19	63.2	10.5	5.3	0.0
知的障害	123	56.1	7.3	4.1	7.3
発達障害	136	41.2	7.4	9.6	5.1
精神障害	4	50.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	3	66.7	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	14	35.7	7.1	7.1	0.0
その他	5	40.0	0.0	20.0	0.0

障害別にみると、「肢体不自由」、「視覚障害」、「高次脳機能障害」、「難病（特定疾病）」以外のいずれの障害も、「合理的配慮事例の周知・啓発」が最も高くなっています。

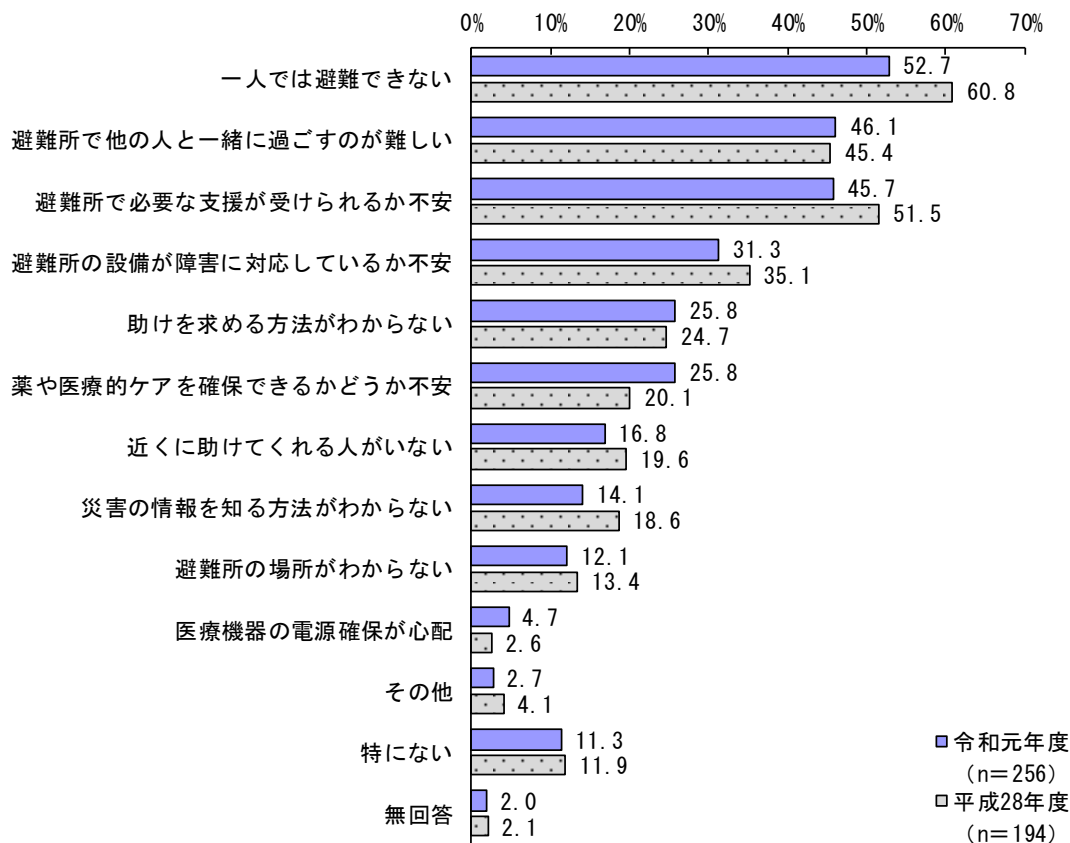
「肢体不自由」と「難病（特定疾病）」では、「バリアフリー化や情報保障のための機器の導入」が5割を超えて最も高くなっています。

また、「民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成」はいずれの障害も3割以上で高くなっています。

8 災害対策について

(1) 災害発生時の困りごと

問 44 あなたやご家族の方が、地震などの災害が発生したときに困ることや不安なことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)



災害発生時の本人や家族の困りごとは、「一人では避難できない」が52.7%と5割を超えて最も高く、次いで「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」が46.1%、「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が45.7%と4割台で続いています。

一方、「特にない」は11.3%となっています。

平成28年度と比較すると、「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」が5.7ポイント、「医療機器の電源確保が心配」が2.1ポイント上がっていますが、全体に平成28年度よりも下がっている項目が多く、特に「一人では避難できない」が8.1ポイント、「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が5.8ポイント下がっています。

【クロス集計】障害別

(単位：%)	n	災害の情報を 知る方法がわ からない	助けを求め る方法がわか らない	避難所の 場所がわか らない	近くに助け てくれる人が いない	一人では 避難でき ない	避難所の設備 が障害に対応 しているか不 安	避難所で必要 な支援が受け られるか不安
全体	256	14.1	25.8	12.1	16.8	52.7	31.3	45.7
障害別								
肢体不自由	33	3.0	21.2	3.0	21.2	69.7	66.7	63.6
音声・言語・そしやく機能障害	19	10.5	36.8	26.3	31.6	78.9	68.4	68.4
視覚障害	15	20.0	26.7	20.0	33.3	53.3	46.7	66.7
聴覚・平衡機能障害	6	16.7	16.7	16.7	0.0	50.0	33.3	83.3
内部障害	19	5.3	15.8	10.5	5.3	57.9	42.1	57.9
知的障害	123	18.7	33.3	17.9	21.1	67.5	39.8	52.0
発達障害	136	14.7	23.5	14.0	19.1	47.8	30.1	41.9
精神障害	4	0.0	50.0	25.0	75.0	75.0	50.0	25.0
高次脳機能障害	3	0.0	66.7	0.0	0.0	100.0	33.3	0.0
難病（特定疾病）	14	0.0	14.3	7.1	21.4	64.3	71.4	64.3
その他	5	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0	40.0

(単位：%)	n	避難所で他の 人と一緒に過 ごすのが難し い	薬や医療的ケ アを確保でき るかどうか不 安	医療機器の電 源確保が心配	その他	特にな	無回答
全体	256	46.1	25.8	4.7	2.7	11.3	2.0
障害別							
肢体不自由	33	24.2	51.5	21.2	6.1	12.1	0.0
音声・言語・そしやく機能障害	19	47.4	47.4	15.8	5.3	5.3	0.0
視覚障害	15	40.0	20.0	13.3	0.0	6.7	6.7
聴覚・平衡機能障害	6	0.0	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0
内部障害	19	15.8	68.4	21.1	5.3	5.3	0.0
知的障害	123	52.8	28.5	4.1	2.4	7.3	0.8
発達障害	136	58.8	19.1	1.5	1.5	11.8	2.9
精神障害	4	50.0	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	3	33.3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	14	35.7	64.3	28.6	0.0	0.0	0.0
その他	5	20.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0

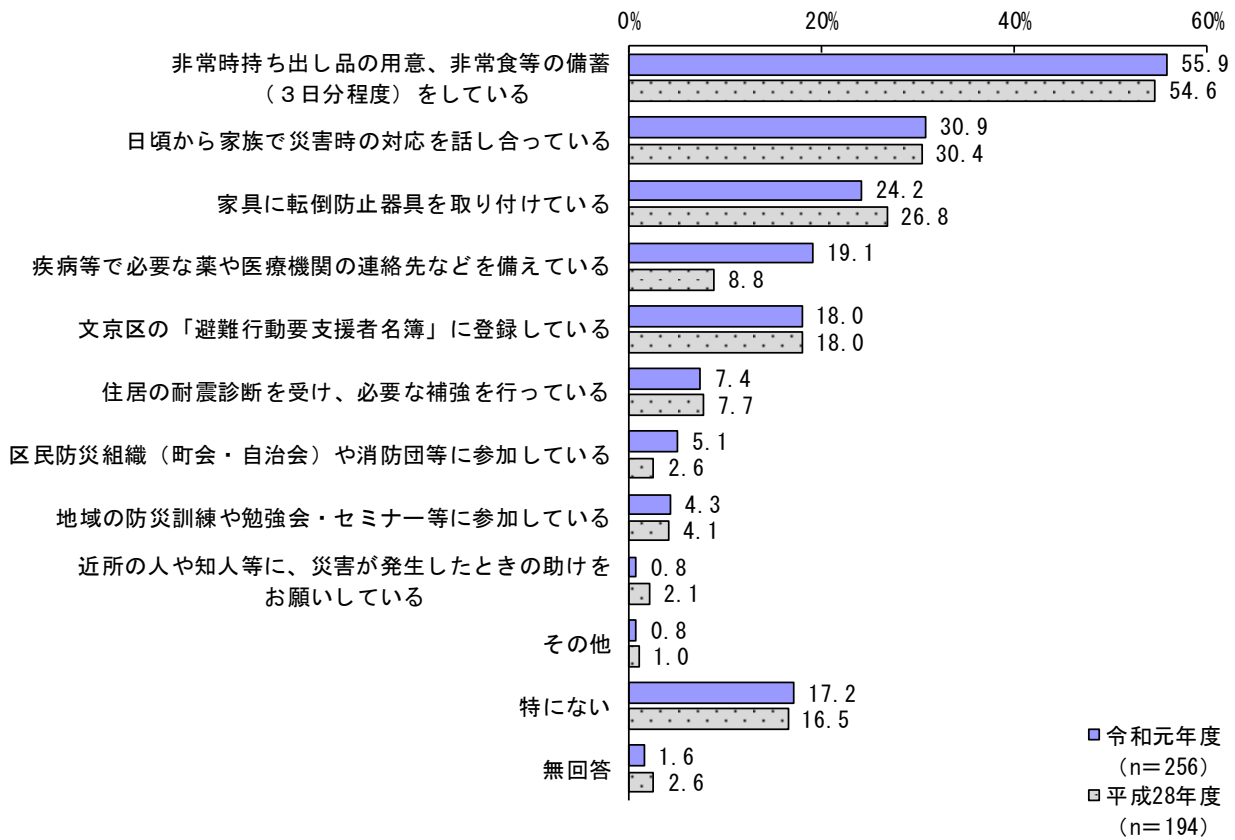
障害別にみると、「視覚障害」、「聴覚・平衡機能障害」、「内部障害」以外のいずれの障害も、「一人では避難できない」が最も高くなっています。

「視覚障害」、「聴覚・平衡機能障害」、「内部障害」、「難病（特定疾病）」、「その他」では、「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が最も高くなっています。

また、「内部障害」と「難病（特定疾病）」では、「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」が最も高くなっています。

(2) 災害に対する備え

問 45 あなたやご家族の方は、災害に対してどのような備えをしていますか。(あてはまるものすべてに○)



災害に対する本人や家族の備えは、「非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄 (3日分程度) をしている」が 55.5%と 5割半ばを超えて最も高く、次いで「日頃から家族で災害時の対応を話し合っている」が 30.9%、「家具に転倒防止器具を取り付けている」が 24.2%と続いています。

一方、「特にない」は 17.2%となっています。

平成 28 年度と比較すると、全体的な傾向は変わりませんが、「疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている」が 10.3 ポイント大きく上がっています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	日頃から家族で災害時の対応を話し合っている	非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄(3日分程度)をしている	疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている	近所の人や知人等に、災害が発生したときの助けをお願いしている	文京区の「避難行動要支援者名簿」に登録している	家具に転倒防止器具を取り付けている
全体	256	30.9	55.9	19.1	0.8	18.0	24.2
障害別							
肢体不自由	33	27.3	66.7	36.4	0.0	45.5	30.3
音声・言語・そしゃく機能障害	19	21.1	73.7	21.1	0.0	42.1	36.8
視覚障害	15	46.7	46.7	20.0	0.0	33.3	20.0
聴覚・平衡機能障害	6	16.7	66.7	0.0	0.0	16.7	33.3
内部障害	19	26.3	68.4	57.9	5.3	10.5	21.1
知的障害	123	33.3	58.5	22.0	0.8	29.3	32.5
発達障害	136	30.1	53.7	14.7	0.0	12.5	25.7
精神障害	4	0.0	0.0	25.0	0.0	50.0	0.0
高次脳機能障害	3	33.3	100.0	33.3	0.0	33.3	66.7
難病(特定疾病)	14	21.4	71.4	64.3	0.0	42.9	35.7
その他	5	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(単位:%)	n	住居の耐震診断を受け、必要な補強を行っている	区民防災組織(町会・自治会)や消防団等に参加している	地域の防災訓練や勉強会・セミナー等に参加している	その他	特になし	無回答
全体	256	7.4	5.1	4.3	0.8	17.2	1.6
障害別							
肢体不自由	33	6.1	6.1	6.1	3.0	12.1	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	19	5.3	0.0	5.3	0.0	10.5	0.0
視覚障害	15	20.0	0.0	0.0	0.0	13.3	0.0
聴覚・平衡機能障害	6	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7
内部障害	19	0.0	5.3	5.3	0.0	10.5	0.0
知的障害	123	7.3	4.9	3.3	0.0	11.4	0.0
発達障害	136	6.6	6.6	5.9	0.7	17.6	2.2
精神障害	4	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
高次脳機能障害	3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	14	7.1	7.1	0.0	0.0	14.3	0.0
その他	5	0.0	0.0	0.0	0.0	80.0	0.0

障害別にみると、“精神障害”と“その他”以外のいずれの障害も、「非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄(3日分程度)をしている」が最も高くなっています。

“視覚障害”では「日頃から家族で災害時の対応を話し合っている」が46.7%と4割半ばを超えて他の障害に比べ突出して高くなっています。

“内部障害”と“難病(特定疾病)”では、「疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている」が5割以上で他の障害に比べ突出して高くなっています。

また、“視覚障害”では、「住居の耐震診断を受け、必要な補強を行っている」が20.0%と他の障害に比べ突出して高くなっています。

9 自由意見

問 46 区の障害児（者）施策に関して、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

自由意見は 165 件ありました。「福祉」についての意見が 37.0%と最も多く、次いで「教育・療育」が 18.2%、「行政」が 15.2%、「情報・相談」が 10.9%となっています。

主な意見は下記の通りです。

	総数	福祉	教育・療育	行政	情報・相談	障害理解	将来	雇用・就労	保健・医療	アンケート	災害	生活環境	障害・疾患	その他
自由意見	165	37.0	18.2	15.2	10.9	4.8	4.2	3.0	2.4	1.2	1.2	0.6	0.6	0.6

◆主な意見（内容は要約・省略しています）

1. 福祉（61 件）

- ・就労以外の時間、または、就労を維持するのが難しくなった時、放課後デイサービスのように過ごせる場所があると嬉しいです。現状ではそういったサービスがないため、困っているという保護者の声をよく聞きます。
- ・発達障害幼児にもほんのわずかで良いので移動支援をつけてほしい。年に 5 時間、10 時間だけでも。親が急病の時、保育所やキッズルームに預けることは出来ても、そこから習いごとなどに連れて行くのはあきらめざるを得ない。就学前の児は親が付き添うのがあたりまえ、移動は必ず親が伴えるもの、という考え方には疑問を感じる。
- ・夏休み期間の放課後デイサービス時間短縮について、フルタイム勤務（男性と同じ時間働いている）の場合、本当に困ります。介護者の勤務状況で、フレキシブルに対応できると良いです。
- ・グループホームは、ぜひ増設をお願いします。文京区での土地の確保が難しいと思いますが、住みなれた地域で、生活できるように一層の助成をお願いします。今ある福祉センターのように、住まいと、余暇スペース（講習会などができる）があるような施設が増えるといいと思います。近隣の県で、文京区と提携した地域はあるのでしょうか。保養所のような余暇を過ごす場もできるいいと思います。就労も余暇も“学び”が止まってしまわないような支援をのぞみます。
- ・放課後デイサービスの業者が少ない。あっても 17:00 までと…親が働いていたら、その時間には間に合わない。送迎のない事業所がほとんど。（発達障害で精神的にも公共乗り物で移動することが困難なのに）利用負担もきびしい。共働きだと、所得制限にすぐひっかかってしまう。今、働くことが、求められている社会であるのに、夏休み等の預け先が確保できず、（放課後デイサービスはあっても 10:00-16:00）7:30 には出勤するのに、どうしたらいいか分からない。
- ・文京区内に学習支援のできる放課後デイサービスを増やして欲しい。普通級～支援級のハザマにいる子の支援が足りていないと思う。
- ・レスパイト事業が不十分だと思います。国立成育医療センターのもみじの家のような施設を区内の大学病院などと連携して新設してほしいです。利用年齢が 18 才までとされているところも不合理だと思います。18 才を超えても利用可能な態勢をお願いしたいです。トイレのことだけみても肢体不自由児（者）への施策が足りないと思います。ちょっとした工夫で大きく変えられると思います。

2. 教育・療育（30件）

- ・インクルーシブ教育について、もっと積極的に取り組む事を希望している。現在の住居の学校区にあるのは通常級のみで、本来であれば迷わずそこへ就学するべきだが、少し知的に弱い所がある我が子が何の配慮もなく6年間楽しく通えるか不安がある。合理的配慮がどのように受けられるのか？どんな子でも地元の小学校に安心して通える！通わせられる安心感が欲しい。教室不足の問題も不安の一つである。今だけと先に延ばさず、今満足出来る施策を期待しています。
- ・障害の程度は一人一人ちがいます。一人一人に合った教育が受けられることを希望します。学力向上だけが教育ではありません。思いやりのある子、弱い立場にいる人達にもっとよりそう人材育成が必要だと思います。医療的ケアが必要な子供はこれからもどんどんふえます。早急の対策をお願いします。
- ・教育センターで、学習障害（LDや算数障害など）の子のいる家庭の相談や支援や学習をしてほしい。
- ・知的障害がなくても学校の勉強についていけない人を対象とした人のためのクラスがあればよいと思う。又、そういう人を支援する組織があればよいと思う。（いわゆる知的グレーゾーンの人）
- ・通常学級での支援の充実を願います。各クラスに1～2名はいる時代ですから低学年は特に週に数日は各クラスに療育施設からの支援員の派遣や、学校の教育者への指導、研修等を増やして理解を深めてほしいと思います。

3. 行政（25件）

- ・文京区で提供しているサービスはたくさんあるようだが、かなりわかりにくかった。最近転入してきたので、どこの課にどんなサービスがあるのか窓口を1本化して申し込めるようにしてほしい。例えば文京区の避難行動要支援名簿の登録にも1年以上かかったり、かなり大変だった。また各種手帳の更新前には知らせて欲しい。
- ・幸い放課後デイサービスがすばらしく良い方向に成長しているので、そういう機関に対し、行政が財政的な支援を拡大していくべきだと思う。
- ・特別支援学校の高等部に通うとなると、スクールバスがない為自力で通うのが難しい生徒については、保護者やヘルパーさんが付き添って毎日下校していると聞いています。これから高校の事を考えると、この負担が大きいです。多くの保護者が高等部のスクールバスを望んでいるので、区でスクールバスを出す等していただけると、とても助かります。
- ・ヘルプマークに第一に対応できる行政（警察、消防等）の電話番号を印字してほしい。そこから保護者に連絡が行く等の配慮があると、安心だと思う。

4. 情報・相談（18件）

- ・支援学級に通っていると、区教育委員会などのイベント案内等の情報が入ってこないで受け取れるようにしてほしい（区立小に配布されるもの）
- ・小学校→中学校→と年齢が上がっていくにつれてどのような支援が受けられるのかが分からない。（受けられる支援がどのように変わっていくのかが分からない）。
- ・色々な制度をそれなりに整えていると思いますが、当事者が明確なニーズを認識しない限り利用できない、のが課題。私たちは役所が思っているより「漠然と」困っているので、「こういうサービスが利用できる」「こういうケースもある」ということを、もっと教えて欲しい。我が家は少なくとも年に1回は計画策定のために教育センターとやりとりがあるのだから、そのタイミングで、形式的なやり取りでなく、もっとより添った支援をして頂きたい。
- ・自分から情報を求めたり、申請をしなければならない。行政からの情報提供提案がなく、戸惑いを感じた。また、もっと早く情報があつて療育を利用できれば今以上に改善が見られたと思う。

5. 障害理解（8件）

- ・障害者が家族になることが誰にでもおこりうる。自分が事故等で障害者になる可能性があることを、小学校の通常級などでも意識させ、差別がないように（普通に接する&自然に無理のない手助けができるように）してほしい。
- ・障害児のケア、通院の為に会社を休まざるをえないため全企業で理解し対応してほしい。働かないといけませんが理解を得られず仕事を続けることが難しくなるとどうにもならなくなる為保護者に対しても少し考えてもらえると本当に助かります。
- ・障害者に対する差別などを減らすには理解する（知る）ということだけではなく考えることが大切だと思う。ただ知るだけでは差別を煽りかねないので義務教育での教育をより充実させるべきだと思う。
- ・本人の学校では、支援学級があり、周りの理解も進んでいると感じるが、きょうだい（上）の学校は先生方にそういった考えがないのが見受けられ、普通級を選択した（せざるを得なかった）家庭や本人が困っているのをよく見かける。小中（義務教育）での理解や生活は、周りの子供たちにも重要なことであり、20年後、30年後につながるものです。先生方には手本となっただけのよう、行政が合理的配慮の周知を推進をやって下さい。

6. 将来（7件）

- ・義務教育後の生活への不安がかなり大きく、同じ疾患の親たちの間では、「仕事をやめるしかないのか…」と話しています。もしくは、自分達でグループホーム立ち上げるか…。
- ・高校卒業までは特別支援学校があるので何とかなるような気がしているが、その後、入所施設に入れるかどうか不安。定員がある中で、入所者も高齢化が進み、空きがあるように思えない。
- ・中学校で特別支援学級に在籍していると、普通科の高校を受験（入学）できない（内申がつかず）。発達に遅れがあるので一般の子どもより成長がゆっくりなのに、将来の道すじを早い段階で大まかに決めなくてはいけない（障害枠での就職にするか等）のは保護者にとっても大きな精神的な負担になっている。子どもの可能性を信じたいが、今の制度では、成長をゆっくり待つという余裕がもてない。→将来への大きな不安となっている。

7. 雇用・就労（5件）

- ・就労先の増所。毎年卒業生が行く所がない。
- ・幼稚園から、特別支援学級の高等部まで、学齢期を過ごす中で、文京区における福祉のサービスには大変満足しています。福祉課の職員の皆さんもとても親切に対応してくださっています。しかし、子どもが高等部卒業の年となり、様々な事業所に実習に行っていますが、「働く」「社会の一員として貢献する」という理念や、可能性、伸長することへの期待が、区内の事業所には見られません。高等部までに培ってきたものが、つながって生かされず残念に思います。専門家やプロの職人さんを入れた事業を行うことで、働くことへの意識向上や、工賃のupにつなげていただきたいと思います。
- ・知的障がいのある人が文京区内で働ける場が増える事を望みます。特別支援学校の高等部では、卒業後すぐに就労することをめざしてカリキュラムが組まれています。ゆっくりと成長し、学びに時間がかかる障がいのある人が、通常よりも時間をかけて学び、就労の準備をして、地域で働けるシステム作りが必要です。結果的には障がいのある人の自立を促し孤立を防ぎ、地域の活性にもつながるのではないのでしょうか。

8. 保健・医療（4件）

- ・子どもインフルエンザワクチン助成は文京区内の指定医療機関に限定されているが、医療的ケア児は医療機器があるため訪問診療（区外でしか対応する診療所がない）を利用したりかかりつけの大学病院（区外）でしかワクチン接種をしていないため、そういったケースでの特例のインフルエンザワクチン助成もおこなってほしい。インフルエンザワクチンを打つために文京区内で新たに病院を増やすのは病院間の連携や緊急時などに不安が残る。
- ・障害児（者）歯科診療は、区でも都でもあるのに、耳鼻科、眼科が全くないのが困っています。歯科同様、耳鼻科、眼科も診療をお願いしたいと思います。特に自閉症児は耳の周りをさわられるのが嫌な方が多いです。一般の方と同じ医院へ行き、待合室で待っている時に騒いでしまって、周囲の方に不快を与えるのも苦痛です。

9. アンケート（2件）

- ・アンケートの項目の語句の説明がそのページの下部にあると回答しやすくなります。自分(子ども)の受けているサービスがどれに当たるのかわかりづらく、途中で止めたい気持ちになりました。資料もわかりそうでわかりづらいです。
- ・障害というものに対して質問を同じにするのは答える側として不満があります。千差万別ですので、それぞれの障害に合わせた質問を作成するないし、個別に対応することがスタートだと思っています。毎年書いていますが、何も変わってないし、調査結果も個人情報のため出せないのかわかりませんが feedback がないのも何がしたいのかわかりません。

10. 災害（2件）

- ・ 宿泊を伴う防災訓練（避難訓練）、模擬避難生活の開催により、各自の必要な準備と行政の準備を確認すると良いと思う。
- ・ 災害時、地域別に避難状況や安否情報をどのように行うのか、日頃の状況でも町会等声かけ合うこともなく、とても不安です。

11. 生活環境（1件）

- ・ 小学生になってから、急用での預け先がなく、困っています。又、運動させ、身体機能の成長・発達を促したいが、走ったり、ボールを使える場所がなく、他区の広い公園まで行っている。区内に施設があれば毎日等継続的に運動できるのに、と感じています。

12. 障害・疾患（1件）

- ・ 知的な遅れはない発達障がい児で、医療的ケアは服薬とぜん息の吸引程度のため受給者証のみですが、遠方への通院や、外出時パニックになった時のタクシー利用、放課後デイの送迎等、交通費がとともかかります。他にも、特性から痛みを我慢できず、大した事がなくても病院へ行くまでパニックがおさまらず、かといって夜間救急にかけこむ程ではない為、区外の深夜まで診療を行っているクリニックまでタクシーで向かう、こだわりから徒歩で行ける場所でも一旦バスで〇〇へ行って電車に乗り換えなければ気が済まない…等。

13. その他（1件）

- ・ 長男のときから手厚く支援頂いており大変感謝しております。発達障害のみならず様々な特性を持った個人が皆生き易い社会になることを願ってやみません。

